IBM System Migration Assistant 4.2

ユーザーズ・ガイド

IBM System Migration Assistant 4.2

ユーザーズ・ガイド

お願い: 本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、 107 ページの『付録 D. 特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原　典: IBM System Migration Assistant 4.2
User's Guide

発　行: 日本アイ・ビー・エム株式会社

担　当: ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財) 日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

図 v

本書について vii
本書の構成 vii
本書で使用している通知 vii
本書で使用している構文規則 viii
ワールド・ワイド・ウェブの IBM System Migration Assistant リソース. . . . viii

第 1 章 Migration Assistant の紹介 1
概要とコンポーネント. 1
SMA の機能 1
SMA コンポーネント 2
システム要件 2
ハードウェア要件 2
サポートされるオペレーティング・システム 3
サポートされる移行シナリオ 3
前のリリースからのアップグレード. 4
System Migration Assistant 4.2 の新機能 4

第 2 章 System Migration Assistant のインストールとアンインストール . . 5
SMA 4.2 のインストール 5
標準 SMA インストールの実行 5
サイレント SMA インストールの実行. 8
SMA のアンインストール 11

第 3 章 標準移行の実行 13
ログオンについての考慮事項. 13
マルチユーザー・プロファイルの移行 13
SMA プロファイルの作成 15
SMA プロファイルの適用 32
プロファイルの編集と適用. 36

第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行 47
smabat 構文 47
コマンド・ファイルの作成. 48
コマンド・ファイルのコマンド 49
ファイル移行コマンド 53
ファイル移行コマンドの例. 58
コマンド・ファイル・テンプレートの作成 60
バッチ・モードでのプロファイルの適用. 61
バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行. 61
バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行. 62

第 5 章 ピアツーピア移行の実行 65
ピアツーピア接続のセットアップ 65
標準ピアツーピア移行の実行 66
バッチ・モードでのピアツーピア移行の実行 71

第 6 章 拡張管理トピック 73
標準移行のカスタマイズ 73

© Copyright IBM Corp. 2004

GUI を使用した標準移行のカスタマイズ 73
config.ini ファイルの編集による標準移行のカスタマイズ 79
レジストリー設定の移行 85
GUI を使用したレジストリー設定の移行 85
バッチ・モードを使用したレジストリー設定の移行 86
追加アプリケーション設定の移行 86
アプリケーション・ファイルの作成 90
Adobe Reader 用のアプリケーション・ファイルの例 94

付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定 95

付録 B. ファイルおよびレジストリーの除外 103
ファイルとディレクトリーの除外. 103
レジストリーの除外. 104

付録 C. ヘルプと技術支援の入手 105
電話を掛ける前に 105
資料の使用 105
ワールド・ワイド・ウェブからのヘルプと情報の入手 106
ソフトウェアの保守およびサポート 106

付録 D. 特記事項 107
商標 108

索引 109

図

1. SMA のインストール: 「設定言語の選択 (Choose Setup Language)」ウィンドウ 5
2. SMA のインストール: 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウ 6
3. SMA のインストール: 「使用許諾契約」ウィンドウ 6
4. SMA のインストール: 「インストール先の選択 (Choose Destination Location)」ウィンドウ. . . . 7
5. SMA のインストール: 「プログラム フォルダの選択 (Select Program Folder)」ウィンドウ 7
6. SMA のインストール: 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウ 8
7. 標準移行の実行: マルチユーザー移行 14
8. 設定の取り込み: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 16
9. 設定の取り込み: 「移行オプション」ウィンドウ 16
10. 設定の取り込み: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ. 17
11. 設定の取り込み: 「デスクトップ設定」ウィンドウ 18
12. 設定の取り込み: 「アプリケーション設定」ウィンドウ. 20
13. 設定の取り込み: 「ネットワーク設定」ウィンドウ 21
14. 設定の取り込み: 「ファイルの選択-関連」ウィンドウ 22
15. 設定の取り込み: 「ファイルの選択 - 階層」ウィンドウ 23
16. 設定の取り込み: 「ファイルの選択 - 検索」ウィンドウ 23
17. 設定の取り込み: ファイル場所の選択 24
18. 設定の取り込み: 「マイ ドキュメントの宛先 (My Documents Destination)」ウィンドウ. 24
19. 設定の取り込み: 「新規パスの宛先」ウィンドウ 25
20. 設定の取り込み: 「プリンター」ウィンドウ. 26
21. 設定の取り込み: 「移行手段の選択」ウィンドウ 27
22. 設定の取り込み: 「TSM パスワード」ウィンドウ. 28
23. 設定の取り込み: 「SMA ファイルとして保管」ウィンドウ 28
24. 設定の取り込み: 「メモ書きの追加」ウィンドウ 29
25. 設定の取り込み: 「プロファイル保護」ウィンドウ 30
26. 設定の取り込み: 「コピーの進行」ウィンドウ 31
27. 設定の取り込み: 「移行の要約」ウィンドウ. 31
28. 設定の適用: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 33
29. 設定の適用: 「移行手段の選択」ウィンドウ. 33
30. 設定の適用: 「SMA ファイルから開く」ウィンドウ. 34
31. 設定の適用: 「メモ書きの追加」ウィンドウ. 34
32. 設定の適用: 「コピーの進行」ウィンドウ. 35
33. 設定の適用: 「移行の要約」ウィンドウ 35
34. プロファイルの編集と適用: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 37
35. プロファイルの編集と適用: 「移行手段の選択」ウィンドウ 37
36. プロファイルの編集と適用: 「SMA ファイルから開く」ウィンドウ 38
37. プロファイルの編集と適用: 「メモ書きの追加」ウィンドウ 38
38. プロファイルの編集と適用: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ. 39
39. プロファイルの編集と適用: 「デスクトップ設定」ウィンドウ 40
40. プロファイルの編集と適用: 「アプリケーション設定」ウィンドウ 40
41. プロファイルの編集と適用: 「ネットワーク設定」ウィンドウ 41
42. プロファイルの編集と適用: 「変更可能なネットワーク設定」 42
43. プロファイルの編集と適用: 「ファイルの選択 - 階層」ページ 43
44. プロファイルの編集と適用: 「プリンター」ウィンドウ. 43
45. プロファイルの編集と適用: 「ドメイン権限ダイアログ」ウィンドウ. 44
46. プロファイルの編集と適用: 「コピーの進行」ウィンドウ 44
47. プロファイルの編集と適用: ソースの「移行の要約」ウィンドウ 45
48. バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行: ドメイン・ユーザーの移行 63

© Copyright IBM Corp. 2004

49. ピアツーピア移行: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 66
50. ピアツーピア移行: 「移行手段の選択」ウィンドウ 67
51. ピアツーピア移行: 「メモ書きの追加」ウィンドウ 67
52. ピアツーピア移行: 「プロファイル保護」ウィンドウ 68
53. ピアツーピア移行: 「パスワード」ウィンドウ 68
54. ピアツーピア移行: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 69
55. ピアツーピア移行: ターゲットの「コピーの進行」ウィンドウ 70
56. ピアツーピア移行: ソースの「移行の要約」ウィンドウ. 71
57. 標準移行のカスタマイズ: 「System Migration Assistant」ウィンドウ 74
58. 標準移行のカスタマイズ: 「設定ファイルの編集」ウィンドウ 74
59. レジストリー設定の移行: 「System Migration Assistant (レジストリー選択ウィンドウ)」 85
60. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ 91
61. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (レジストリー・キーを見つける) 91
62. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (インストール・パスを見つける) 92
63. 追加アプリケーション設定の移行: 「Documents and Settings」の下に入っているカスタマイズ・ファイル 93

本書について

本書は、IBM® System Migration Assistant (SMA) 4.2 のインストールと使用について説明しています。

本書の構成

1 ページの『第 1 章 Migration Assistant の紹介』では、System Migration Assistant (SMA) とその機能の概要を説明しています。

5 ページの『第 2 章 System Migration Assistant のインストールとアンインストール』では、SMA のインストールとアンインストールの手順を示しています。

13 ページの『第 3 章 標準移行の実行』では、SMA グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を使用して標準移行を実行する方法を説明しています。

47 ページの『第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行』では、移行をバッチ・モードで実行する方法について説明しています。

65 ページの『第 5 章 ピアツーピア移行の実行』では、標準モードとバッチ・モードの両方のモードでピアツーピア移行を実行する方法について説明しています。

73 ページの『第 6 章 拡張管理トピック』では、SMA GUI のカスタマイズ、レジストリー設定の移行、カスタム・アプリケーション・ファイルの作成など、追加アプリケーション設定の移行を可能にするための拡張管理用タスクについて説明しています。

95 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』には、サポートされるアプリケーションと移行が可能な設定の詳細リストが含まれています。

103 ページの『付録 B. ファイルおよびレジストリーの除外』には、移行から除外されたファイル、ディレクトリー、およびレジストリー項目に関する情報が含まれています。

105 ページの『付録 C. ヘルプと技術支援の入手』には、ヘルプと技術支援を受けるための IBM Support Web サイトへのアクセスについての情報を含んでいます。

107 ページの『付録 D. 特記事項』には、製品の特記事項と商標が含まれています。

本書で使用している通知

本書では、重要な情報を強調するために設計された以下の通知を使用しています。

- **注:** この通知は、重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。
- **重要:** この通知は、不便な状態または困難な状態を回避するのに役立つと思われる情報またはアドバイスを提供します。
- **アテンション:** この通知は、プログラム、装置、またはデータに損傷が生じる可能性があることを示します。アテンション通知は、損傷の発生が考えられる手順または状態の直前に示されます。

© Copyright IBM Corp. 2004

本書で使用している構文規則

本書での構文は、以下の規則に準拠しています。

- コマンドは小文字で示される。
- 変数はイタリックで示され、そのすぐ後に説明が続く。
- オプションのコマンドまたは変数は、大括弧で囲まれる。
- 複数のパラメーターのうちの 1 つを入力する必要がある場合、それらのパラメーターは垂直バーで分離される。
- デフォルト値には下線が引かれる。
- 反復可能パラメーターは、中括弧で囲まれる。

ワールド・ワイド・ウェブの IBM System Migration Assistant リソース

以下の Web ページは、SMA とシステム管理ツールを理解、使用、およびトラブルシューティングするためのリソースを示しています。

IBM System Migration Assistant 4.2 ホーム・ページ

http://www-307.ibm.com/pc/support/site.wss/document.do?lndocid=MIGR-50889

この Web ページは、最新の SMA ソフトウェアと資料をダウンロードしたい場合に使用します。

IBM Personal Computing Support - ThinkVantage Technologies ページ

http://www-307.ibm.com/pc/support/site.wss/document.do?lndocid=TVAN-START

この Web ページは、IBM ThinkVantage Technologies についての情報を検索したい場合に使用します。

IBM Personal Computing Support ページ

http://www-307.ibm.com/pc/support/site.wss/

この Web ページは、IBM Personal Computing Support Web サイトにアクセスしたい場合に使用します。

第 1 章 Migration Assistant の紹介

System Migration Assistant (SMA) は、システム管理者がユーザーの*作業環境* を、あるシステムから別のシステムに移行する場合に使用できるソフトウェア・ツールです。ユーザーの作業環境には、次のものがあります。

- オペレーティング・システム設定 (たとえば、デスクトップおよびネットワーク接続設定)
- ファイルとフォルダー
- カスタマイズされたアプリケーション設定 (たとえば、Web ブラウザーのブックマーク、Microsoft® ワードの編集設定)
- ユーザー・アカウント

システム管理者は、SMA を使用して、企業用の標準の作業環境をセットアップすることもできるし、個々のユーザーのコンピューターをアップグレードすることもできます。個々のユーザーは、SMA を使用して、コンピューターをバックアップすることもできるし、設定とファイルを 1 つのコンピューター・システムから別のコンピューター・システム (たとえば、デスクトップ・コンピューターからモバイル・コンピューター (ラップトップ)) に移行することもできます。

概要とコンポーネント

このセクションでは、SMA とそのコンポーネントを示します。

SMA の機能

SMA は、システムの作業環境のスナップショットを取って作業します。次に、このスナップショットを青図面として使用して、作業環境を別のシステムに複写します。 SMA がスナップショットを取るシステムはソース・システム です。スナップショットが複写されるシステムはターゲット・システム です。ソース・システムとターゲット・システムは、別々の物理位置に入れることもできるし、異なった時間帯に入れることさえできます。 SMA を使用して設定とファイルをバックアップまたは復元すると、ソース・システムとターゲット・システムは、同一システムにすることができます。

SMA が作業環境を 1 つのシステムから別のシステムに移行する場合、2 つのフェーズ、つまり、取り込みフェーズと適用フェーズを経由します。

取り込みフェーズ では、以下の項目をソース・システムから選択し、コピーすることができます。

- デスクトップ設定
- プリンター設定
- ネットワーク設定
- アプリケーション設定
- ファイルとフォルダー
- オペレーティング・システム・ユーザー・プロファイル

これらの設定とファイルは、*SMA プロファイル・ファイル* に保管されます。

© Copyright IBM Corp. 2004

適用フェーズ では、SMA はプロファイルをターゲット・システムに適用します。プロファイル全体を適用することもできるし、適用したいプロファイルのコンポーネントを指定することもできます。

SMA は、グラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) から実行することもできるし、コマンド行プロンプトから実行することもできます。

SMA コンポーネント

SMA には、以下のコンポーネントが含まれています。

sma.exe
設定とファイルをソース・システムから取り込み、それらをプロファイルにコピーする実行可能ファイル。この実行可能ファイルも、プロファイルをターゲット・コンピューターに適用します。

config.ini
SMA.EXE および GUI をカスタマイズするために使用する構成ファイル。

smabat.exe
バッチ・モードで使用するためのコマンド行インターフェースを提供する実行可能ファイル。

commandfile.txt
取り込みおよび適用プロセスをバッチ・モードで駆動するために使用するコマンド・ファイル。

″アプリケーション名″.smaapp
SMA によるアプリケーションの取り込みおよび適用方法を定義するために使用するアプリケーション・ファイル。

システム要件

このセクションでは、ハードウェア要件、サポートされるオペレーティング・システム、および有効な移行シナリオについて説明します。

ハードウェア要件

ソース・システムとターゲット・システムは、以下の条件を満たしていなければなりません。

- サポートされる Microsoft Windows® オペレーティング・システムがインストール済みでなければならない。
- ハード・ディスクが、SMA インストール・ファイル用に 10 MB の空きスペースを持っていなければならない。
- (ソース・システムのみ。) 取り込みフェーズで作成した一時ファイル用の空きスペースが、ハード・ディスクになければならない。必要なディスク・スペースは、作成された SMA プロファイルのサイズによって異なります。
- (ターゲット・システムのみ。) ターゲット・システムが SMA プロファイル・ファイルにアクセスできなければならない。ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)、取り外し可能メディア (ZIP ディスクなど)、またはイーサネット・クロスケーブルを使用できなければならない。

サポートされるオペレーティング・システム

SMA 4.2 は、以下のオペレーティング・システムにインストールできます。

- Windows 98
- Windows 98 Second Edition (SE)
- Windows NT® 4.0 Workstation
- Windows NT 4.0 Server
- Windows 2000 Professional
- Windows 2000 Server
- Windows XP Home
- Windows XP Professional

これ以降、Windows 98 と Windows 98 SE を Windows 98 と呼び、Windows XP Home と Windows XP Professional を Windows XP と呼びます (ただし、各ペアの 2 つのオペレーティング・システム・バージョンを区別しなければならない場合を除く)。

注:

1. ユーザー・プロファイルの移行は、Windows NT 4.0 Workstation、Windows NT 4.0 Server、Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server、Windows XP Home、および Windows XP Professional でサポートされています。
2. Windows 98 では、SMA は現在ログオンされているユーザーの作業環境のみを移行できます。
3. ソース・システムとターゲット・システムの両方が Windows 98 で実行されているとき、マルチユーザー・プロファイル移行はサポートされません。

サポートされる移行シナリオ

次の表は、有効な移行シナリオを示したものです。

表 1. SMA の紹介: サポートされる移行シナリオ

ソース・システムで稼働するオペレーティング・システム	ターゲット・システムで稼働するオペレーティング・システム			
	Windows 2000 Professional	**Windows 2000 Server**	**Windows XP Home**	**Windows XP Professional**
Windows 98	はい	いいえ	はい	はい
Windows 98 SE	はい	いいえ	はい	はい
Windows NT 4.0 Workstation	はい	いいえ	いいえ	はい
Windows NT 4.0 Server	いいえ	はい	いいえ	いいえ
Windows 2000 Professional	はい	いいえ	いいえ	はい
Windows 2000 Server	いいえ	はい	いいえ	いいえ
Windows XP Home	いいえ	いいえ	はい	はい
Windows XP Professional	いいえ	いいえ	いいえ	はい

ソース・システムとターゲット・システムは、同一言語バージョンの Windows を実行しなければなりません。 SMA は、Microsoft Windows の 64 ビット・バージョンでは一切サポートされません。

前のリリースからのアップグレード

SMA 4.2 は、SMA 3.0、SMA 3.1、または SMA 4.1x からアップグレードできます。 SMA 4.2 をインストールする前に、古いバージョンの SMA をアンインストールする必要はありません。

System Migration Assistant 4.2 の新機能

SMA 4.2 には、以下の新機能と拡張機能が含まれます。

- 新規の使いやすいグラフィカル・ユーザー・インターフェース
- 前に選択されたオプションを復元する機能
- ユーザー・インターフェースをカスタマイズするために改良された機能
- 複数ユーザーの設定を移行する機能 (マルチユーザー・プロファイル移行)
- 以下のアプリケーションのサポート:
  - Adobe Reader バージョン 6.x
  - Lotus Notes バージョン 6.x
  - Lotus SmartSuite 9.8
  - McAfee VirusScan バージョン 8.0
  - Microsoft Access 2003
  - Microsoft Office 2003
  - Microsoft Outlook 2003
  - Microsoft Outlook Express 6.x
  - MSN Messenger 6.x
  - Netscape 7.x
- 改良された移行結果要約報告書
- 単一パッケージによる多言語サポート

第 2 章 System Migration Assistant のインストールとアンインストール

この章では、SMA のインストールとアンインストールについて説明します。

SMA 4.2 のインストール

SMA のインストールには、次の 2 つのタイプがあります。

- **標準インストール**: SMA の標準インストールを実行するには、まずローカル側からターゲット・システムまたはソース・システムにログオンし、そのシステムからインストールを実行する必要があります。
- **サイレント・インストール**: サイレント・インストールを実行するには、まず応答ファイルを作成し、次に、その応答ファイルを使用して、ユーザーと対話することなくアプリケーションをインストールします。一般に、サイレント・インストールはリモート側で実行されます。ネットワーク環境にログインし、リモート側で応答ファイルを使用して SMA を 1 つ以上のシステムにインストールします。

標準 SMA インストールの実行

SMA をインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してシステムにログオンします。
2. SMA*version*setup.EXE プログラムを実行します。ここで、*version* はリリース番号を表します。たとえば、SMA 4.2 実行可能ファイルは SMA4.2setup.exe です。 InstallShield ウィザードが開始し、「設定言語の選択 (Choose Setup Language)」ウィンドウが開く場合は、リストで望ましい言語を選択します。それ以外の場合は、ステップ 4 (6 ページ) へ進みます。

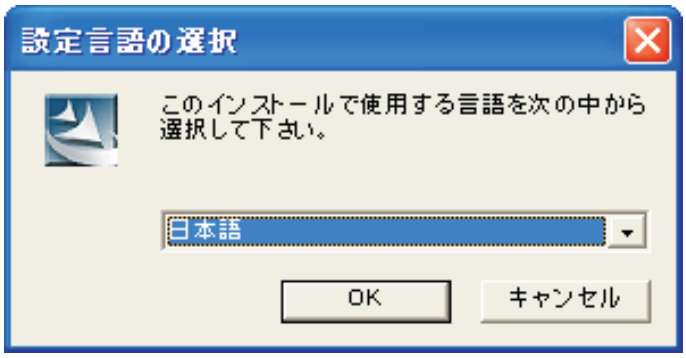

図 1. SMA のインストール: 「設定言語の選択 (Choose Setup Language)」ウィンドウ

© Copyright IBM Corp. 2004

3. 「**OK**」をクリックします。「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウが開きます。

図 2. SMA のインストール: 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウ

4. 「**次へ**」をクリックします。「使用許諾契約」ウィンドウが開きます。

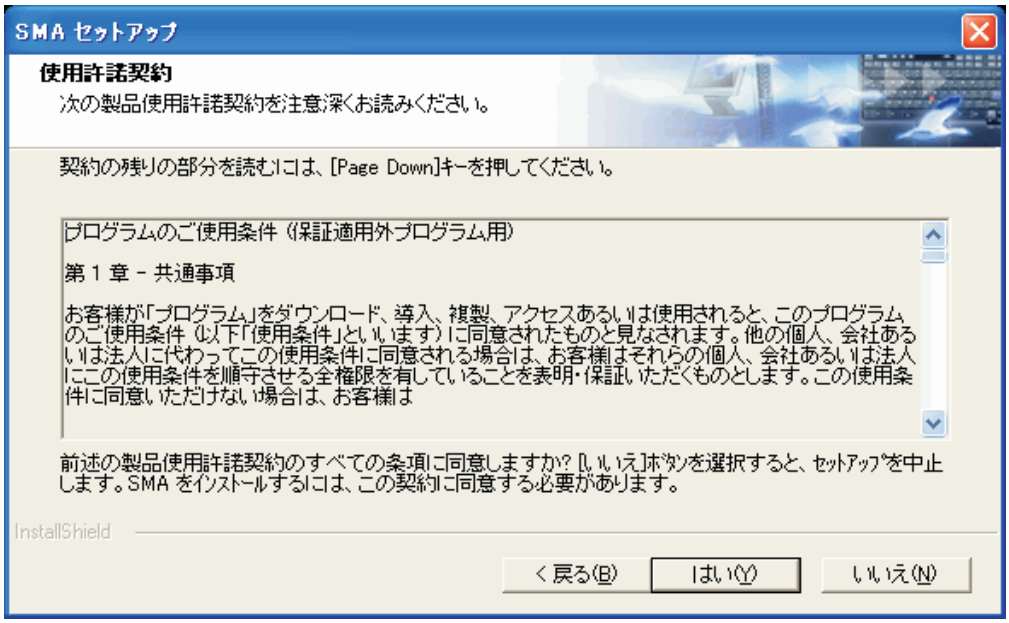

図 3. SMA のインストール: 「使用許諾契約」ウィンドウ

5. 「**はい (Yes)**」をクリックします。「インストール先の選択 (Choose Destination Location)」ウィンドウが開きます。
6. デフォルトでは、SMA が *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA にインストールされます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。 SMA を

別の場所にインストールするには、「**参照 (Browse)**」をクリックします。次に、代替ディレクトリーを選択します。

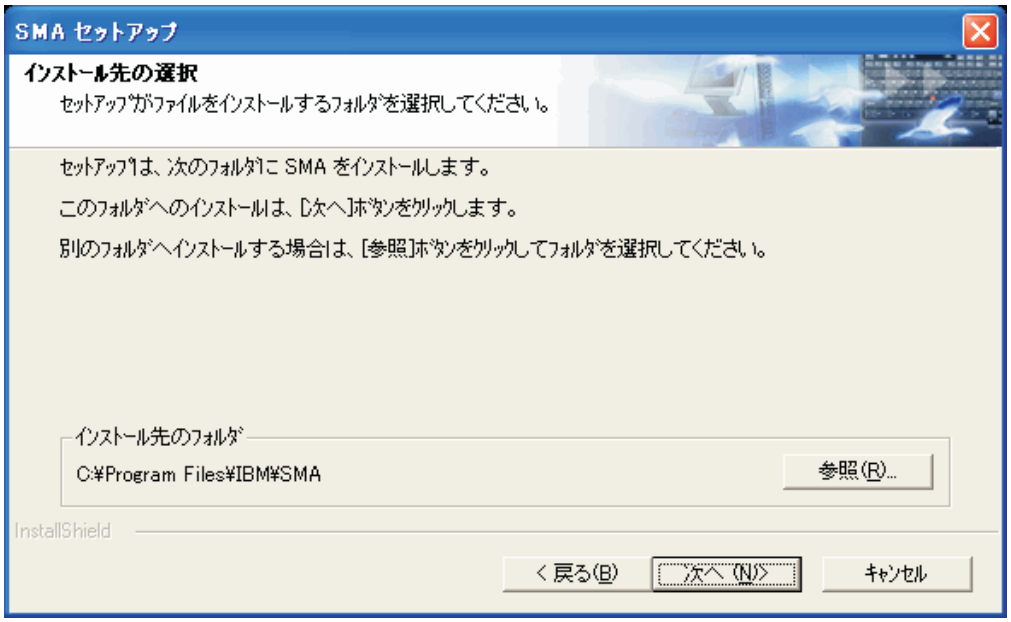

図 4. SMA のインストール: 「インストール先の選択 (Choose Destination Location)」ウィンドウ

7. 「**次へ**」をクリックします。「プログラム フォルダの選択 (Select Program Folder」ウィンドウが開きます。

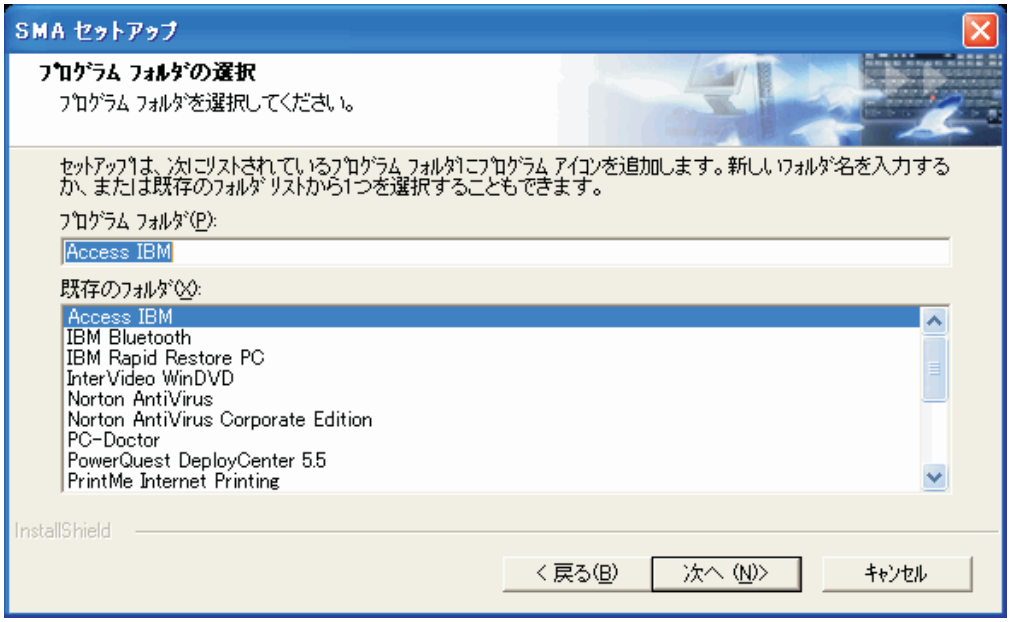

図 5. SMA のインストール: 「プログラム フォルダの選択 (Select Program Folder)」ウィンドウ

8. デフォルトでは、SMA プログラム・フォルダーの名前が Access IBM に設定されます。デフォルト以外のプログラム・フォルダーを選択するには、以下のいずれかの手順を使用します。
   - 新規のプログラム・フォルダー名を作成するには、新規のプログラム・フォルダーに付けたい名前を「**プログラム・フォルダー (Program Folders)**」フィールドに入力します。
   - 既存のプログラム・フォルダーを選択するには、「**既存のフォルダー (Existing Folders)**」リスト内のプログラム・フォルダーをダブルクリックします。
9. 「**次へ**」をクリックします。

   注: SMA インストールでは、更新済みダイナミック・リンク・ライブラリー (DLL) ファイルが必要になる場合があります。システムで更新済み DLL ファイルが必要な場合は、通知ウィンドウが開き、インストールを完了するために実行する必要があるステップを示します。
10. InstallShield ウィザードによる SMA のインストールが終わると、「SMA セットアップ」ウィンドウが開きます。

図 6. SMA のインストール: 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウ

11. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。

サイレント SMA インストールの実行

サイレント・インストールを実行するには、応答ファイルを作成してから、その応答ファイルを使用して SMA インストールを実行する必要があります。

応答ファイルの作成

応答ファイルは、SMA インストール・プログラムが読み取るテキスト・ファイルです。応答ファイルには、InstallShield ウィザードで使用するすべての値が含まれています。

応答ファイルを作成するには、以下のステップを実行します。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用してシステムにログオンします。

   注: 応答ファイルを作成するのに、ターゲット・システムやソース・システムを使用する必要はありません。応答ファイルは、管理特権を持っていて、かつ SMA インストール・プログラムにアクセスできる任意のシステムで作成できます。

2. SMA*version*setup.exe プログラムを実行します。ここで、*version* はリリース番号を表します。たとえば、SMA 4.2 実行可能ファイルは SMA4.2setup.exe です。 InstallShield ウィザードが開始し、「セットアップ言語の選択 (Choose Setup Language)」ウィンドウが開きます。

   オペレーティング・システムの一時ディレクトリーに `pft`*x*`~tmp` ディレクトリーが作成されます。ここで、*x* は 1 つ以上のランダム文字です。このディレクトリーには、インストール開始時に抽出された SMA インストール・ファイルが入っています。

3. 「**OK**」をクリックします。「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウが開きます。
4. 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウを最小化します。
5. `pft`*x*`~tmp` ディレクトリーを見つけます。ここで、x は 1 つ以上のランダム文字です。 (Windows Explorer は、隠しファイルおよびフォルダーを表示するように構成する必要があります。) このディレクトリーは、次のいずれかの場所に入っています。

オペレーティング・システム	ディレクトリー
Windows 98	*d*:¥Windows¥TEMP¥
Windows NT 4.0 Workstation および Windows NT 4.0 Server	*d*:¥Temp¥
Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server、および Windows XP	*d*:¥Documents and Settings¥*UserName*¥Local Settings¥Temp¥

   ここで、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名、*UserName* はオペレーティング・システム・アカウントのユーザー名です。

6. インストール・ファイルを保管したい場所に `pft`*x*`~tmp` ディレクトリーをコピーします。

   このディレクトリーへは、サイレント・インストールを実行するシステムからアクセスできなければなりません。

7. 次のようにして、InstallShield ウィザードを停止します。
   a. 「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウを最大化してから、「**キャンセル (Cancel)**」を押します。「Exit セットアップ (Exit Setup)」ウィンドウが開きます。
   b. 「**はい (Yes)**」をクリックします。

8. コマンド行プロンプトから、ステップ 6 (9 ページ) で作成した `pftx~tmp` ディレクトリーに移動します。
9. `Disk1` サブディレクトリーに移動します。
10. 次のコマンドを入力して Enter を押します。

    ```
    setup -r
    ```

    InstallShield ウィザードが開始し、「SMA セットアップ (SMA Setup)」ウィンドウが開きます。コマンド行から InstallShield ウィザードを開始すると、InstallShield 応答ファイル setup.iss が生成されます。インストール中に入力した選択と値は、このファイルに保管されます。
11. 画面の指示に従ってインストールを完了します。
12. `setup.iss` ファイルを、ステップ 6 (9 ページ) で作成した `pftx~tmp` ディレクトリーにコピーします。`setup.iss` ファイルは、次のいずれかの場所に入っています。

オペレーティング・システム	ディレクトリー
Windows 98 および Windows XP	*d*:¥Windows
Windows NT 4.0 Workstation、Windows NT 4.0 Server、Windows 2000 Professional、および Windows 2000 Server	*d*:¥winnt

ここで、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

コマンド・プロンプトからの SMA のインストール

SMA をインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用して、SMA のサイレント・インストールを実行したいシステムにログオンします。
2. インストール・ファイル・ディレクトリーと setup.iss ファイルをシステムにコピーし、インストール・ファイルが入っているディレクトリーに移動します。あるいは、インストール・ファイルと `setup.iss` ファイルが保管されているネットワーク・ディレクトリーに変わることもできます。
3. コマンド行プロンプトから、次のコマンドを入力して Enter を押します。

    ```
    setup.exe -s -sms -f1"path¥setup.iss"
    ```

    ここで、`-f1"path¥setup.iss"` は、応答ファイルの位置を指定するオプショナル・パラメーター、*path* は、応答ファイルの完全修飾名 (たとえば、c:¥temp¥setup.iss) です。デフォルトでは、インストール・プログラムが、インストール・ファイルと同じ位置にある応答ファイルを探します。

    インストールが開始し、状況情報が setup.log ファイルに書き込まれます。

    注: コマンド・プロンプトから SMA のインストールを実行する前に、必ず前のバージョンの SMA をアンインストールしてください。
4. SMA をインストールしたら、setup.log ファイルを開き、ResultCode 変数を見つけます。ログ・ファイルは、インストール・ファイルと同じディレクトリーに入っています。 ResultCode = 0 であれば、インストールは正常に終了しています。エラー・コードに以下の値が含まれていることがあります。

エラー・コード	説明
-3	setup.iss ファイルに、必要なデータが含まれていません。
-5	setup.iss ファイルがありません。
-8	setup.iss ファイルのパスが無効です。

SMA のアンインストール

SMA をアンインストールするには、以下のステップを実行します。

1. 「**スタート**」→「**コントロール・パネル**」をクリックします。「コントロール パネル」ウィンドウが開きます。
2. 「**プログラムの追加と削除**」をダブルクリックします。「プログラムの追加と削除」ウィンドウが開きます。
3. 「**IBM System Migration Assistant 4.2**」をクリックします。
4. 「**削除**」をクリックします。確認ウィンドウが開きます。
5. 「**はい**」をクリックし、表示中の指示に従います。

SMA のアンインストールでは、必ずしもすべての SMA ファイルが削除されない場合があります。手動で以下のファイルを削除する必要があります。

- SMA を実行しているときに生成された SMA ログ・ファイル。 SMA をデフォルト・ロケーションにインストールすると、これらのファイルは *d* ドライブのルートに配置されます。ここで、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
- SMA に固有の一時ファイル。デフォルトでは、これらのファイルは *d*:¥sma¥temp ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
- SMA プロファイル。これらのプロファイルは、SMA 拡張機能を持つファイルです。

第 3 章 標準移行の実行

この章では、SMA GUI を使用してプロファイルを取り込み、適用する方法について説明します。

ログオンについての考慮事項

SMA を使用してシステム設定を移行するには、以下の要件を満たすユーザー・アカウントでログオンする必要があります。

- ユーザー・アカウントは管理特権を持つ必要があります。

  移行しなければならないシステム・リソースの一部は、アクセスするのに高い特権を必要とします。それらを取り込み、適用するには、管理特権を持つユーザー・アカウントが必要です。それ以外のアカウントから移行しようとすると、SMA は操作を終了し、エラー・メッセージを出します。
- ユーザー・アカウントの名前は、ターゲット・システムとソース・システムで同じである必要があります。

マルチユーザー・プロファイルの移行

SMA マルチユーザー移行には、3 種類のユーザーが関係しています。

1. フォアグラウンド・ログオン・ユーザー

   移行時にシステムにログオンされているユーザー。このユーザーは管理特権を持つ必要があります。SMA はこのユーザー・アカウントから起動する必要があります。

   このユーザー名は、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」の 1 つとして表示されますが、そのチェック・ボックスは常時選択されており、クリアすることはできません。
2. バックグラウンド・ローカル・ユーザー

   現在ローカル・システムにログオンされていない、ローカル・システムでのユーザー・アカウント。それらは、一般ユーザーの特権アカウントの場合があります。

   これらのユーザーは、「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」として表示されます。
3. バックグラウンド・ドメイン・ユーザー

   現在ローカル・システムにログオンされていない、ネットワーク・ドメインでのユーザー・アカウント。ドメイン・コントローラーはそれらのアカウント情報を制御し、ローカル・クライアント PC はそれらのプロファイル情報を所有しています。

   これらのユーザーは、ローカル・システムの 「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ネットワーク・ユーザー」として表示され、コントローラー PC のローカル・ポリシーでユーザーがローカル側でコントローラーにログオンできるよ

© Copyright IBM Corp. 2004

うになっている場合は、ドメイン・コントローラーの「GUI ユーザー・プロファイル」パネルで「ローカル・ユーザー」として表示されます。

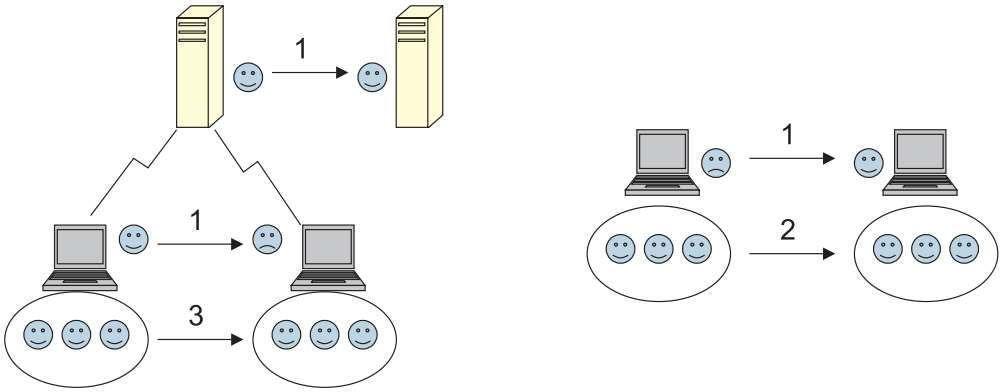

図 7. 標準移行の実行: マルチユーザー移行

ソース・システムとターゲット・システムにログオンされているフォアグラウンド・ログオン・ユーザーの移行方式については、 15 ページの『SMA プロファイルの作成』を参照してください。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、 61 ページの『バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行する方法については、 62 ページの『バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行』を参照してください。

フォアグラウンド・ログオン・ユーザーには以下の制約事項が適用されます。

- ソース・システムでのログオン・ユーザーの名前は、ターゲット・システムでの名前に一致している必要があります。
- ログオン・ユーザーは、ソース側とターゲット側の両方で管理者特権アカウントを持つ必要があります。

マルチユーザー・プロファイル移行には以下の制約事項が適用されます。

- ソース・システムとターゲット・システムの両方が Windows 2000 Server で稼働しているときは、フォアグラウンド・ユーザー・プロファイルのみが移行できます。
- 稼働しているアカウントは、ローカル・システムの管理者アカウントである必要があります。 SMA はドメイン・ユーザー・アカウントでは稼働できません。
- 設定を取り込み、適用するためには、ドメイン・コントローラーがネットワーク全体にわたって認識できなければなりません。検索のためには、ドメイン・ユーザーが PDC になければなりません。
- クロスケーブルを介してのピアツーピア移行は、ローカル・ユーザーの移行用にはサポートされていますが、ドメイン・ユーザーの移行用にはサポートされていません。

- ドメイン・ユーザー・プロファイルを適用するには、まずネットワーク・ドメイン設定を移行する必要があります。詳しくは、14 (21 ページ) を参照してください。
- ドメイン・ユーザー・プロファイルの設定で、全部ではなく一部を移行する場合は、ローミング・ユーザー・プロファイルを選択してはなりません。ローミング・ユーザー・プロファイルを選択する場合、デフォルトですべての設定が移行され、ユーザーの選択は無効になります。
- バックグラウンド・ローカル・ユーザーまたはドメイン・ユーザーのユーザー・プロファイルを移行する前に、同じ名前のユーザー・アカウントまたはフォルダーがターゲット・システム (たとえば、「C:¥Documents and Settings」フォルダー) にすでに存在しないことを確認してください。

SMA 4.2 プロファイルのデータ・フォーマットは、SMA 4.1x 以前のバージョンとは互換性がないことに注意してください。SMA 4.1x によって取り込まれた SMA プロファイルは、SMA 4.2 によっては適用できず、その逆もまた同様です。

SMA プロファイルの作成

取り込みフェーズで、ソース・システムにログオンし、移行したい設定とファイルが入っている SMA プロファイルを作成します。取り込まれたプロファイル・ファイルは、次に 1 つ以上のターゲット・システムに適用できます。

注: 移行を開始する前に、すべてのアプリケーションをクローズしてください。

SMA プロファイルを作成するには、次のようにします。

1. 管理特権を持つオペレーティング・システム・ユーザー・アカウントを使用して、ソース・システムにログオンします。
2. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

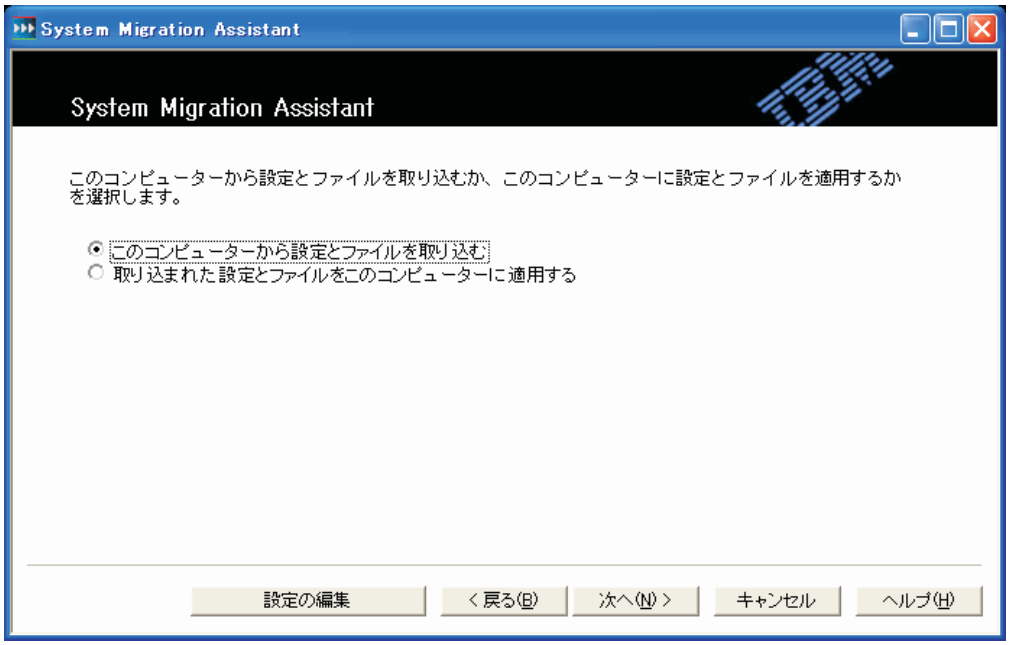

図 8. 設定の取り込み: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**このコンピューターから設定とファイルを取り込む**」をクリックし、「**次へ**」をクリックします。 「移行オプション」ウィンドウが開きます。

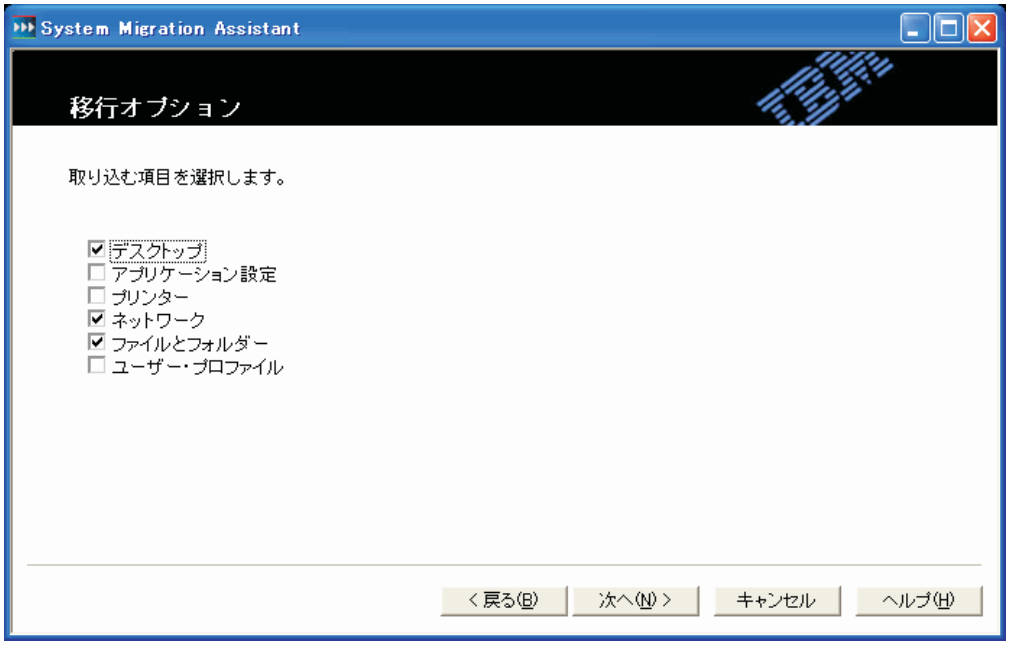

図 9. 設定の取り込み: 「移行オプション」ウィンドウ

4. 取り込みたいカテゴリーを選択します。
5. 「**次へ**」をクリックします。ステップ 4 で「**ユーザー・プロファイル**」チェック・ボックスを選択した場合は、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 11 (20 ページ) へ進みます。

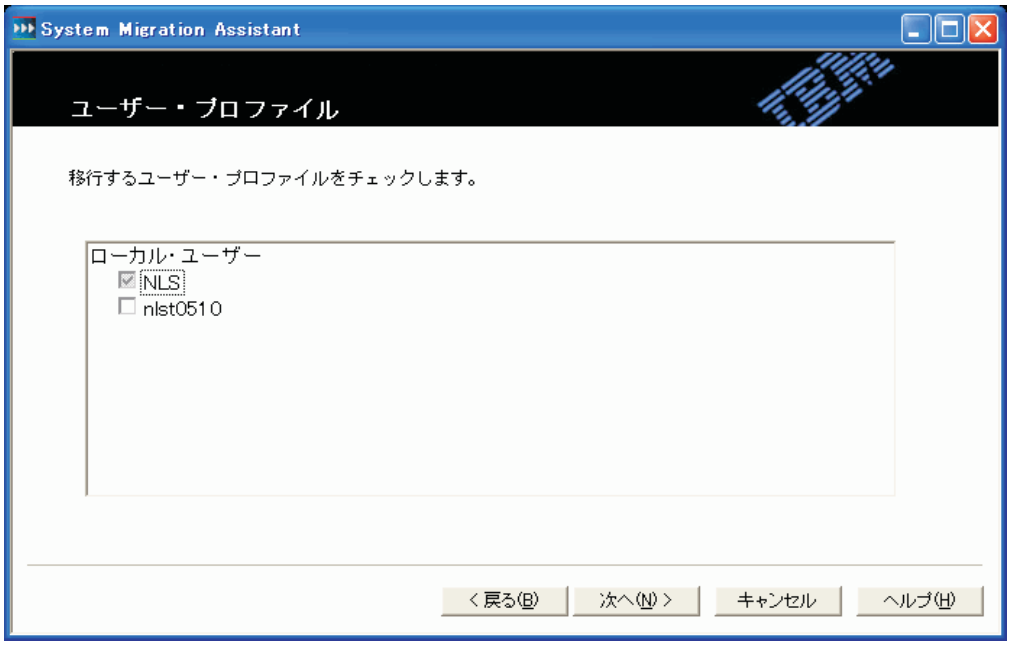

図 10. 設定の取り込み: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ

6. 移行したいユーザー・プロファイルを選択します。ユーザー・プロファイルについて詳しくは、 13 ページの『マルチユーザー・プロファイルの移行』を参照してください。バックグラウンド・ローカル・プロファイルの場合は、ユーザー・パスワードは移行されずに、ユーザー名にリセットされます。

   ユーザー・プロファイルには以下の制約事項が適用されます。

   - Windows 98 を実行しているソース・システムから Windows 2000 Professional または Windows XP を実行しているターゲット・システムにユーザー・プロファイルを移行することはできません。
   - ユーザー・プロファイルを Windows 2000 または Windows XP に移行するには、管理特権を持つオペレーティング・システム・アカウントを使用する必要があります。
7. 「**次へ**」をクリックします。
8. ステップ 4 (16 ページ) で「**デスクトップ**」チェック・ボックスを選択した場合は「デスクトップ設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 11 (20 ページ) へ進みます。

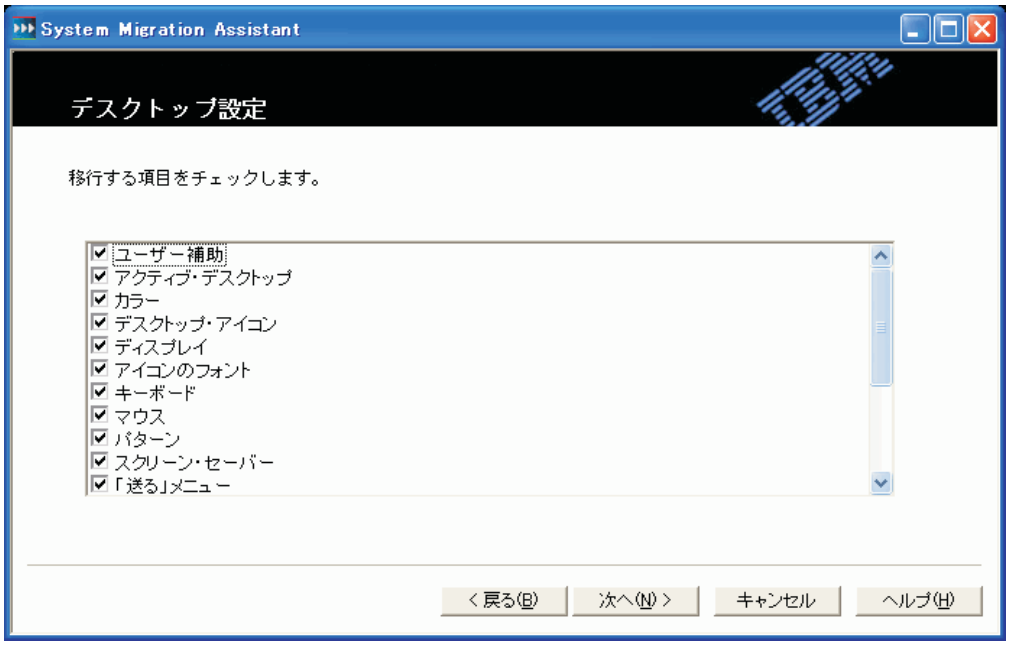

図 11. 設定の取り込み: 「デスクトップ設定」ウィンドウ

9. 移行したいデスクトップ設定を選択します。

アクセシビリティ
キーボード、サウンド、マウス、およびその他の設定に対するアクセシビリティ設定

アクティブ・デスクトップ
アクティブ状態 (Windows XP Professional ではサポートされません)

カラー デスクトップおよびウィンドウ・カラー

デスクトップ・アイコン
すべてのデスクトップ・コンテンツ (フォルダー、ファイル、ショートカット、アイコン、およびアイコン位置を含む)

表示 デスクトップの幅、高さ、およびカラーの深さ

アイコン・フォント
デスクトップ・アイコンに使用されるフォント

キーボード
キーボードの反復速度、カーソルの明滅間隔、および遅延

マウス マウスの右利きと左利きの設定、速度、およびダブルクリック間隔

パターン
デスクトップで使用するパターン (Windows XP Professional ではサポートされません)

スクリーン・セーバー
現在のスクリーン・セーバー設定

「送る」メニュー
「送る」メニューの設定

シェル 表示のソート順、表示のタイプ (大きいアイコンまたは小さいアイコン)、ステータス・バーおよびツールバーの表示/非表示状況

サウンド
サウンドの設定

「スタート」メニュー
「スタート」メニュー・コマンド

タスクバー
ドッキング・エッジ、サイズ、常に手前に表示、自動非表示、時計表示、「スタート」メニューでの小さいアイコンの表示

壁紙 デスクトップの壁紙

ウィンドウ・メトリック
最小化ウィンドウのスペーシングと配置順序、ダイアログ・メッセージのフォント、メニュー・サイズ、スクロール・バーのサイズ

デスクトップ設定には以下の制約事項が適用されます。

- **アクセシビリティ**
  - Windows 98 から Windows 2000 Professional に移行する場合、ShowSounds、SoundSentry、および Stickykeys 設定の移行はできません。
  - 「カーソル」オプション、ポインター速度、および「通知」オプションの移行はできません。
- **アクティブ・デスクトップ:** 壁紙を含むアクティブ・デスクトップを移行するには、壁紙の設置も選択しなければなりません。
  - デスクトップ・アイコン間の垂直および水平スペーシングは、正確には移行されません。
  - 現行ユーザーのデスクトップ・ディレクトリーに入っているアイコンだけが移行されます。
- **マウス:** Windows XP Professional を実行しているターゲット・システムにマウス速度を移行することはできません。
- **スクリーン・セーバー:** Windows 98 から Windows 2000 Professional または Windows XP に移行している場合は、スクリーン・セーバーの移行はできません。
- **シェル:** Windows Explorer シェルの設定を移行するには、シェルのデスクトップ設定と Microsoft Internet Explorer アプリケーションの設定を両方とも移行しなければなりません。ターゲット・システムが Windows 2000 Professional、Windows 2000 Server、または Windows XP を使用している場合は、フォルダー表示の設定 (たとえば、大きいアイコン、タイル、詳細など) は移行されません。
- **サウンド:** SMA は、アクティブ・サウンド・スキームをソース・システムからターゲット・システムに移行します。サウンド・スキームは、Windows コントロール パネルの「サウンドとマルチメディア・プロパティー」ウィンドウで設定されます。ソース・システムのサウンド・スキームが「**サウンドなし**」に設定されていれば、サウンドはターゲット・システムに移行されません。ソース・システムがカスタム・サウンドを使用する場合は、サウンド・スキームを移行するほかにサウンド・ファイルも移行する必要があります。

- **タスクバー:** Windows XP を使用するターゲット・コンピューターに移行する場合は、タスクバーの位置は移行されません。
- **壁紙:** 移行する壁紙が JPEG ファイルであれば、アクティブ・デスクトップ設定も取り込む必要があります。 BMP ファイルの壁紙を移行する場合は、アクティブ・デスクトップ設定を取り込む必要はありません。バックグラウンド・ユーザーの壁紙を移行するには、 Windows ディレクトリーで壁紙を位置指定する必要があります。

10. 「**次へ**」をクリックします。
11. ステップ 4 (16 ページ) で「**アプリケーション設定**」チェック・ボックスを選択した場合は、「アプリケーション設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 23 (25 ページ) へ進みます。

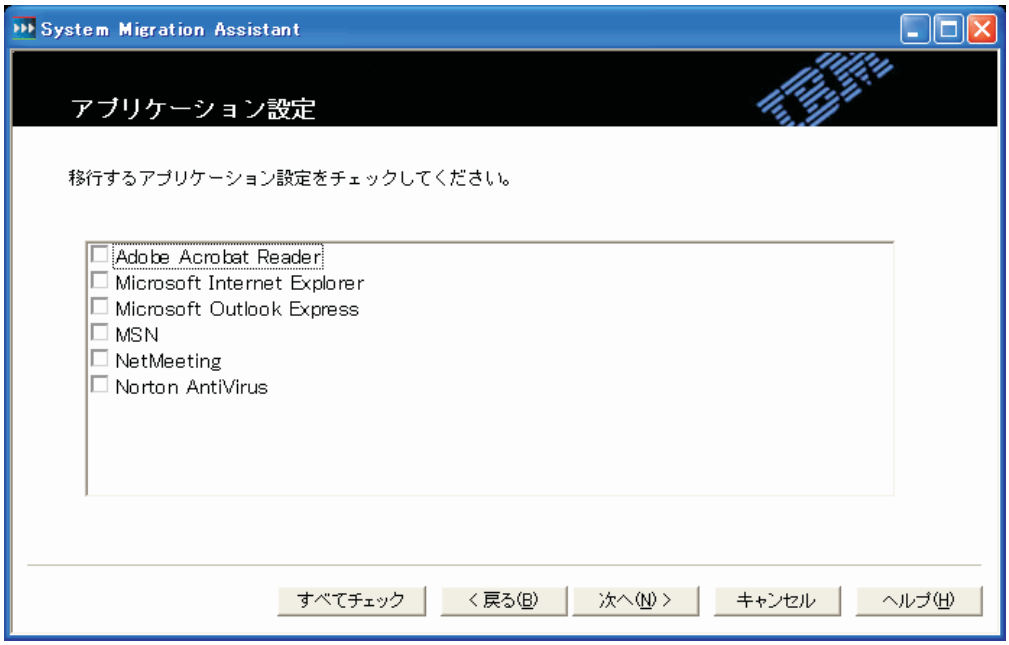

図 12. 設定の取り込み: 「アプリケーション設定」ウィンドウ

12. 設定を移行したいアプリケーションを選択します。

    SMA は、ユーザー設定とカスタマイズ情報を取り込むことができます。 Internet Explorer および Netscape Navigator のカスタマイズ情報には、ブックマーク、cookies、および設定が含まれることがあります。 Lotus® Notes® および Microsoft Outlook の場合は、これらの設定には、アドレス帳とローカルに保管された E メールが含まれることがあります。

    ターゲット・マシンでインストールされたバージョンがソース・マシンでインストールされたバージョンより前のものである場合、アプリケーション設定は移行できません。

    アプリケーション設定に適用される制約事項の詳細については、 95 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。

13. 「**次へ**」をクリックします。

14. ステップ 4 (16 ページ) で「**ネットワーク**」チェック・ボックスを選択した場合は、「ネットワーク設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 17 (22 ページ) へ進みます。

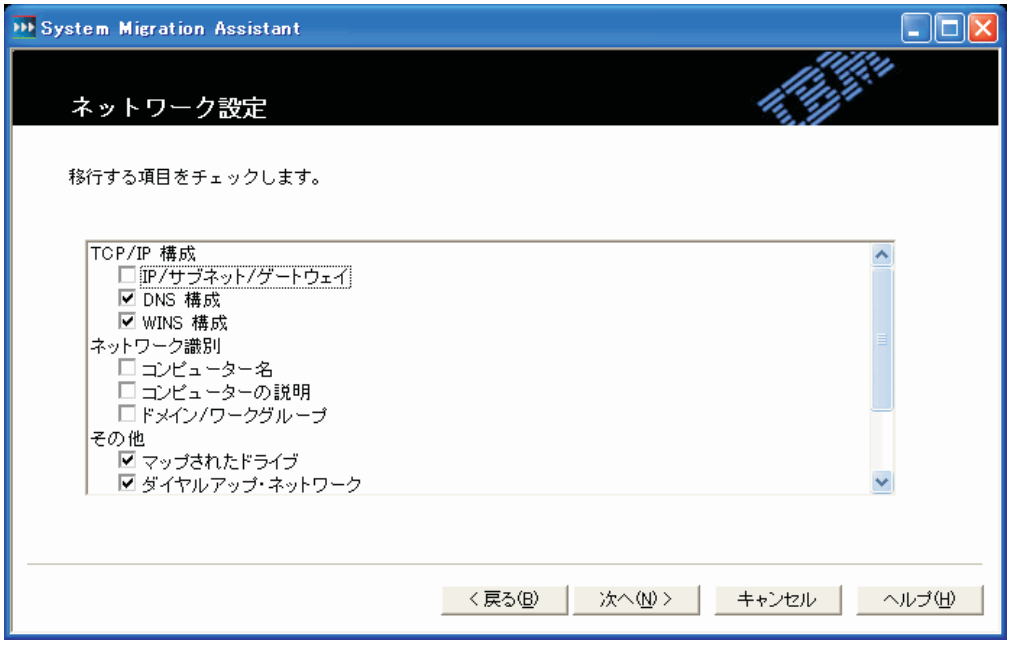

図 13. 設定の取り込み: 「ネットワーク設定」ウィンドウ

15. 移行したいネットワーク設定を選択します。

TCP/IP 構成

- IP/サブネット/ゲートウェイ
- DNS 構成
- WINS 構成

ネットワーク識別番号

- コンピューター名
- コンピューター記述
- ドメイン/ワークグループ

その他

- マップ済みドライブ
- ダイヤルアップ・ネットワーキング
- 共用フォルダー/ドライブ
- Microsoft ネットワーキング
- ODBC データ・ソース

ネットワーク設定には以下の制約事項が適用されます。

- **ドメイン/ワークグループ:** ソース・システムがドメインのメンバーであり、ターゲット・システムをこの同じドメインのメンバーにしたい場合は、ドメイン・コントローラーにターゲット・システム用のアカウントを作成します。ドメイン・コントローラーが Windows 2000 Server を実行している場合

は、「**Windows 2000 以前のコンピューターにこのアカウントの使用を許可する**」チェック・ボックスを選択してください。ドメイン・ネームを移行する前に、コンピューター名を移行する必要があります。

- **DNS 構成:** ピアツーピア移行を実行するときは、DNS 設定は移行されません。
- **Microsoft ネットワーキング:** (Windows 98 のみ) これら移行設定を適用する前に、ターゲット・システムに Client for Microsoft Network をインストールしておく必要があります。以下の Client for Microsoft Network の設定が取り込まれます。
  - 1 次ネットワーク・ログオン
  - ログオン・オプション
  - ログオン検証
  - ドメイン・ネーム
  - アクセス制御

16. 「**次へ**」をクリックします。
17. ステップ 4 (16 ページ) で「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスを選択した場合は、SMA はハード・ディスクをスキャンします。それ以外の場合は、ステップ 25 (26 ページ) へ進みます。

    スキャン・プロセスが完了すると、「ファイルの選択」ウィンドウが開き、「関連」ページがデフォルトで表示されます。

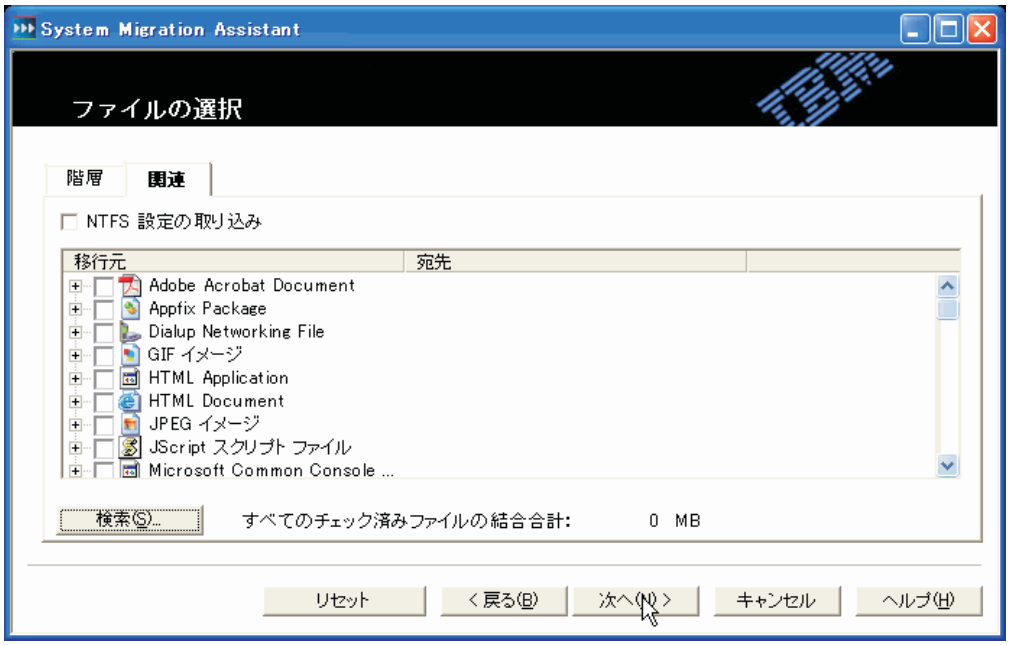

図 14. 設定の取り込み: 「ファイルの選択-関連」ウィンドウ

18. 移行したいファイルを選択します。個々のファイル、特定のタイプのすべてのファイル、または特定のディレクトリーに入っているすべてのファイルを選択することができます。ディレクトリーを選択すると、そのディレクトリーに入っているすべてのファイルが自動的に選択されます。

「関連」ページでは、ファイル・タイプ別にソートしたソース・システムのファイルがリストされます。特定のタイプのファイルをすべて選択することもできるし、ファイル・タイプを展開して個々のファイルを選択することもできます。

場所別にソートしたファイルを表示するには、「**階層**」をクリックします。「階層」ページが表示されます。

図 15. 設定の取り込み: 「ファイルの選択 - 階層」ウィンドウ

19. 特定のファイルまたはファイル拡張子を検索するには、「**検索**」をクリックします。「検索」ウィンドウが開きます。

図 16. 設定の取り込み: 「ファイルの選択 - 検索」ウィンドウ

20. 「**検索対象**」フィールドにファイル名を入力します。アスタリスク (*) などのワイルドカード文字を使用して、ゼロまたはそれ以上の文字と一致させたり、疑問符 (?) を使用して正確に 1 文字と一致させたりできます。「**検索場所**」フィールドで、検索したいハード・ディスクを選択します。「**検索開始**」をクリックします。

    アテンション:

    a. オペレーティング・システム・ファイルを移行しないでください。移行すると、ターゲット・システムの誤動作を招く原因になることがあります。

    b. ハード・ディスク・ドライブの内容全体を選択しないでください。なぜならば、内容全体を選択すると、オペレーティング・システム・ファイルを含め、すべてのファイルが選択されるからです。

    c. DLL、EXE、または COM 拡張子を持つファイルを選択するときは注意が必要です。 SMA は、Windows レジストリー項目を調整しません。アプリケーション・ファイルを選択すると、アプリケーションがターゲット・システムで正しく稼動しないことがあります。

21. 選択したファイルをターゲット・システムのどこに配置するかを考えてください。ソース・システムとターゲット・システムが同様なハード・ディスク構成になっていない場合は、ファイルとディレクトリー用に代替宛先を選択する必要があります。

    ファイルの宛先ロケーションを変更するには、そのファイルを右マウス・ボタンでクリックします。メニューが表示されます。

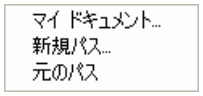

図 17. 設定の取り込み: ファイル場所の選択

    ファイルを「My Documents」ディレクトリーに配置するか、または新規パスを選択するか、あるいは文書のオリジナル・パスを保持することができます。

    - ファイルを「My Documents」ディレクトリーに配置するには、「**マイ ドキュメント**」をクリックします。「マイ ドキュメントの宛先」ウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

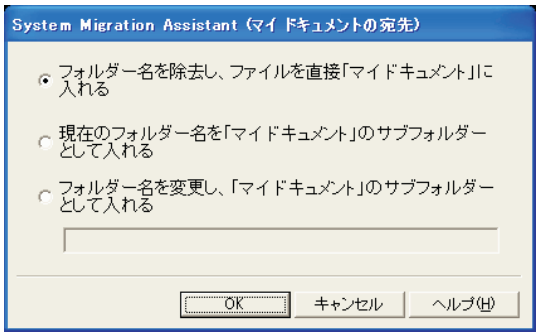

図 18. 設定の取り込み: 「マイ ドキュメントの宛先 (My Documents Destination)」ウィンドウ

- ファイルの代替パスを選択するには、「**新規パス**」をクリックします。「新規パスの宛先」ウィンドウが開きます。オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。

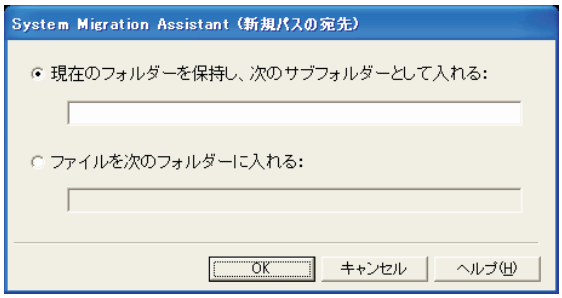

図 19. 設定の取り込み: 「新規パスの宛先」ウィンドウ

- ファイルのオリジナル・パスを保持するには、「**元のパス**」をクリックします。デフォルトでは、SMA が同じ名前のファイルが入っているディレクトリーにファイルを移行すると、そのファイルは上書きされます。(ファイルが上書きされないように、config.ini ファイルをカスタマイズすることができます。詳しくは、73 ページの『標準移行のカスタマイズ』を参照してください。)

重要: ファイルの位置を変更するときは注意してください。バッチ・ファイルと構成ファイルには、完全修飾パス名が含まれていることがあります。したがって、バッチ・ファイルと構成ファイルが参照するファイルとディレクトリーの位置を変更すると、プログラムまたはタスクは正常に稼働しません。

22. 「**次へ**」をクリックします。
23. ステップ 4 (16 ページ) で「**プリンター**」チェック・ボックスを選択した場合は、「プリンター」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 14 (21 ページ) へ進みます。

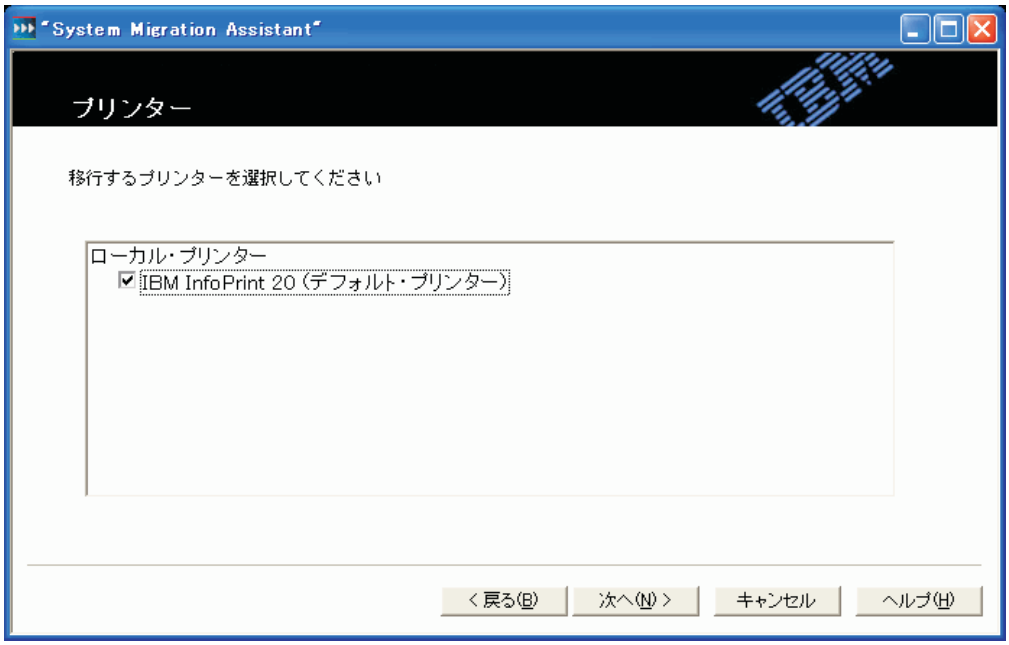

図 20. 設定の取り込み: 「プリンター」ウィンドウ

24. プリンター・リンクとデバイス・ドライバーを移行したいプリンターを選択します。デフォルト・プリンターは自動的に選択されます。

    注:

    a. デバイス・ドライバー・パッケージがソース・システムに手動でインストールされたプリンターを選択した場合は、移行の前にターゲット・システムに同じデバイス・ドライバー・パッケージをインストールしてください。

    b. ソース・システムと異なるオペレーティング・システムを使用しているターゲット・システムにローカル・プリンターを移行することはできません。

25. 「**次へ**」をクリックします。「移行手段の選択」ウィンドウが開きます。

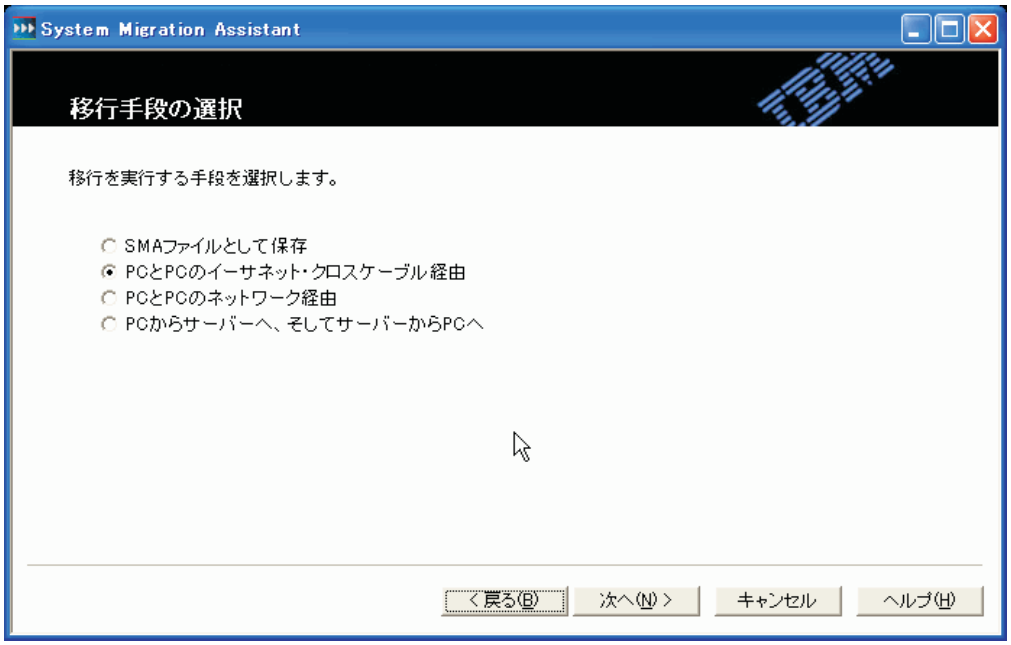

図 21. 設定の取り込み: 「移行手段の選択」ウィンドウ

26. 以下の移行手段のいずれかを選択します。

SMA ファイルとして保管 (Save as SMA File)
SMA プロファイルをローカル・ディスクまたはマップされたハード・ディスクに保管します。「**次へ**」をクリックします。ユーザーは、プロファイル名の入力を要求されます。

イーサネット・クロスケーブルを介して PC から PC へ (PC to PC via Ethernet cross-over cable)
イーサネット・クロスケーブルを使用して、ピアツーピア接続によって SMA プロファイルをソース・システムから適用します。「次へ」をクリックします。ユーザーは、固有なプロファイル名の入力を要求されます。PC から PC への移行について詳しくは、65 ページの『第 5 章 ピアツーピア移行の実行』を参照してください。

ネットワークを介して PC から PC へ (PC to PC via Network)
既存のネットワークを使用して、ピアツーピア接続によって SMA プロファイルをソース・システムから適用します。接続を確立するには、ソース・システムとターゲット・システムの両方が同じネットワーク内になければならないことに注意してください。「次へ」をクリックします。ユーザーは、固有なプロファイル名の入力を要求されます。PC から PC への移行について詳しくは、65 ページの『第 5 章 ピアツーピア移行の実行』を参照してください。

PC からサーバーへ、次にサーバーから PC へ (PC to server, then server to PC)
TSM (Tivoli Storage Manager) サーバーを使用して、SMA プロファイルを適用します。ユーザーは TSM パスワードの入力を要求されます。この方法を使用するには、ユーザーは移行の前に TSM クライアントをインストールする必要があります。

27. 「**次へ**」をクリックします。ステップ 26 (27 ページ) で「**PC からサーバーへ、次にサーバーから PC へ**」ラジオ・ボタンを選択した場合は、「TSM パスワード」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 28 へ進みます。

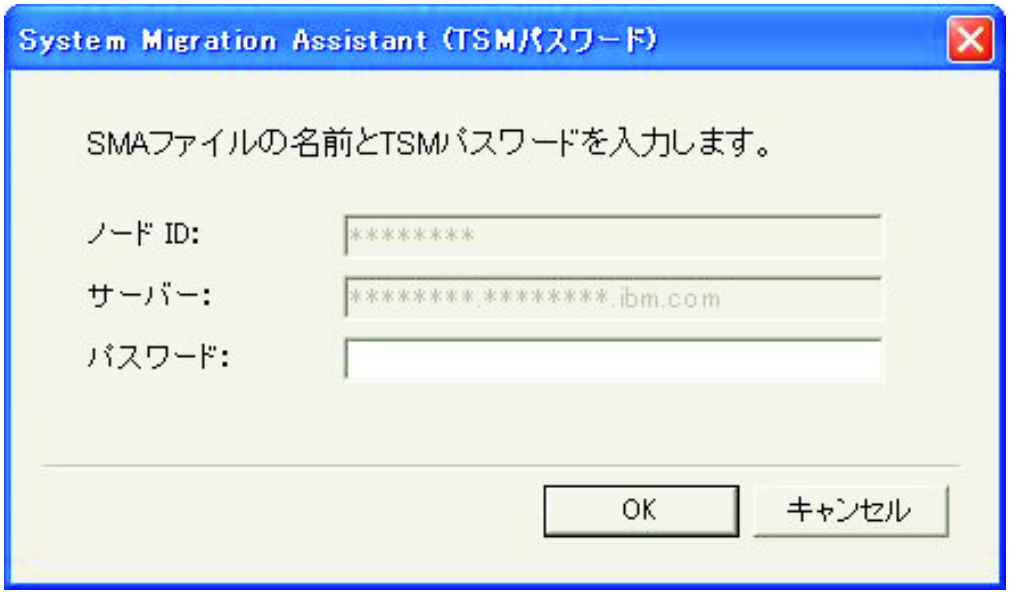

図 22. 設定の取り込み: 「TSM パスワード」ウィンドウ

パスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。

28. 「**SMA ファイルとして保管**」ラジオ・ボタンまたは「**PC からサーバーへ、次にサーバーから PC へ**」ラジオ・ボタンを選択した場合は、「SMA ファイルとして保管」ウィンドウが開きます。

図 23. 設定の取り込み: 「SMA ファイルとして保管」ウィンドウ

SMA プロファイルを保管するには、以下のステップを実行します。

a. 「**別名保管...**」をクリックします。「別名保管」ウィンドウが開きます。

b. 「**保管場所 (Save in)**」フィールドで、プロファイルを保管したいフォルダーにナビゲートします。

c. 「**別名保管**」フィールドで、プロファイルの名前を入力します。

d. 「**OK**」をクリックします。

29. 「メモ書きの追加」ウィンドウが開きます。

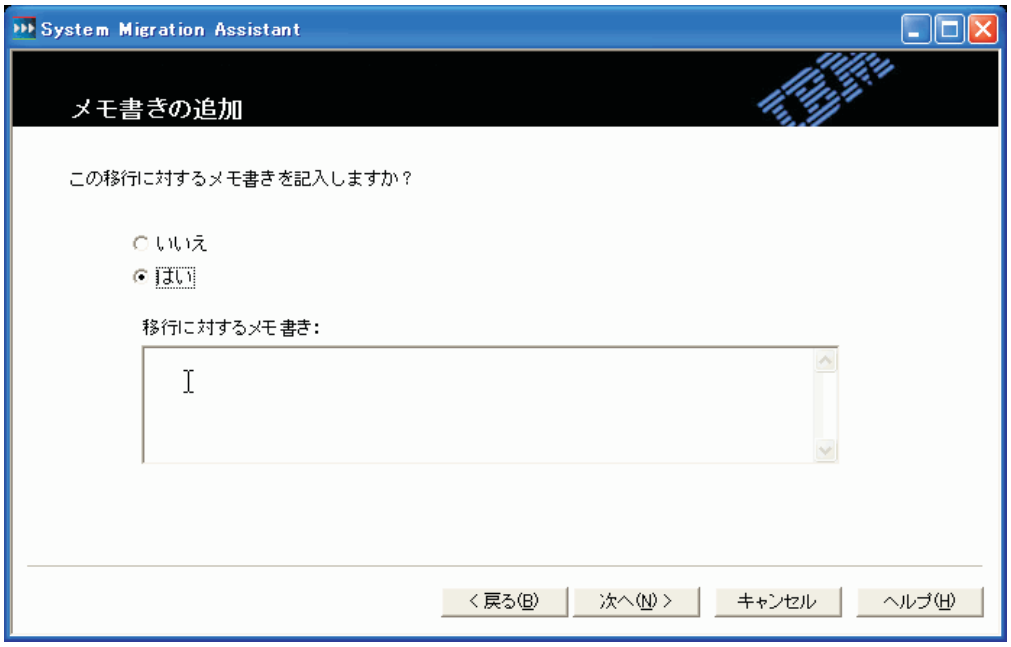

図 24. 設定の取り込み: 「メモ書きの追加」ウィンドウ

30. メモ書きを追加するには、「**はい**」ラジオ・ボタンを選択し、次に SMA プロファイルを識別するための短い説明 (最大 1024 文字まで) を入力します。

31. 「**次へ**」をクリックします。「プロファイル保護」ウィンドウが開きます。

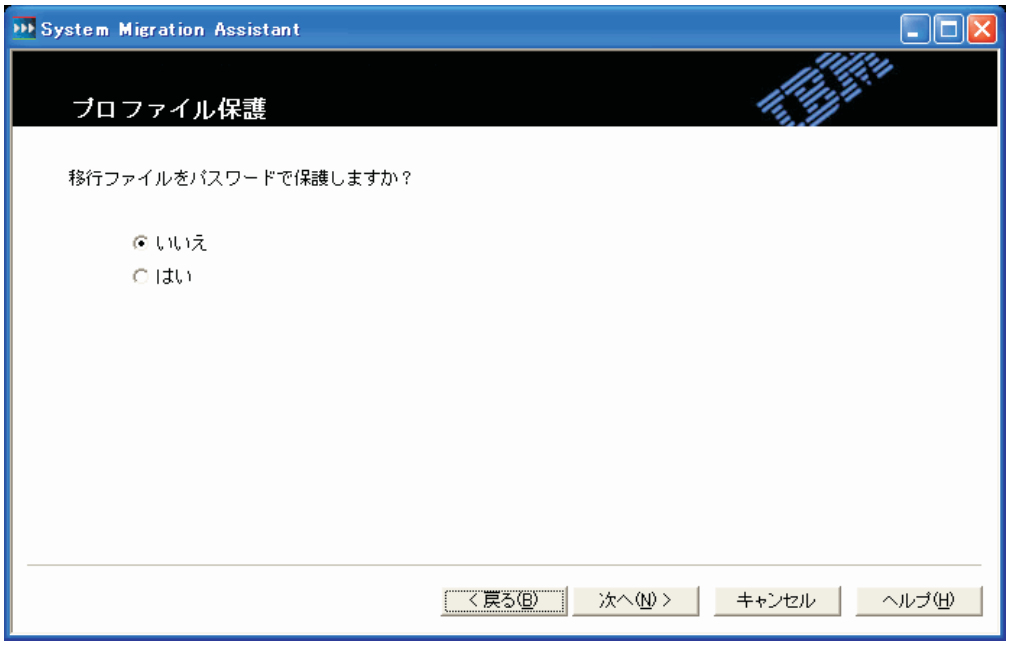

図 25. 設定の取り込み: 「プロファイル保護」ウィンドウ

32. SMA プロファイルをパスワードで保護するには、「**はい**」ラジオ・ボタンを選択します。
33. 「**次へ**」をクリックします。ステップ 32 で「**はい**」ラジオ・ボタンを選択した場合は、「パスワード」ウィンドウが開きます。以下のステップを実行します。
    a. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します。パスワードは、6 から 16 文字の長さで、先頭と末尾に非数値文字が入っていなければなりません、また、同じ文字が連続していてはなりません。
    b. 「**確認パスワード**」フィールドにパスワードを再入力します。
    c. 「**OK**」をクリックします。「コピーの進行」ウィンドウが開きます。

    パスワード保護オプションを選択しなかった場合は、「コピーの進行」ウィンドウが開きます。

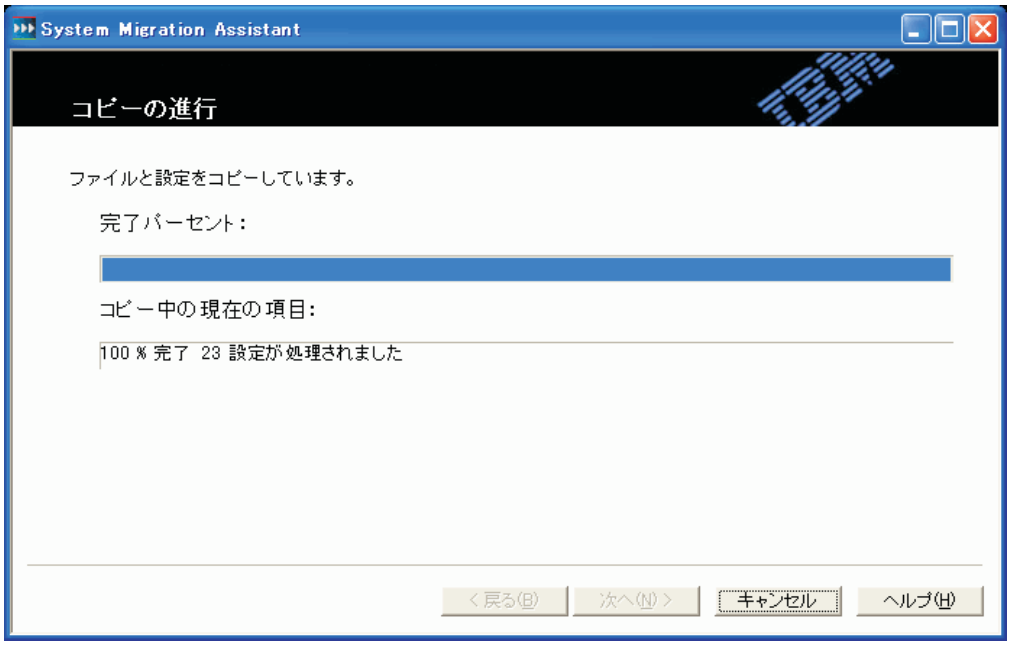

図 26. 設定の取り込み: 「コピーの進行」ウィンドウ

SMA は、設定とファイルをプロファイル・ファイルにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

プロファイル・ファイルを作成すると、「移行の要約」ウィンドウが開きます。この要約は、発生したエラーとレポート・ファイルの場所だけをリストします。

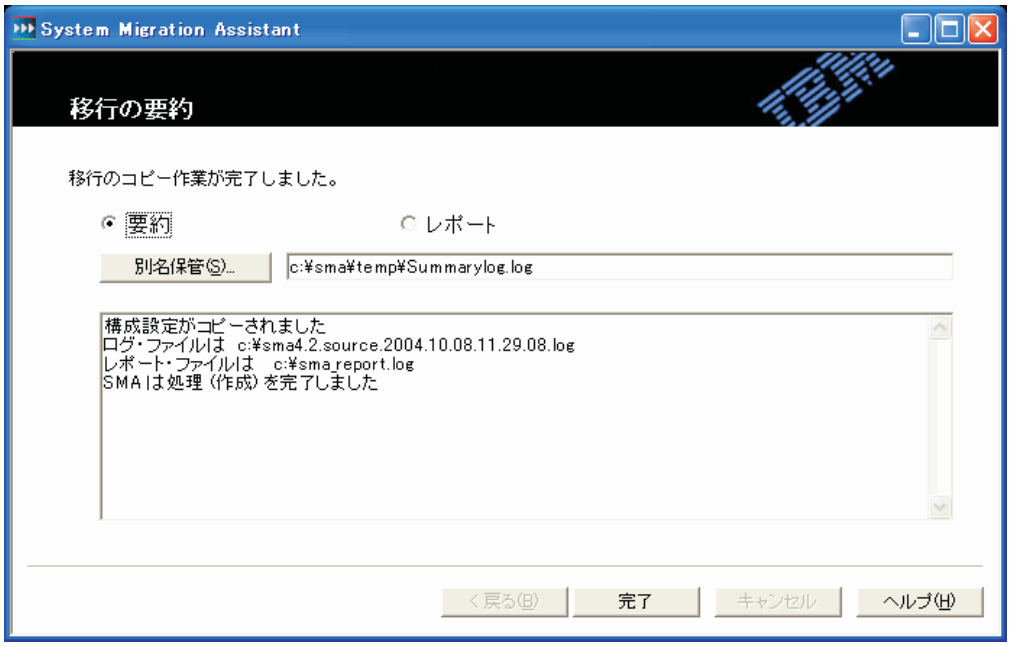

図 27. 設定の取り込み: 「移行の要約」ウィンドウ

34. レポート・ファイルを表示するには、「**レポート**」をクリックします。レポート・ファイルは、ウィンドウ下部のペインに表示されます。
35. 要約またはレポート・ファイルを別の場所に保管するには、以下のステップを実行します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「別名保管」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保管場所 (Save in)**」フィールドで、ファイルを保管したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**別名保管**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保管**」をクリックします。
36. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。

SMA プロファイルの適用

適用する前にプロファイルを編集したい場合は、36 ページの『プロファイルの編集と適用』へ進んでください。ピアツーピア移行を実行したい場合は、65 ページの『第 5 章 ピアツーピア移行の実行』へ進んでください。

注: プロファイルにドメイン設定が含まれている場合は、ターゲット・システムに新規のオペレーティング・システム・アカウントを作成してからプロファイルを適用してください。

SMA プロファイルをターゲット・システムに適用するには、以下のステップを実行します。

1. プロファイルを作成するときに使用したオペレーティング・システム・アカウントと同じアカウントを使用して、ターゲット・システムにログオンします。

   注: ソース・システムで使用したオペレーティング・システム・アカウント以外のアカウントを使用してターゲット・システムにログオンした場合は、一部のアプリケーション固有のユーザー設定が適用されないことがあります。
2. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

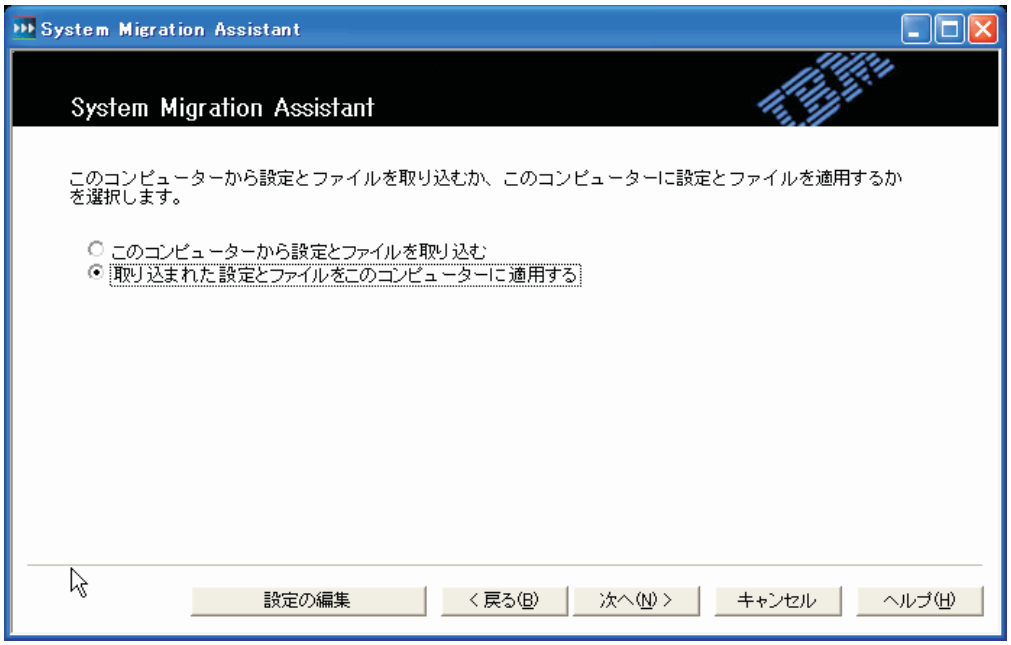

図 28. 設定の適用: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**取り込まれた設定とファイルをこのコンピューターに適用する**」をクリックし、「**次へ**をクリックします。「移行手段の選択」ウィンドウが開きます。

図 29. 設定の適用: 「移行手段の選択」ウィンドウ

4. 「**SMA ファイルから適用**」ラジオ・ボタンを選択し、「**次へ**」をクリックします。
5. 「SMA ファイルから開く」ウィンドウが開きます。

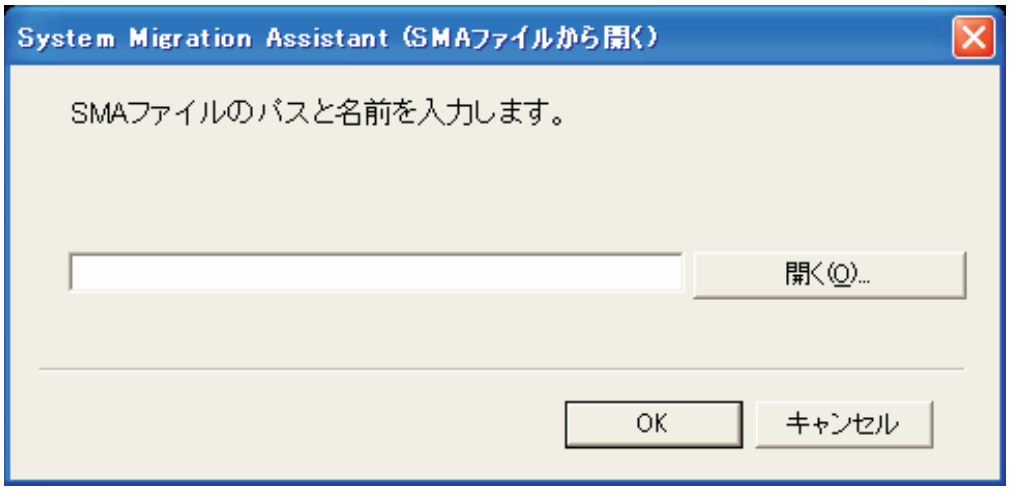

図 30. 設定の適用: 「SMA ファイルから開く」ウィンドウ

6. 「**開く...**」をクリックします。「開く」ウィンドウが開きます。
7. SMA プロファイルにナビゲートし、「**OK**」をクリックします。
8. 選択したプロファイルにメモ書きがある場合は、「メモ書きの追加」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 9 へ進みます。

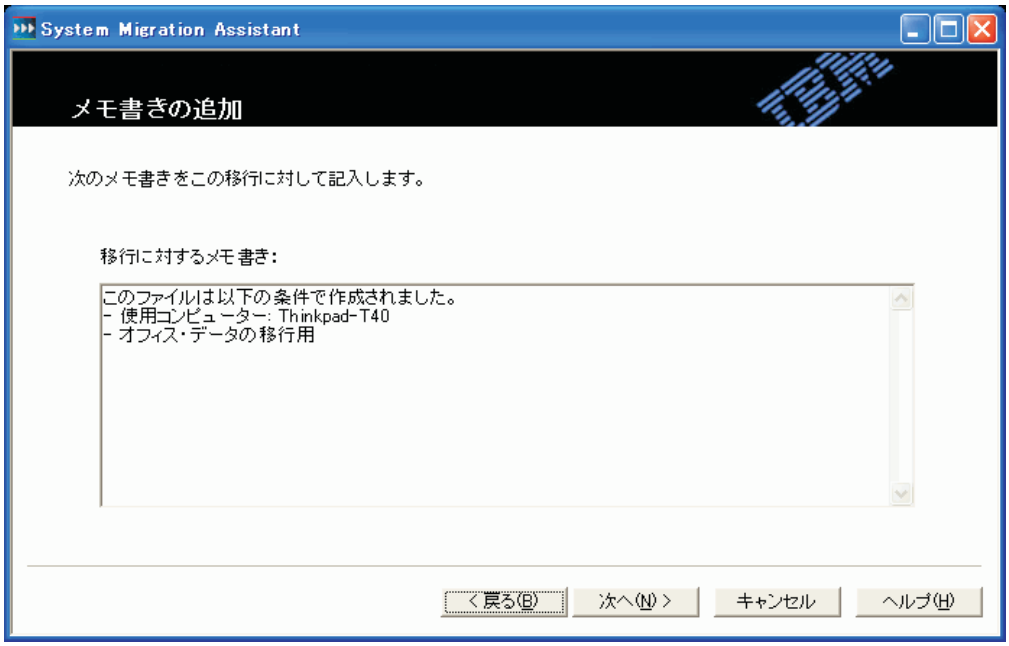

図 31. 設定の適用: 「メモ書きの追加」ウィンドウ

選択したプロファイルに関するメモが「**この移行に関するメモ**」フィールドに表示されます。

9. 「**次へ**」をクリックします。プロファイル・ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。「コピーの進行」ウィンドウが開きます。

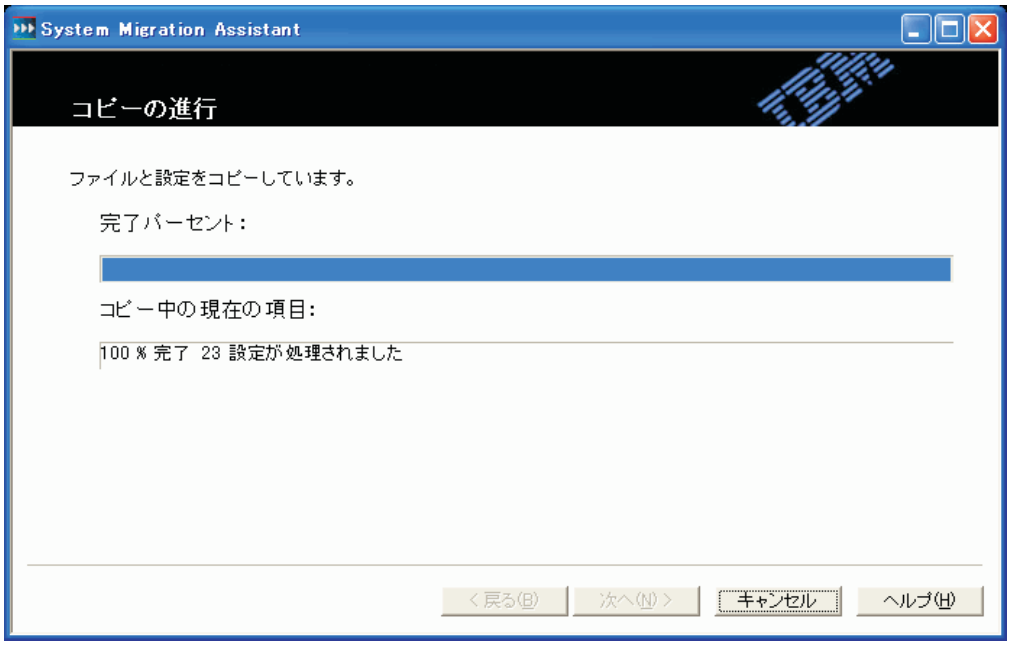

図 32. 設定の適用: 「コピーの進行」ウィンドウ

SMA は、プロファイルをターゲット・システムにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

プロファイルを適用すると、「移行の要約」ウィンドウが開きます。この要約は、発生したすべてのエラーとレポート・ファイルの場所をリストします。

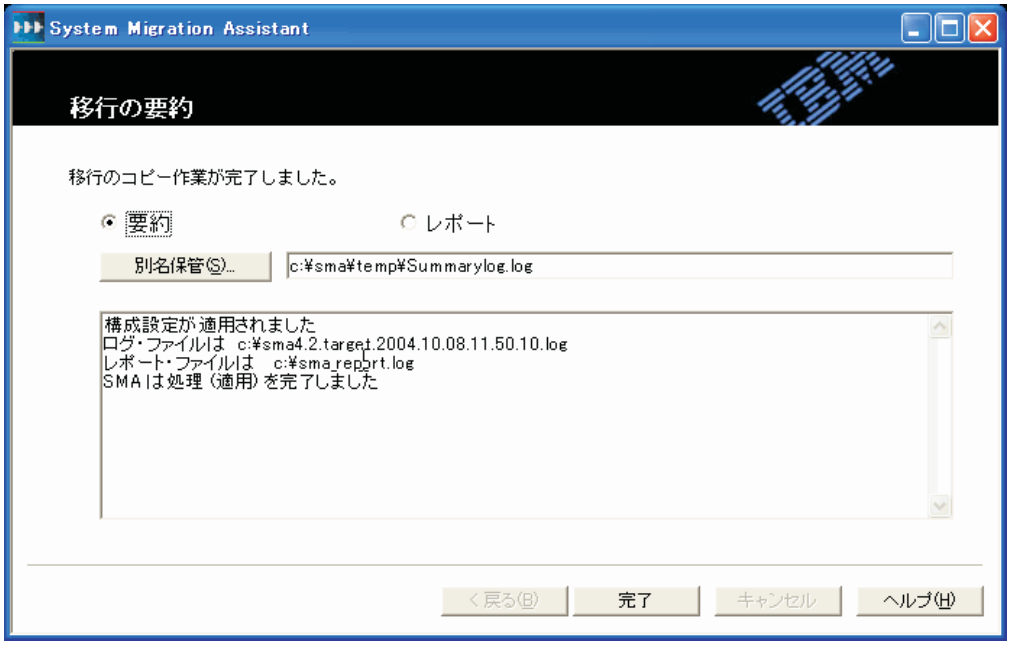

図 33. 設定の適用: 「移行の要約」ウィンドウ

10. レポート・ファイルを表示するには、「**レポート**」をクリックします。レポート・ファイルは、ウィンドウ下部のペインに表示されます。

11. 要約またはレポート・ファイルを別の場所に保管するには、以下のステップを実行します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「別名保管」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保管場所 (Save in)**」フィールドで、ファイルを保管したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**別名保管**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保管**」をクリックします。
12. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。

プロファイルの編集と適用

適用する設定とファイルを変更するように、適用フェーズでプロファイルを編集することができます。プロファイルをカスタマイズするには、「選択の編集」機能を使用します。

注: プロファイルにドメイン設定が含まれている場合は、ターゲット・システムに新規のオペレーティング・システム・アカウントを作成してからプロファイルを適用してください。

プロファイルを編集し、それをターゲット・システムに適用するには、以下のステップを実行します。

1. プロファイルを作成するときに使用したオペレーティング・システム・アカウントと同じアカウントを使用して、ターゲット・システムにログオンします。

   注: ソース・システムで使用したオペレーティング・システム・アカウント以外のアカウントを使用してターゲット・システムにログオンした場合は、一部のアプリケーション固有のユーザー設定が適用されないことがあります。
2. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

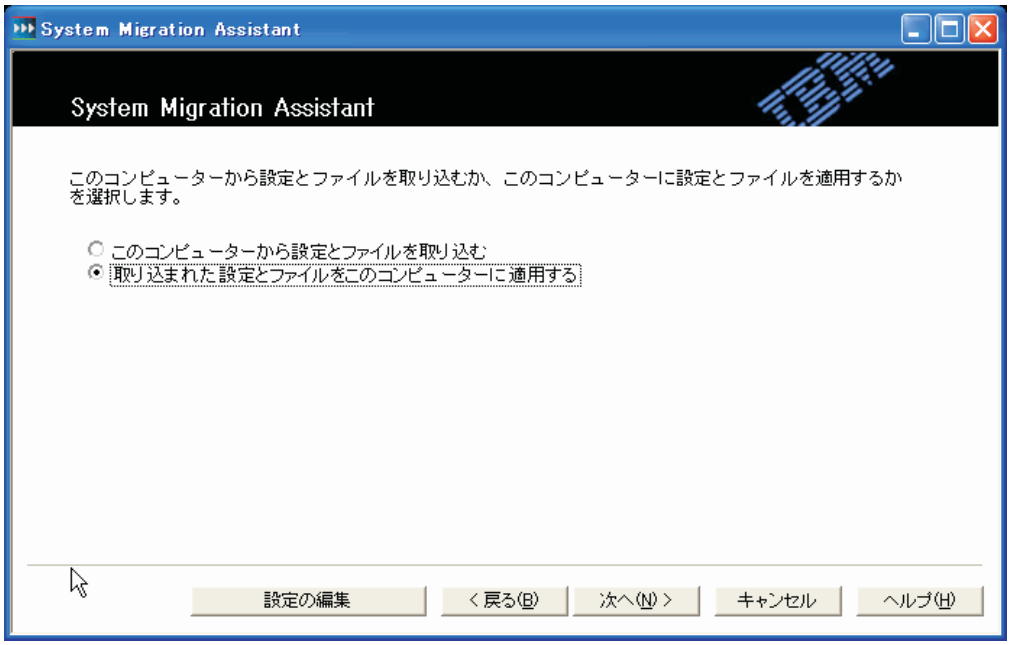

図 34. プロファイルの編集と適用: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**取り込まれた設定とファイルをこのコンピューターに適用する**」を選択し、「**次へ**」をクリックします。「移行手段の選択」ウィンドウが開きます。

図 35. プロファイルの編集と適用: 「移行手段の選択」ウィンドウ

4. 「**SMA ファイルから適用**」ラジオ・ボタンを選択し、「**選択の編集**」チェック・ボックスを選択し、次に「**次へ**」をクリックします。
5. 「SMA ファイルから開く」ウィンドウが開きます。

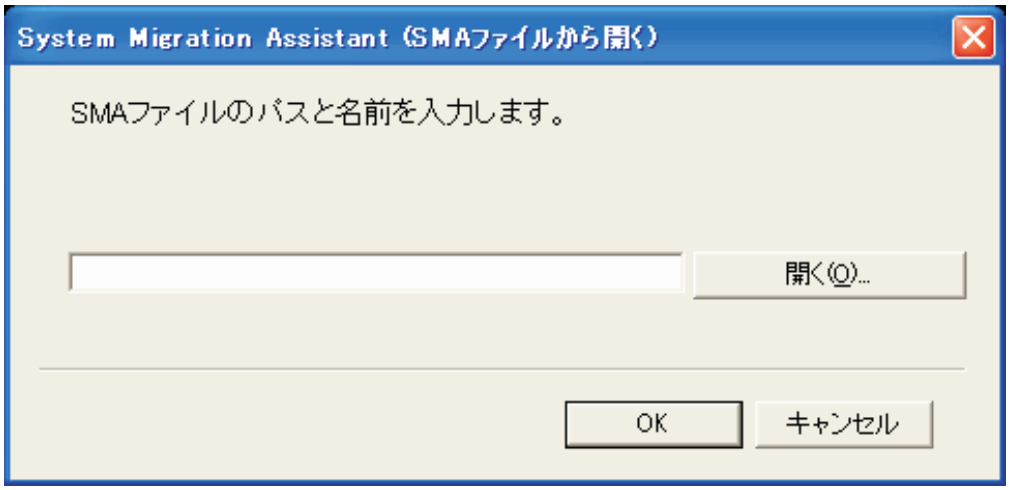

図 36. プロファイルの編集と適用: 「SMA ファイルから開く」ウィンドウ

6. 「**開く...**」をクリックします。「開く」ウィンドウが開きます。
7. SMA プロファイルにナビゲートし、「**OK**」をクリックします。
8. 選択したプロファイルにメモ書きがある場合は、「**メモ書きの追加**」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 9 へ進みます。

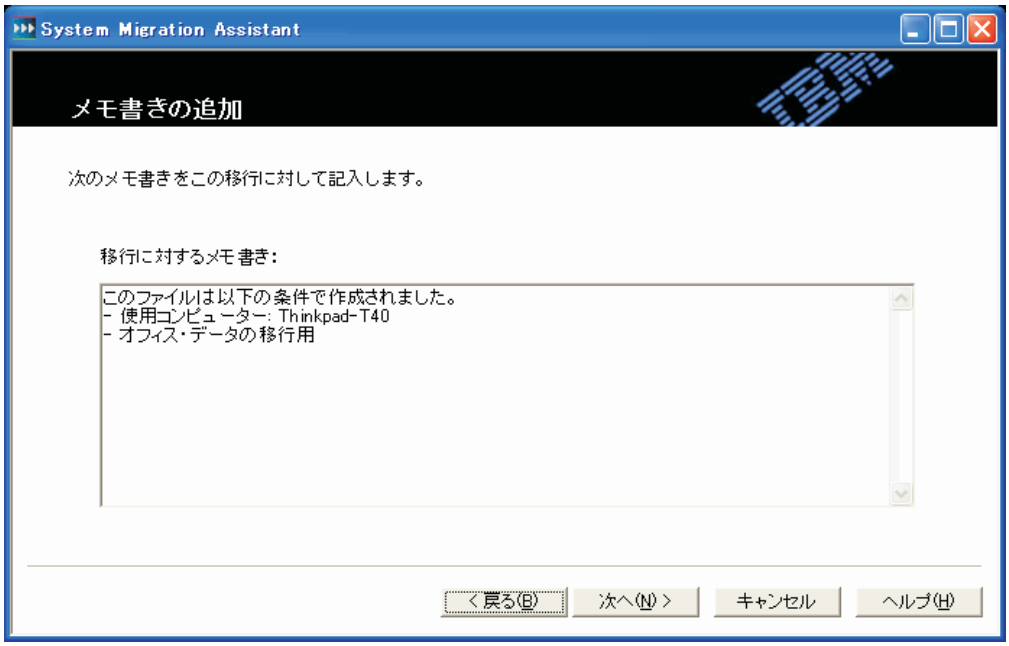

図 37. プロファイルの編集と適用: 「メモ書きの追加」ウィンドウ

選択したプロファイルに関するメモが「**この移行に関するメモ**」フィールドに表示されます。

9. 「**次へ**」をクリックします。プロファイル・ファイルがパスワードで保護されている場合は、パスワードの入力を要求されます。

10. プロファイルを取り込んだときに「ユーザー・プロファイル」オプションを選択した場合は、「ユーザー・プロファイル」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 12 へ進みます。

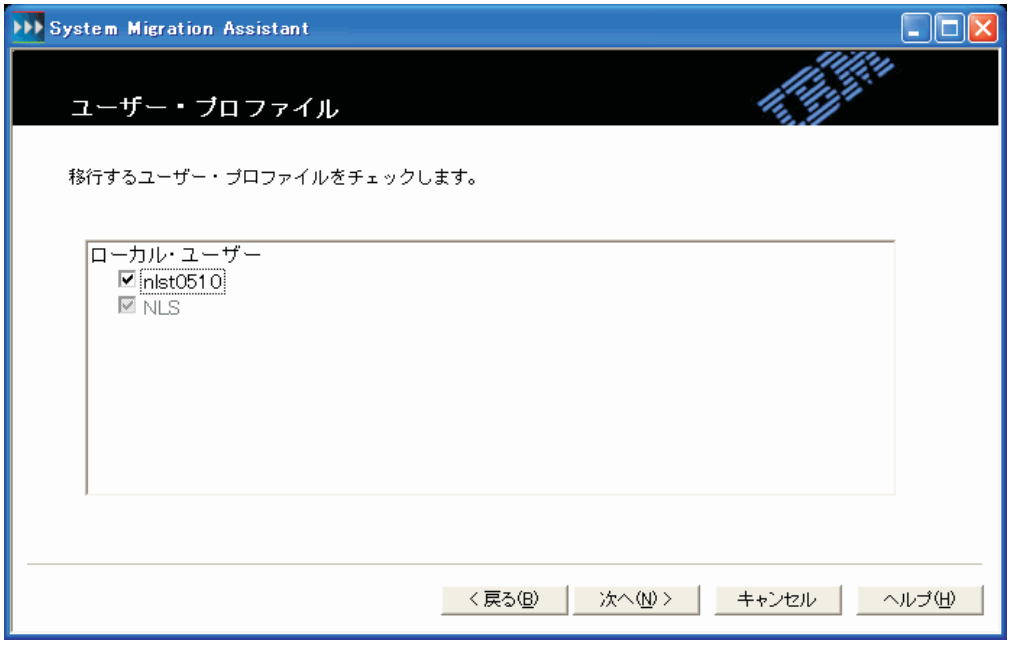

図 38. プロファイルの編集と適用: 「ユーザー・プロファイル」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したユーザー・プロファイルが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

11. 「**次へ**」をクリックします。
12. プロファイルを取り込んだときに「デスクトップ」オプションを選択した場合は、「デスクトップ設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 14 (40 ページ) へ進みます。

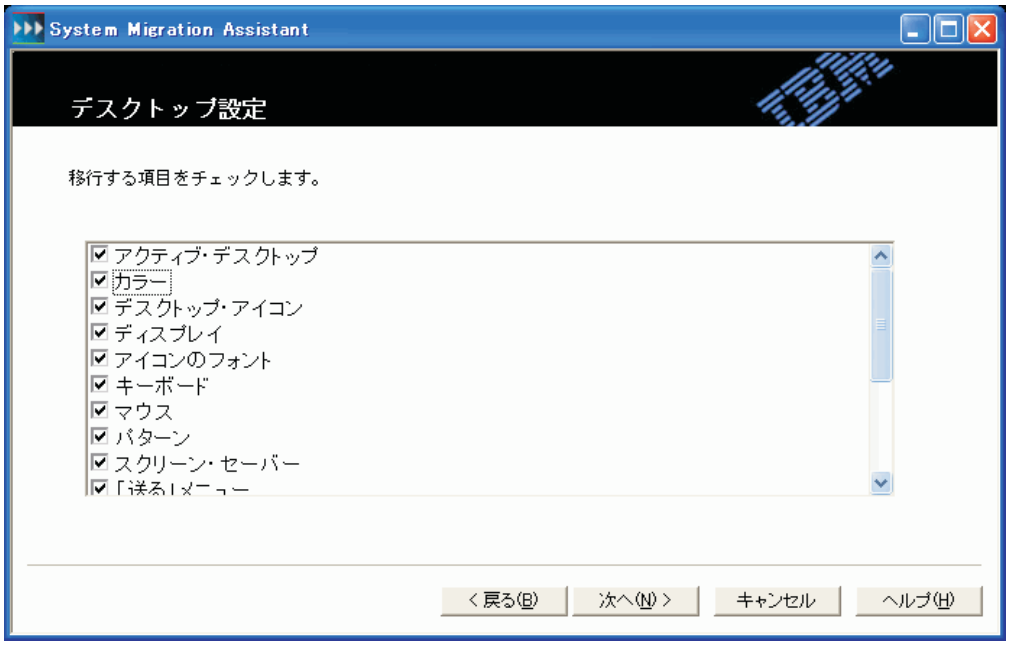

図 39. プロファイルの編集と適用: 「デスクトップ設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したデスクトップ設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

13. 「**次へ**」をクリックします。
14. プロファイルを取り込んだときに「アプリケーション設定」オプションを選択した場合は、「アプリケーション設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 22 (43 ページ) へ進みます。

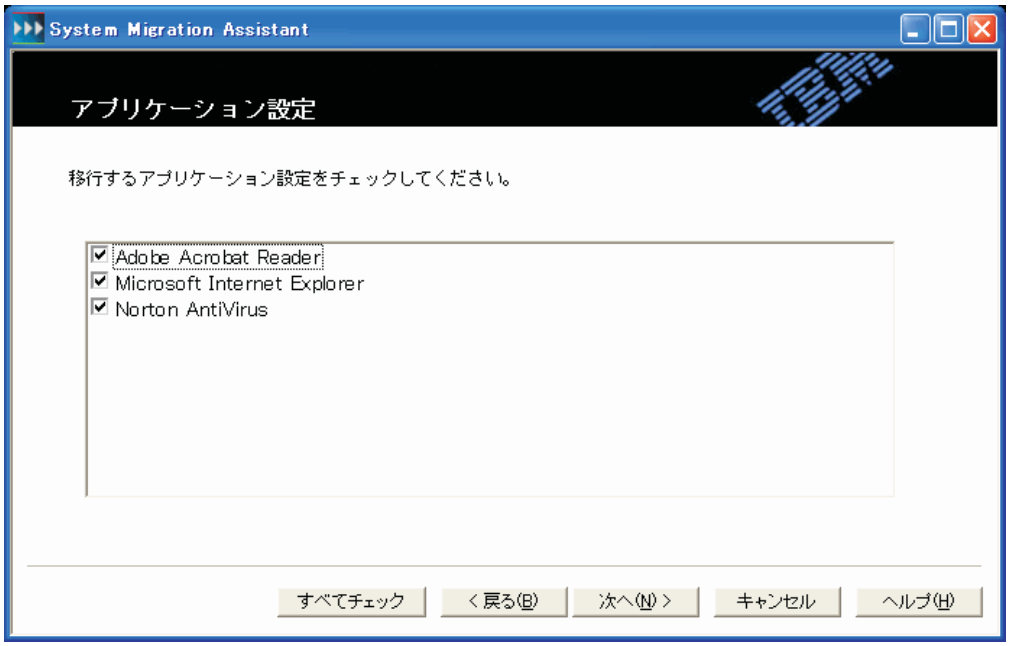

図 40. プロファイルの編集と適用: 「アプリケーション設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したアプリケーション設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

15. 「**次へ**」をクリックします。
16. プロファイルを取り込んだときに「ネットワーク」オプションを選択した場合は、「ネットワーク設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 20 (42 ページ) へ進みます。

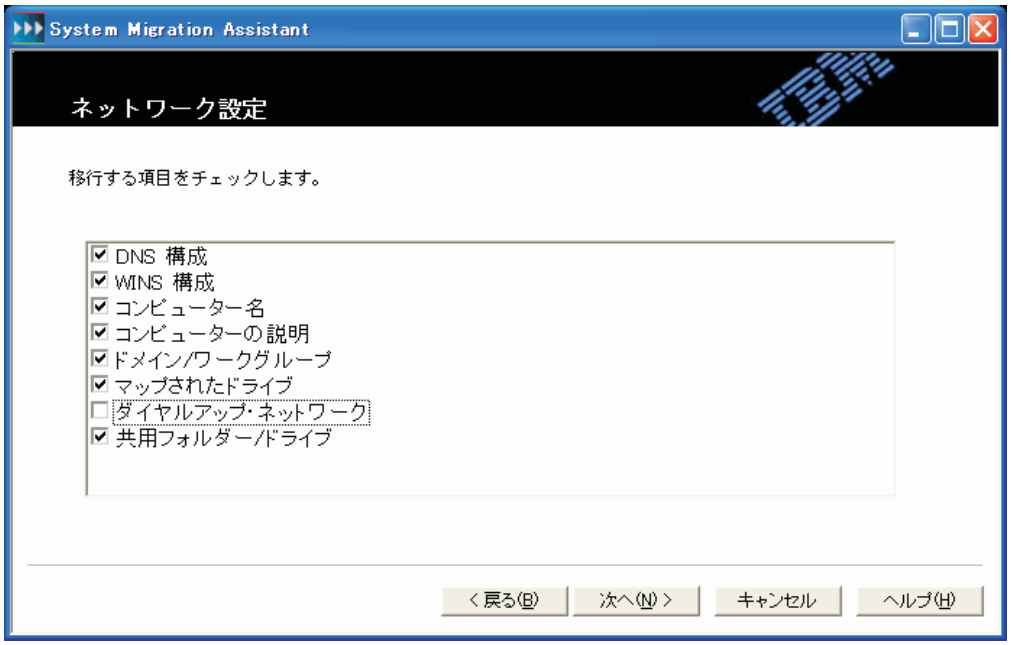

図 41. プロファイルの編集と適用: 「ネットワーク設定」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したネットワーク設定が表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

17. 「**次へ**」をクリックします。
18. プロファイルを取り込んだときに「変更可能なネットワーク」オプションを選択した場合は、「変更可能なネットワーク設定」ウィンドウが開きます。

図 42. プロファイルの編集と適用: 「変更可能なネットワーク設定」

取り込みフェーズで選択した変更可能なネットワーク設定が表示されます。

注:

a. コンピューター名とドメイン・ネームを同時に適用することはできません。両方の設定を移行したい場合は、まず、1 つの設定を適用してからプロファイルを再適用し、2 番目の設定を選択する必要があります。

b. ターゲット・システムがソース・システムと同じドメインに入っている場合に、ソース・システムを操作可能にしておきたいときは、IP アドレスとコンピューター名を変更する必要があります。

c. ドメイン・ネームを適用するには、ドメイン・コントローラーが認識できなければなりません。検索のためには、コンピューター名が PDC になければなりません。

19. 「**次へ**」をクリックします。

20. プロファイルを取り込んだときに「ファイルとフォルダー」オプションを選択した場合は、「ファイルとフォルダー」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 24 (44 ページ) へ進みます。

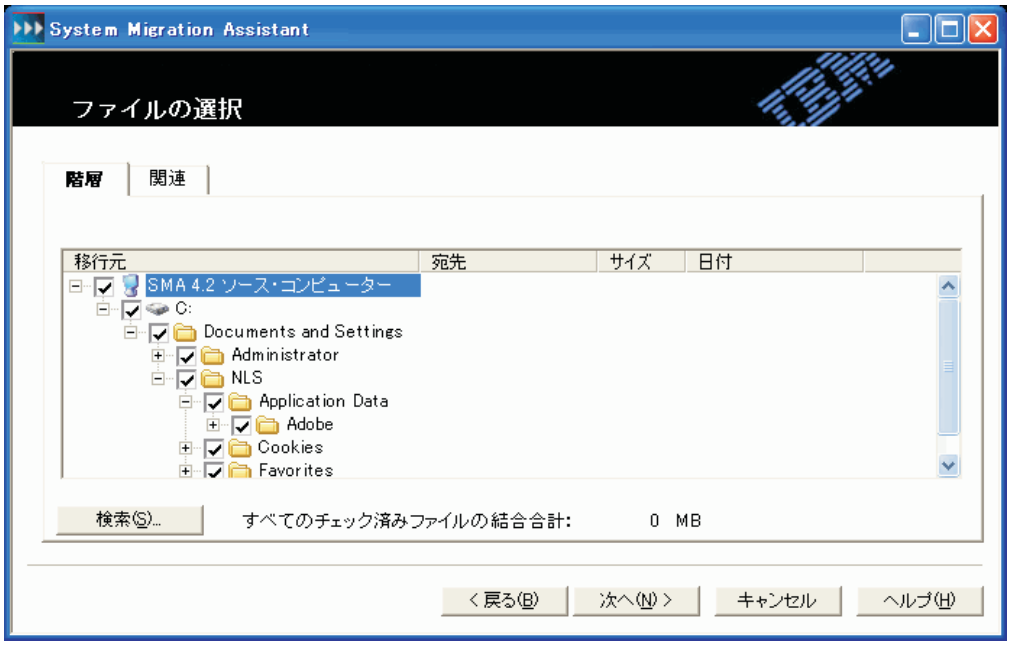

図 43. プロファイルの編集と適用: 「ファイルの選択 - 階層」ページ

取り込みフェーズで選択したファイルとディレクトリーが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

21. 「**次へ**」をクリックします。
22. プロファイルを取り込んだときに「プリンター」オプションを選択した場合は、「プリンター設定」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 16 (41 ページ) へ進みます。

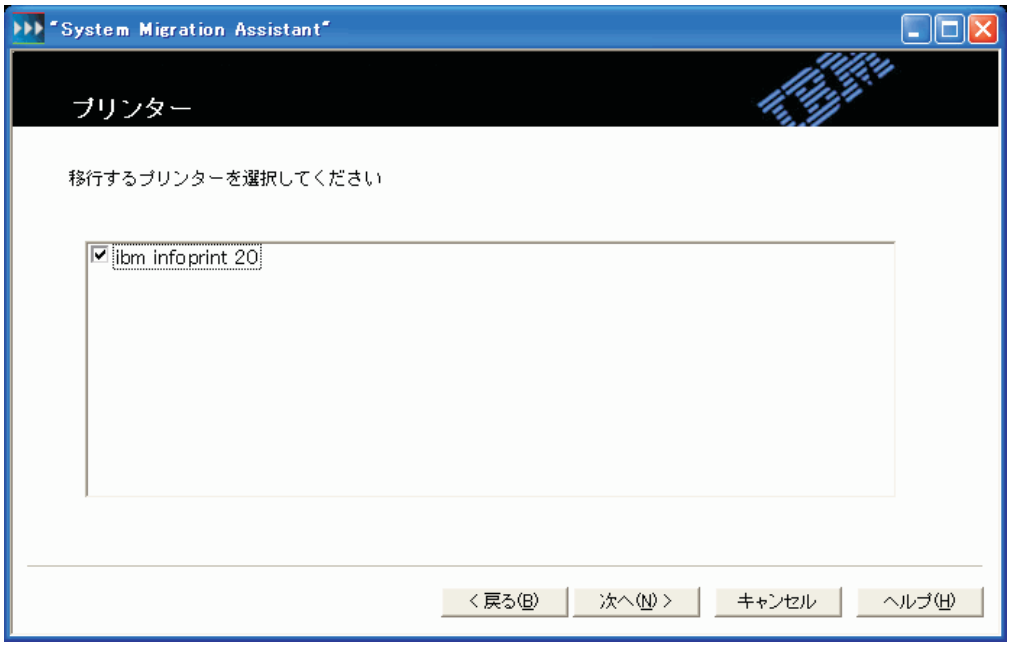

図 44. プロファイルの編集と適用: 「プリンター」ウィンドウ

取り込みフェーズで選択したプリンターが表示されます。1 つ以上のチェック・ボックスをクリアすることができます。

23. 「**次へ**」をクリックします。
24. 処理を開始するようにプロンプトが出されたら、「**はい**」をクリックします。ドメイン設定を移行する場合は、「ドメイン権限ダイアログ」ウィンドウが開きます。それ以外の場合は、ステップ 27 へ進みます。

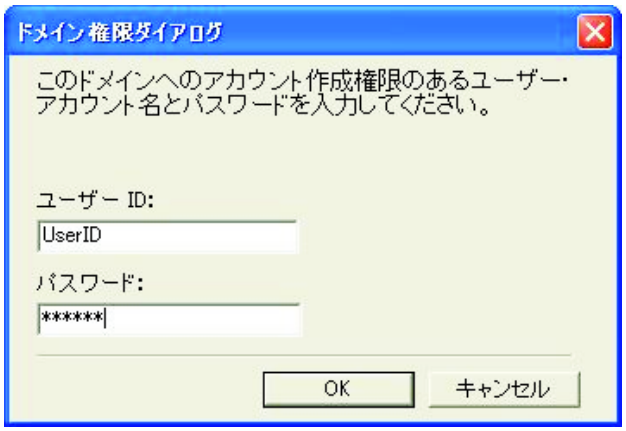

図 45. プロファイルの編集と適用: 「ドメイン権限ダイアログ」ウィンドウ

25. アカウントをドメインに作成するには、権限を持つ既存のオペレーティング・システム・アカウントのユーザー名とパスワードを入力します。
26. 「**OK**」をクリックします。
27. 「コピーの進行」ウィンドウが開きます。

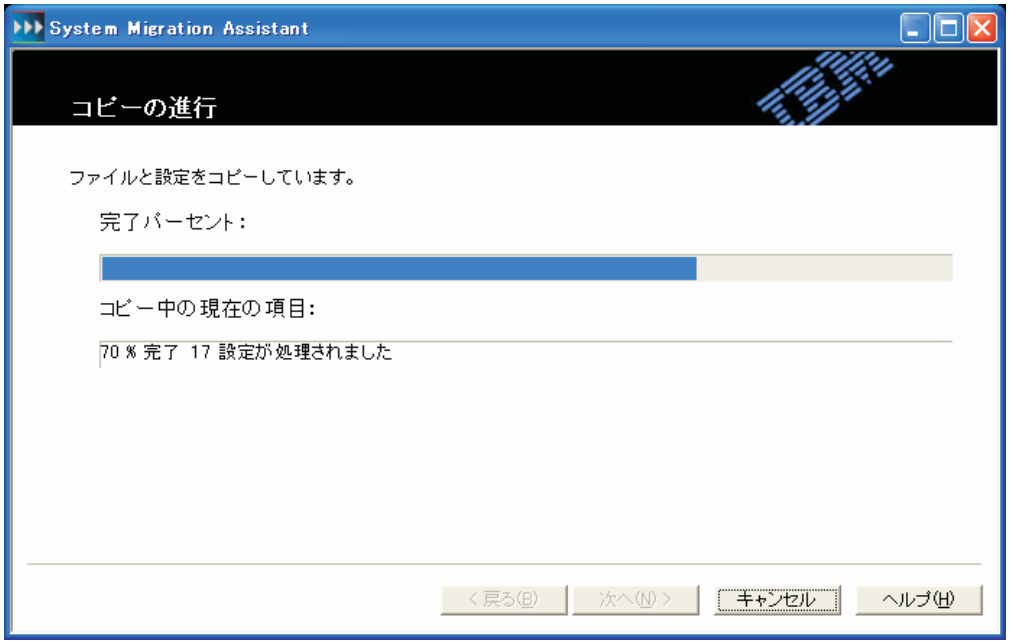

図 46. プロファイルの編集と適用: 「コピーの進行」ウィンドウ

SMA は、プロファイルをターゲット・システムにコピーします。コピーする設定とファイルの数によっては、コピー操作に数分かかることがあります。

アテンション: 「**キャンセル**」をクリックしてコピー・プロセスを停止することができます。ただし、SMA による移行処理中のすべての未完了設定も含め、「**キャンセル**」をクリックする前に完了したすべての変更が適用されます。適用された設定によっては、オペレーティング・システムが不安定になったり、失敗したりすることがあります。

28. プロファイルを適用すると、「移行の要約」ウィンドウが開きます。この要約は、発生したすべてのエラーとレポート・ファイルの場所をリストします。

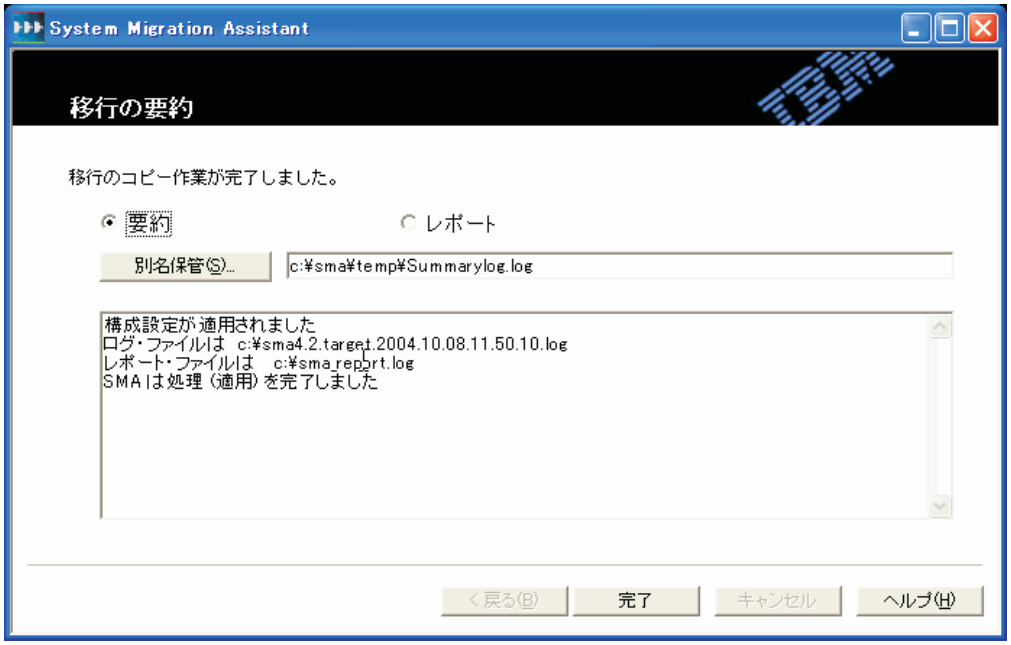

図 47. プロファイルの編集と適用: ソースの「移行の要約」ウィンドウ

29. レポート・ファイルを表示するには、「**レポート**」をクリックします。レポート・ファイルは、ウィンドウ下部のペインに表示されます。
30. 要約またはレポート・ファイルを別の場所に保管するには、以下のステップを実行します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。
    b. 「**別名保管...**」をクリックします。「別名保管」ウィンドウが開きます。
    c. 「**保管場所 (Save in)**」フィールドで、ファイルを保管したいディレクトリーにナビゲートします。
    d. 「**別名保管**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    e. 「**保管**」をクリックします。
31. 「**完了 (Finish)**」をクリックします。プロファイルの内容に応じて、システムの再始動を要求されることがあります。

第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行

この章では、移行をバッチ・モードで実行する方法について説明します。

標準モード移行とバッチ・モード移行を交互に使用することができます。ファイルと設定を取り込むか、または GUI を使用してプロファイルを適用すると、smabat.exe がバックグラウンドで開始されます。ファイルの移行はどちらのモードでも同じ働きをします。ただし、バッチ・モードの場合、ファイルとフォルダーの選択は、特性の組み込みと排他を使用して行います。

標準モードとバッチ・モードで作成したプロファイルは同じです。プロファイルをバッチ・モードで作成した場合は、ユーザー・インターフェースを使用してそのプロファイルを開き、その内容を調べることができます。同様に、GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。ただし、ファイル移行基準を手動で追加しなければなりません。

smabat 構文

SMA 実行可能ファイルは smabat.exe です。 SMA をデフォルトの場所にインストールした場合は、それは *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

smabat コマンドは次の構文を使用します。

```
smabat /c :cmdfile [/n smafile] | /a [cmdfile] /n smafile | /e smafile [options]
```

注: 完全修飾ファイル名にスペース (たとえば、c:¥Program Files¥IBM¥SMA¥Commandfile.txt) が含まれている場合は、そのファイル名を引用符で囲む必要があります。

次の表は、SMABAT コマンドの基本パラメーターを示したものです。

表 2. 基本 SMABAT パラメーター

機能	構文	作業の内容
取り込み	/c *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルの完全修飾ファイル名です。 • /n *smafile* は代替プロファイルを指定するオプショナル・パラメーターであり、*smafile* はプロファイルの完全修飾名です。	コマンド・ファイルに指定されたファイルと設定を取り込み、プロファイルを作成します。デフォルトでは、プロファイルは、コマンド・ファイルで指定されたディレクトリーに書き込まれます。プロファイルは、代替ディレクトリーに書き込むこともできます。
適用	/a *cmdfile* /n *smafile* ここで、 • *cmdfile* は、コマンド・ファイルを指定するオプショナル・パラメーターです。 • *smafile* は、プロファイルの完全修飾名です。	プロファイルに指定されたファイルと設定を適用します。プロファイルに対してコマンド・ファイルを実行してから、コマンド・ファイルをターゲット・システムに適用することもできます。

© Copyright IBM Corp. 2004

表 2. 基本 SMABAT パラメーター (続き)

機能	構文	作業の内容
抽出	/e *smafile* ここで、*smafile* はプロファイルの完全修飾名です。	プロファイルの作成に使用したコマンド・ファイルを抽出します。

smabat コマンドに使用できる追加のオプショナル・パラメーターがあります。次の表は、オプションの SMA パラメーターを示しています。

表 3. オプションの SMABAT パラメーター

機能	構文	作業の内容
ログ・ファイル	/o *logfile* ここで、*logfile* は、ログ・ファイルの完全修飾ファイル名です。	ログ・ファイルの場所を指定します。
一時ディレクトリー	/t *tmpdir* ここで、*tmpdir* は、一時 SMA ディレクトリーのプロファイルの完全修飾名です。	一時 SMA ディレクトリーの位置を指定します。
パスワード	/p *smapwd* ここで、*smapwd* は、以下のいずれかの値です。 • 取り込みフェーズでプロファイルをパスワード保護するために使用したパスワード • 適用フェーズでパスワード保護プロファイルにアクセスするために使用したパスワード パスワードは以下の基準を満たしていなければなりません。 • 少なくとも 6 文字で、16 文字以下とする • 先頭と末尾の位置に非数値文字が含まれていなければならない • 連続した同一の 2 文字を持っていない	SMA プロファイルのパスワードを指定します。
ドメイン・アカウント情報	/jdu *userid* /jdp *pwd* ここで、 • *userid* は既存のユーザー名です。 • *pwd* は対応するパスワードです。 オペレーティング・システム・アカウントは、アカウント所有者または管理者特権をドメインに持っていなければなりません。	/jdu は、ドメイン・ユーザー名を指定します。/jdp は、ユーザー名のパスワードを指定します。このパラメーターは、ドメイン設定を移行する場合にのみ必要です。 **注:** このパラメーターは、適用コマンドでのみ使用できます。
冗長ロギング	/v	冗長ロギングを使用可能にします。

コマンド・ファイルの作成

取り込みフェーズで、smabat.exe は、コマンド・ファイルの内容を読み取り、プロファイルを作成します。このセクションでは、コマンド・ファイルとコマンド・ファイルに含まれているステートメントについて説明します。

SMA は、カスタマイズされたコマンド・ファイルを作成する際にテンプレートとして使用できるデフォルトのコマンド・ファイル (commandfile.txt) を提供します。SMA をデフォルトの場所にインストールした場合は、このファイルは *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

SMA コマンド・ファイルについて、以下の点を考慮してください。

- コメントであることを示すためにセミコロンを使用する。
- **smabat** コマンドには大文字と小文字の区別がない。
- **smabat** コマンドは、ステートメントがコマンド・ファイルに入っている順序でステートメントを処理する。
- 各セクションには、先頭と末尾に明確なマークをつける必要がある。各パラメーターとその値は別の行に入力しなければならない。
- 構文エラーがあると、SMA の実行時にエラーになります。SMA にエラーが発生すると、SMA はそのエラーをログ・ファイルに書き込んで操作を続行します。エラーの重大度によっては、最終結果に欠陥が含まれていることがあります。

コマンド・ファイルのコマンド

次の表は、コマンド・ファイルに使用できるコマンドを示したものです (ただし、ファイルの移行とレジストリーに関するコマンドを除きます)。

表 4. コマンド・ファイルのコマンド

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
password	plain_password	パスワードを指定するには、英数字ストリングに plain_password を指定します。このストリングは、4 から 16 文字の長さでなければなりません。 /p パラメーターをコマンド行プロンプトから実行すると、指定したパスワードが、コマンド・ファイルに設定されているすべてのパスワードを上書きします。 **注:** 実行可能な SMA プロファイルでパスワードを使用することはできません。

profile_path_and_name	output_profile	プロファイル・ファイルのパス名とファイル名を指定するには、プロファイル・ファイルのパス名とファイル名に output_profile を設定します。
		
		例:
		`[profile_path_and_name_start]`
		`output_profile = c:¥temp¥myprofile.sma`
		`[profile_path_and_name_end]`
		
		また、以下の表記を使用してプロファイル・ファイルの場所を指定することもできます。
		`¥¥mycomputer¥temp¥myprofile.sma`

表 4. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
desktop	• accessibility • active_desktop • colors • desktop_icons • display • icon_font • keyboard • mouse • pattern • screen_saver • sendto_menu • shell • sound • start_menu • taskbar • wallpaper • window_metrics	デスクトップの設定を選択する場合は、パラメーターを 1 に設定します。選択しない場合は、パラメーターを 0 に設定するか、指定解除します。
network	• ip_subnet_gateway_configuation • dns_configuration • wins_configuration • computer_name • computer_description • domain_workgroup • mapped_drives • shared_folders_drives • dialup_networking • microsoft_networking • odbc_datasources	ネットワークの設定を選択する場合は、パラメーターを 1 に設定します。選択しない場合は、パラメーターをゼロに設定するか、指定解除します。

applications	サポートされるアプリケーションのリストについては、 95 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。	サポートされるアプリケーション設定の取り込みまたは適用を行うには、アプリケーション名をパラメーターとしてコマンド・ファイルに指定します。
		
		例:
		`[applications_start]`
		`Lotus Notes`
		`Lotus SmartSuite`
		`Microsoft Office`
		`Microsoft Outlook`
		`[applications_end]`

表 4. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例

userprofiles	GetAllUserProfiles domain¥username	すべてのユーザー・プロファイルを取り込むには、GetAllUserProfiles を 1 に設定するか、すべてのユーザーについて * をワイルドカードとして使用します。それ以外の場合は、ユーザーを個別に指定します。
		次のワイルドカードが使用可能です。
		* は可変長のワイルドカード用です。
		% は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。
		
		例:
		`[userprofiles_start]`
		`JANESCOMPUTER¥administrator`
		`MYDOMAIN¥janed`
		`DEPT_R13¥*`
		`[userprofiles_end]`

excludeuserprofiles	domain¥username	移行処理からユーザーを除外するには、ユーザーのドメインおよびユーザー名を指定します。
		次のワイルドカードが使用可能です。
		* は可変長のワイルドカード用です。
		% は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。
		
		例:
		`[[excludeuserprofiles_start]`
		`JANESCOMPUTER¥tmpuser*`
		`DEPT_L62¥guestuser*`
		`[excludeprofiles_end]`

移行上のメモ		プロファイルに関連する情報を組み込むには、メモを入力します。このメモは、1024 文字以内の長さでなければなりません。
misc_settings	bypass_registry	すべてのレジストリーの設定を選択解除する場合は、bypass_registry を 1 に設定します。選択解除しない場合は、bypass_registry をゼロに設定するか、指定解除します。
	quota	取り込むことができる解凍データの量を制限するには、限度を MB で指定します。
	stop_if_quota_exceeded	割り当て量が超過したときに SMA を停止する場合は、stop_if_quota_exceeded を 1 に設定します。停止しない場合は、パラメーターをゼロに設定するか、指定解除します。
	printers	プリンター設定の取り込みまたは適用を行うには、printers を 1 に設定します。それを行わない場合は、printers をゼロに設定します。 **注:** このパラメーターはオプションではありません。
	defaultprinteronly	デフォルトのプリンター設定のみを移行する場合は、defaultprinteronly を 1 に設定します。それ以外の場合は、パラメーターをゼロに設定するか、指定解除します。
	capture_ntfs_attribute	パラメーターを選択する場合は、capture_nfts_attribute を 1 に等しく設定します。それ以外の場合は、パラメーターをゼロに設定するか、指定解除します。
	user_exit	移行が完了した後でアプリケーションを起動するには、user_exit を実行可能ファイルの完全修飾名に設定します。
	overwrite_existing_files	既存のファイルを上書きする場合は、overwrite_existing_ を 1 に設定します。上書きしない場合は、overwrite_existing_files を 0 に設定するか、指定解除します。

表 4. コマンド・ファイルのコマンド (続き)

コマンド	パラメーター	パラメーター値と例
misc_settings (続き)	temp_file_location	SMA が一時ファイルを書き込むディレクトリーを指定するには、temp_file_location を完全修飾ディレクトリー名に設定します。指定するディレクトリーは、他のシステム上の共用ディレクトリーにすることができます。 このパラメーターを設定しないと、SMA は、一時ファイルを *d*:¥sma¥temp に書き込みます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
	log_file_location	SMA がログ・ファイルを書き込むディレクトリーを指定するには、log_file_location を完全修飾ディレクトリー名に設定します。指定するディレクトリーは、他のシステム上の共用ディレクトリーにすることができます。 このパラメーターを設定しないと、SMA は、一時ファイルを *d*:¥ に書き込みます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
	alternate_print_driver_location	プリンター・ドライバー・ファイルの代替場所を指定するには、alternate_print_driver_location を該当パスに設定します。
	removable_media	除去可能メディアを使用可能にする場合は、removable_media を 1 に設定します。それ以外の場合は、パラメーターを 0 に設定するか、指定解除します。
	AutoReboot	ターゲット側の移行の後でシステムを自動的に再始動 (リブート) するには、AutoReboot を 1 に設定します。ユーザーがシステムをリブートしたいか尋ねるポップアップ・ウィンドウを表示するには、AutoReboot を 2 に設定します。それ以外の場合は、AutoReboot を 0 に設定するか、指定解除します。
	resolve_icon_links	アクティブ・リンクを持つアイコンのみをコピーする場合は、resolve_icon_links を 1 に設定します。それ以外の場合は、パラメーターを 0 に設定するか、指定解除します。
	createselfextractingexe	実行可能 SMA プロファイルを作成するには、createselfextractingexe を 1 に設定します。作成しない場合は、パラメーターを 0 に設定します。 **注:** 実行可能な SMA プロファイルでパスワードを使用することはできません。
	using_peer_to_peer_migration	ピアツーピア移行を実行する場合は、using_peer_to_peer_migration を 1 に設定します。実行しない場合は、パラメーターを 0 に設定します。 **注:** createselfextractingexe パラメーターと using_peer_to_peer_migration パラメーターの両方を 1 に設定することはできません。ピアツーピア移行の実行と実行可能 SMA プロファイルの作成を同時に行うことはできません。
editable_connectivity	computer_name	ターゲット・システムのコンピューター名を指定します。
	computer_description	ターゲット・システムの記述を指定します。
	ip_address	ターゲット・システムのIP アドレスを指定します。
	subnet	ターゲット・システムのサブネットを指定します。
	gateway	ターゲット・システムのゲートウェイを指定します。
	domain_workgroup	ターゲット・システムのドメイン・ワークグループを指定します。

ファイル移行コマンド

SMA は、ファイル移行コマンドを厳密なシリアル順序で処理します。たとえば、ファイル組み込みコマンドの後にファイル除外コマンドが続き、そのコマンドの後にファイル組み込みコマンドが続いている場合は、SMA は、最初のコマンドに基づいてファイルを組み込んだ後に、除外コマンドに基づいてファイルを結果のセットから除外し、次に 3 番目のコマンドに基づいて、スキャン済みファイルのオリジナル・セットからファイルを除外します。

SMA は、ソース・コンピューター上のファイルとフォルダーのオリジナルの場所に基づいて、ファイルの選択と選択解除を行います。ファイル・リダイレクト・ステートメントはプロファイルに保管され、ファイル選択解除コマンドを処理した後の適用フェーズで解釈されます。

ファイル名とフォルダー名の処理では、大文字小文字の区別はありません。ファイル移行コマンドに複数のステートメントが含まれている場合は、最後のステートメントのみが使用されます。

次の表は、ファイル移行コマンドに関する情報を示したものです。すべてのファイル移行コマンドはオプションです。

表 5. ファイル移行コマンド

コマンド	パラメーター	作業の内容
exclude_drives	ハード・ディスク・ドライブのドライブ名。	ドライブをスキャン対象から除外します。 **注:** このコマンドを使用するには、それをコマンド・ファイルのファイル移行セクションの先頭に置く必要があります。

表 5. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容

IncludeFile	*Filename*, [*TargetDirectory*] [*Operand* , *DateOrSize*]
	
	ここで、
	• *Filename* は完全修飾ファイル名です。ファイル名にのみ、ワイルドカード文字を使用することができます。「My Documents」などの論理場所は使用できません。
	• *TargetDirectory* はオプショナル・パラメーターで、ファイルを書き込むターゲット・システム上の場所を指定します。ディレクトリー名にワイルドカード文字を使用することはできませんが、論理名は使用できます。
	• [*Operand* , *DateOrSize*] はオプショナル・コマンドで、ファイルの経過日数またはサイズに基づいてファイルを選択する場合に使用します。ここで、
	– *Operand* は NEWER または OLDER のいずれかであり、*DateOrSize* は mm/dd/yyyy フォーマットのベースライン日付です。
	– *Operand* は LARGER または SMALLER のいずれかであり、*DateOrSize* はファイル・サイズ (MB 単位) です。
	
	たとえば、次のコマンドは .cpp 拡張子を持つすべてのファイルを “MyCode” ディレクトリーからコピーし、それらをターゲット・システム上の「My Documents」のサブディレクトリーに書き込みます。
	`[includefile_start]`
	`D:¥MyCode¥*.cpp, My Documents¥MyCode`
	`[includefile_end]`
	
	次のコマンドは、10/08/2002 の後に作成されたファイルだけを移行するために、ファイル組み込み機能をさらに絞り込んでいます。
	`[includefile_start]`
	`D:¥MyCode¥*.cpp, My Documents¥MyCode, NEWER,10/08/2002`
	`[includefile_end]`
		指定されたディレクトリー (ただしそのサブディレクトリーは含まない) に入っているすべての一致ファイルを検索します。
		注: 論理名「My Documents」は、ハード・ディスク・ドライブ上の正しい論理場所に変換されます。「My Documents」は、Windows NT 4.0 Workstation と Windows NT 4.0 Server では使用されません。

IncludePath	*Path* , [*TargetDirectory*]
	
	ここで、
	• *Path* はディレクトリーの場所です。ワイルドカード文字は使用できません。
	• *TargetDirectory* はオプショナル・パラメーターで、ファイルを書き込むターゲット・システム上の場所を指定します。ディレクトリー名にワイルドカード文字を使用することはできませんが、論理名は使用できます。
	
	たとえば、次のコマンドは、WhiteMice ディレクトリーの内容をコピーし、それらをターゲット・システム上の「My Documents」のサブディレクトリーに書き込みます。
	`[includepath_start]`
	`C:¥Project_1¥Lab23¥1998¥WhiteMice, My Documents¥WhiteMice`
	`[includepath_end]`
		ディレクトリーを指定し、それとその内容をプロファイルにコピーします。必要なプロファイルを保管するために、ターゲット・システム上のディレクトリーの位置を指定することもできます。

表 5. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容
IncludeFileDescription	*filename*, [*start*], [*newlocation*] [p | r],[*Operand* , *DateOrSize*] ここで、 • *filename* はファイル名です。これには、ワイルドカード文字を組み込むことができます。 • *start* は、検索の開始場所を指定するオプショナル・コマンドです。この場所は、ハード・ディスク・ドライブ名、ディレクトリー、または「My Computer」や「My Documents」などの論理場所にすることができます。この場所名に、ワイルドカード文字を含めることはできません。開始場所を指定しないと、SMA が、CD-ROM とネットワーク・ドライブを除いて、「My Computer」を検索します。 • *newlocation* は、ファイルを書き込むターゲット・システム上の場所を指定するオプショナル・コマンドです。この場所は、ドライブのルートまたは論理場所 (「My Computer」や「My Documents」など) にすることができます。それにワイルドカード文字を含めることはできません。指定したディレクトリーがターゲット・システムに存在していないと、それが作成されます。 • [p | r] はオプショナル・コマンドで、ファイル・パスの処理方法を指定します。 – p は、ファイルのパスを保存し、newlocation パラメーターで指定された場所から始まるターゲット・システムにファイルを再作成します。 – r は、ファイルのパスを除去し、newlocation パラメーターで指定された場所にファイルを直接入れます。 • [*Operand* , *DateOrSize*] はオプショナル・コマンドで、ファイルの経過日数またはサイズに基づいてファイルを選択する場合に使用します。ここで、 – *Operand* は NEWER または OLDER のいずれかであり、*DateOrSize* は mm/dd/yyyy フォーマットのベースライン日付です。 – *Operand* は LARGER または SMALLER のいずれかであり、*DateOrSize* はファイル・サイズ (MB 単位) です。	パターンと一致するすべてのファイルを検索します。ディレクトリー構造は、保存することも、変更することもできます。

表 5. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容

ExcludeFile	*filename*, [*Operand* , *DateOrSize*]
	
	ここで、
	• *filename* は、完全修飾ファイル名です。このファイル名にワイルドカード文字を含めることはできますが、論理場所を含めることはできません。
	• [*Operand* , *DateOrSize*] はオプショナル・コマンドで、ファイルの経過日数またはサイズに基づいてファイルを選択する場合に使用します。ここで、
	– *Operand* は NEWER または OLDER のいずれかであり、*DateOrSize* は mm/dd/yyyy フォーマットのベースライン日付です。
	– *Operand* は LARGER または SMALLER のいずれかであり、*DateOrSize* はファイル・サイズ (MB 単位) です。
	
	たとえば、次のコマンドは、.tmp 拡張子を持つすべてのファイルを c:¥Docs ディレクトリーから除去します。
	`[ExcludeFile_start]`
	`c:¥Docs¥*.tmp`
	`[ExcludeFile_end]`
		指定されたディレクトリーに入っているすべての一致ファイルを選択解除します。
		(SMAAPP によって選択されたファイルは除いてください。)

ExcludePath	ディレクトリーの場所。ワイルドカード文字は使用できません。
	
	たとえば、次のコマンドは、c:¥Windows ディレクトリーに入っているすべてのファイルとサブディレクトリーを除去します。
	`[ExcludePath_start]`
	`c:¥Windows`
	`[ExcludePath_end]`
		指定されたディレクトリーに入っているすべてのファイルとサブディレクトリーを選択解除します。
		(SMAAPP によって選択されたファイルとサブディレクトリーは除いてください。)

表 5. ファイル移行コマンド (続き)

コマンド	パラメーター	作業の内容

ExcludeFileDescription	*filename* , [*StartLocation*], [*Operand* , *DateOrSize*]
	
	ここで、
	• *filename* はファイル名です。ワイルドカード文字を使用できます。
	• *StartLocation* はオプショナル・パラメーターで、検索する場所を指定します。論理場所を使用できます。*StartLocation* を指定しない場合、デフォルトでは、選択されたすべてのファイルが検索されます。
	• [*Operand* , *DateOrSize*] はオプショナル・コマンドで、ファイルの経過日数またはサイズに基づいてファイルを選択する場合に使用します。ここで、
	– *Operand* は NEWER または OLDER のいずれかであり、*DateOrSize* は mm/dd/yyyy フォーマットのベースライン日付です。
	– *Operand* は LARGER または SMALLER のいずれかであり、*DateOrSize* はファイル・サイズ (MB 単位) です。
	
	たとえば、次のコマンドは、名前に _old.doc が付いているすべてのファイルを「My Documents」から除外します。
	`[ExcludeFileDescription_start]`
	`*_old.doc, My Documents`
	`[ExcludeFileDescription_end]`
		指定された名前を持つすべてのファイルを選択解除します。
		(SMAAPP によって選択されたファイルは除いてください。)

ExcludeFilesAndFolders	ファイル名	総称ワイルドカードによって指定されたすべての一致するファイルとフォルダーを選択解除します。
		* は可変長のワイルドカード用です。
		% は固定長のワイルドカード (1 文字) 用です。
		
		例:
		`[excludefilesandfolders_start]`
		`c:¥Documents and Settings¥*¥Cookies`
		`%:¥Program Files¥IBM¥Archives¥*¥ChkFile%%%.tmp`
		`[excludefilesandfolders_end]`

ファイル移行コマンドの例

このセクションでは、ファイル移行コマンドの例を示します。これらの例は、ファイル選択を絞り込むために、ファイル組み込みコマンドとファイル除外コマンドを結合する方法を示しています。コマンド・ファイルのファイル処理セクションのみを示します。

取り込みフェーズでのファイルの選択

このセクションでは、取り込みフェーズでファイル選択のために使用する 3 つのコード例を示します。

例 1: 次のコード例は、.doc 拡張子を持つすべてのファイル (Microsoft Word 文書) を選択し、それらを "My Documents" ディレクトリーに再配置します。この例は次に、d:¥No_Longer_Used ディレクトリーに入っているすべてのファイルを除外します。

```
[includefiledescription_start]
*.doc , My Documents , r
[includefiledescription_end]
[excludepath_start]
d:¥No_Longer_Used
[excludepath_end]
```

例 2: 次のコード例では、ドライブの内容を選択し、ドライブのルートにあるすべてのファイルと .tmp 拡張子を持つすべてのファイルを除外しています。

```
[includepath_start]
d:¥
[includepath_end]
[excludefile_start]
d:¥*
[excludefile_stop]
[excludefiledescription_start]
*.tmp
[excludefiledescription_end]
```

例 3: 次のコード例では、d ドライブの内容全体を選択し、ドライブのルートにあるすべてのファイルを除外しています。最後に、このコード例では、ドライブのルートにある、.doc および .jpg 拡張子を持つすべてのファイルを組み込んでいます。

```
[includepath_start]
d:¥
[includepath_end]
[excludefile_start]
d:¥*
[excludefile_stop]
[includefile_start]
d:¥*.doc
d:¥*.jpg
```

```
[includefile_end]
```

適用フェーズでのファイルの選択解除

取り込みフェーズでは、.doc 拡張子で終わっているすべてのファイルが含まれているプロファイルを作成しました。これらのファイルは、「My Documents」に再配置されます。また、d:¥No_Longer_Used ディレクトリーにあるすべてのファイルを除外しました。 (58 ページの『例 1』を参照してください。)

適用フェーズでは、追加のコマンドがコマンド・ファイルに追加されて、_old.doc を組み込んだファイル名を持つすべてのファイルを除外します。

```
[excludefiledescription_start]
*_old.doc
[excludefiledescription_end]
```

適用モード

このオプションは Commands.TXT ファイルで指定されます。これは、[userprofiles_start]/[userprofiles_end] セクションでキーワード「userprofile_override = 」を使用して指定されます。

このオプションは、バックグラウンド・ローカル・ユーザーに対してのみ有効です。

指定可能な値は以下のとおりです。

0 ターゲット・ユーザー名がすでにターゲット・システムに存在するときは設定の適用へスキップします。スキップされたユーザーについての処理は、個別に再度実行できます。

1 *(デフォルト)*

同じターゲット・ユーザー名がターゲット・システムにすでに存在する場合は、SMA は設定を上書きしようとします。SMA は、まずユーザー名をパスワードとして使用してユーザー・アカウントのログオンを試みます。

ログオンが正常に行われる場合は、ユーザーにアクセス権がない場合であっても、適用処理が開始され、移行が進行します。いくつかのエラーが発生する場合がありますが、それらは無視され、処理が完了するまで進行します。

ログオンが正常に行われない場合は、SMA はユーザーの設定を適用する試みを中止し、次のユーザーへとスキップします。

2 重複するユーザー名が検出される場合は、適用リストに他のユーザーがある場合であっても、処理は打ち切られます。ユーザーは環境内で訂正を行ってから、再試行する必要があります。

```
[userprofiles_start]
userprofile_override = 1
[userprofiles_end]
```

自動リブート

このオプションは Commands.TXT ファイルで指定されます。これは、[misc_settings_start]/[misc_settings_end] セクションでキーワード「AutoReboot = 」を使用することにより指定されます。

指定可能な値は以下のとおりです。

0 バッチ適用処理の最後で、システムを自動的にリブートしないでください。設定を有効とするためには、ユーザーは、後でシステムを手動でリブートする必要があります。

1 (デフォルト)

バッチ適用処理の最後で、SMA は介入がなくても自動的にシステムをリブートします。

2 SMA はユーザーにリブートをすぐに行うか否かを選択するようプロンプトを出します。バッチ処理中であってもポップアップ・ウィンドウが表示されます。ユーザーは常時介入する必要があります。

```
[misc_settings_start]
AutoReboot = 1
[misc_settings_end]
```

コマンド・ファイル・テンプレートの作成

GUI を使用してコマンド・ファイル・テンプレートを作成することができます。SMA は、実際のプロファイルを作成する代わりに、取り込みたい設定のタイプを取り込みます。この情報はコマンド・ファイルに書き込まれるので、このコマンド・ファイルを使用してプロファイルをバッチ・モードで取り込むことができます。

注: GUI を使用してファイル移行コマンドをコマンド・ファイル・テンプレートに追加することはできません。それは、ファイルの移行が、この 2 つのモードでそれぞれ異なる処理を行うからです。

コマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、以下のステップを実行します。

1. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。 SMA をデフォルトの場所にインストールした場合は、このファイルは *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
2. SMA がプロファイルを作成しないようにするには、Just_Create_Command ファイル・オプションを次のストリングに変更します。

   ```
   Just_Create_Command_File = Yes
   ```
3. テンプレート・ファイルの名前とパスを指定するように command_file オプションを変更します。デフォルトでは、command_file は c:¥CommandFile¥Commands.txt に送信されます。
4. SMA を開始し、取り込みフェーズを実行します。「移行オプション」ウィンドウの「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスも、「ファイル選択」ウィンドウも表示されません。「プロファイルの場所」ウィンドウを使用して、テンプレート・ファイル内のプロファイルの場所と名前を取り込みます。ただし、実際のプロファイルは作成されません。
5. (オプション) ファイル移行コマンドを追加したい場合は、テンプレート・ファイルを編集し、適切な変更を行います。詳細については、53 ページの『ファイル移行コマンド』を参照してください。

6. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで再オープンし、Command_File および Just_Create_Command_File オプションをデフォルト設定に戻します。

バッチ・モードでのプロファイルの適用

適用フェーズでは、smabat.exe がプロファイルの内容をターゲット・コンピューターにコピーします。プロファイルを適用する前にそれを変更することができます。次の 2 つの例は、**smabat** コマンドを使用してプロファイルを適用するところを示しています。

この例では、選択したプロファイル (receptionist.sma) がターゲット・システムに適用されます。

```
smabat /a /n c:¥sma_profiles¥receptionist.sma
```

この例では、選択したプロファイルを変更してからターゲット・システムに適用されます。これらの変更は、EntryLevel.txt コマンド・ファイルに指定されます。

```
smabat /a c:¥EntryLevel.txt /n c:¥sma_profiles¥receptionist.sma
```

プロファイルをバッチ・モードで適用するときにコマンド・ファイルを使用することについて、以下の点を考慮してください。

- 指定されたプロファイルに設定やファイルを追加することができない。
- 適用フェーズでファイル除外コマンドを処理するときに、SMA は、取り込みフェーズで指定されたリダイレクト場所を使用せずに、ソース・システム上のファイルとフォルダーのオリジナル場所を使用する。
- exclude_drives コマンドは無視される。
- 実行可能な SMA プロファイルでパスワードを使用することはできない。

すでに同じ名前のファイルが入っているディレクトリーにファイルを再配置するときは、コマンド・ファイルの overwrite_existing_files パラメーターがゼロに設定されているか、指定解除されたままになっている場合は、再配置ファイルの名前に数字ストリングが追加されます。たとえば、ターゲット・ディレクトリーにすでに readme.txt ファイルが含まれている場合は、再配置ファイルが readme_01.txt に名前変更されます。 readme.txt という名前の追加ファイルがディレクトリーに再配置された場合、追加された数字ストリングが増分され、readme_02.txt や readme_03.txt などの名前変更済みファイルが作成されます。

バックグラウンド・ローカル・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ローカル・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、以下のステップを実行します。

1. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・システムにログオンします。
2. オプション /c (ここで、移行するローカル・ユーザーが次のように commands.txt ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

```
[userprofiles_start]
localuser1
localuser2
localuser3
[userprofiles_end]
```

ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのローカル・ユーザーを移行するには、「*」を次のように使用します。

```
[userprofiles_start]
*
[userprofiles_end]
```

3. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・システムにログオンします。
4. SMABAT.EXE をオプション /a (ここで、SMA プロファイルが指定される) で起動します。
5. システムをリブートします。

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行

バックグラウンド・ドメイン・ユーザーをバッチ・モードで移行するには、以下のステップを実行します。

1. ドメイン・コントローラーが移行ソース・システムからネットワークを通して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
2. ローカル管理者アカウントを使用して、ソース・システムにログオンします。
3. オプション /c (ここで、移行するドメイン・ユーザーが次のように commands.txt ファイルで指定される) を指定して SMABAT.EXE を起動します。

```
[userprofiles_start]
ourdomain¥domainuser1
ourdomain¥domainuser2
ourdomain¥domainuser3
[userprofiles_end]
```

ユーザーを指定するとき、ワイルドカードを使用できます。すべてのドメイン・ユーザーを移行するには、「*」を次のように使用します。

```
[userprofiles_start]
*¥*
[userprofiles_end]
```

4. ドメイン・コントローラーがターゲット・システムからネットワークを介して認識可能であることを確認します (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
5. ターゲット・コンピューターがドメインのメンバーであることを確認します。これを確認するには、「システムのプロパティー」の「コンピューター名」タブを開きます。パネル上で「ドメイン」設定を確認します。
   ドメイン名がその行で見える場合は、 OK です。
   ドメイン・ネームが表示されない場合は、「変更」ボタンを押して、「コンピューター名の変更」パネルでメニューに従い、コンピューターをドメインのメンバーとして入力します。
6. ローカル管理者アカウントを使用して、ターゲット・システムにログオンします (ドメイン・コントローラーにログオンする必要はありません)。
7. SMABAT.EXE をオプション /a (ここで、SMA プロファイルが指定される) で起動します。
8. システムをリブートします。

SMA は、ターゲット・システムのドメイン・ユーザー・アカウントに設定を適用します。ドメイン・ユーザーがターゲット・システムにログオンすると、処理は自動的に起動されます。

9. ドメイン・ユーザーがログオンします。ドメイン・ユーザーがシステムにログオンするのがこれで初めての場合、Windows オペレーティング・システムはユーザー・プロファイルを自動的に作成します。これには数分かかることがあります。
10. 遅延した SMA 適用タスクが自動的に実行を開始します。次のメッセージが表示されます。

図 48. バックグラウンド・ドメイン・ユーザーのバッチ・モードでの移行: ドメイン・ユーザーの移行

「OK」をクリックします。処理が完了すると、システムは自動的にリブートします。これはデフォルトです。リブートを延期したい場合は、システムの実行を継続できます。

11. ドメイン・ユーザーとしてログオンした後、設定は移行されます。

第 5 章 ピアツーピア移行の実行

この章では、ピアツーピア移行を実行する方法について説明します。

ピアツーピア移行を使用して、SMA プロファイルを直接ソース・システムからターゲット・システムに移行することができます。ピアツーピア移行は、SMA プロファイルを保管するための十分なディスク・ドライブ・スペースがソース・システムにないときに、有用です。ピアツーピア移行では、実行するステップが標準移行の場合よりも少なくて済むために、時間を節約できます。

ピアツーピア移行は、以下のオペレーティング・システムが稼働するシステムで実行できます。

- Windows 98
- Windows NT 4.0 Workstation
- Windows Server
- Windows 2000 Professional
- Windows 2000 Server
- Windows XP Professional

ピアツーピア接続のセットアップ

ピアツーピア移行を実行するには、ソース・システムとターゲット・システムの両方がネットワーク・インターフェース・カード (NIC) を備えていなければなりません。TCP/IP プロトコルが使用可能になっていて、かつ両方のシステムが同じローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 内でノードになっていなければなりません。

ソース・システムとターゲット・システムを接続する必要があります。以下のいずれかの接続オプションを使用することができます。

LAN を介して

イーサネットまたはトークンリングのいずれかを使用できます。トークンリングを使用する場合は、Windows 2000 と Windows XP がサポートされます。

イーサネット・クロスケーブル

イーサネット・クロスケーブルを使用して、ソース・システムとターゲット・システム間の直接接続を作成することができます。ソース・システムとターゲット・システムの両方の IP アドレスが同じネットワークを指定していることを確認する必要があります。 Windows 2000 と Windows XP では、IP アドレスは自動的に発行されます。 Windows 98 と Windows NT では、IP アドレスを手動で入力しなければなりません。

© Copyright IBM Corp. 2004

標準ピアツーピア移行の実行

標準ピアツーピア移行では、SMA GUI を使用して SMA プロファイルを適用します。移行したい設定とファイルを選択すると、SMA は、ターゲット・システムに接続し、プロファイルをターゲット・システムの一時場所に保管した後、プロファイルをターゲット・システムに適用します。

ピアツーピア移行を実行するには、以下のステップを実行します。

1. 移行したいオペレーティング・システム・アカウントを使用して、ソース・システムにログオンします。
2. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

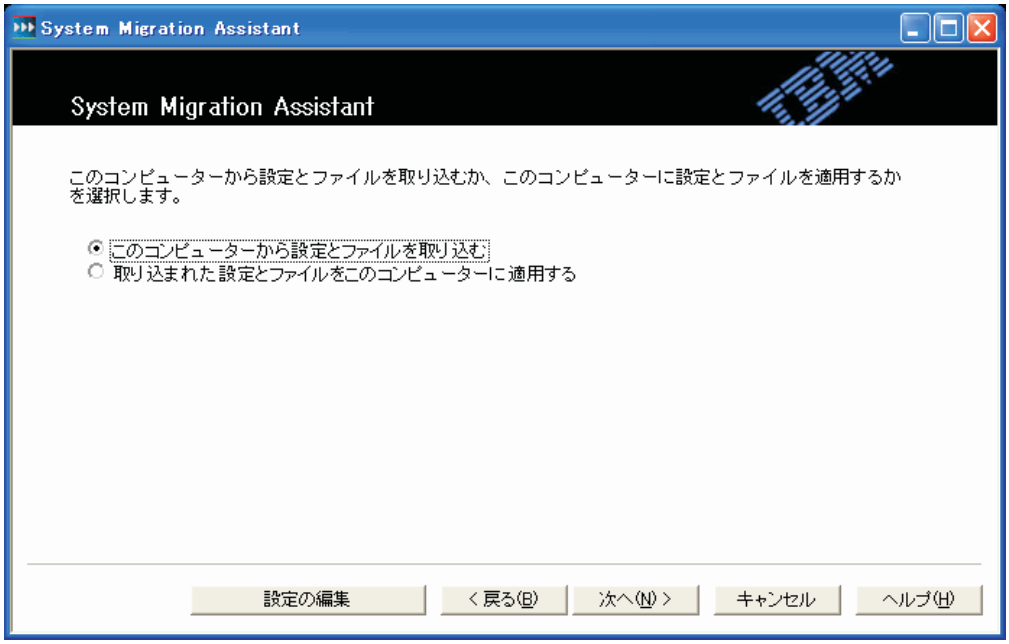

図 49. ピアツーピア移行: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

3. 「**このコンピューターから設定とファイルを取り込む**」をクリックしてから、「**次へ**」をクリックします。「移行」ウィンドウが開きます。
4. 移行したい設定とファイルを選択します。標準移行オプションについて詳しくは、15 ページの『SMA プロファイルの作成』を参照してください。
5. 選択すると、「移行手段の選択」ウィンドウが開きます。

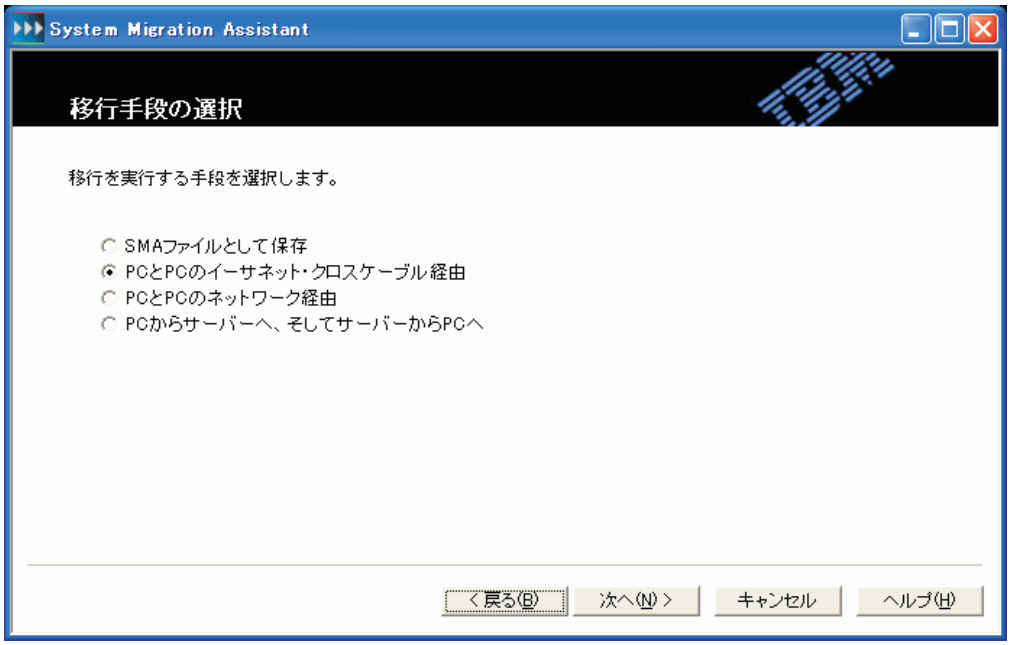

図 50. ピアツーピア移行: 「移行手段の選択」ウィンドウ

「**イーサネット・クロスケーブルを介して PC から PC へ**」ラジオ・ボタンまたは「**ネットワークを介して PC から PC へ**」ラジオ・ボタンを選択します。

6. 「**次へ**」をクリックします。「メモ書きの追加」ウィンドウが開きます。

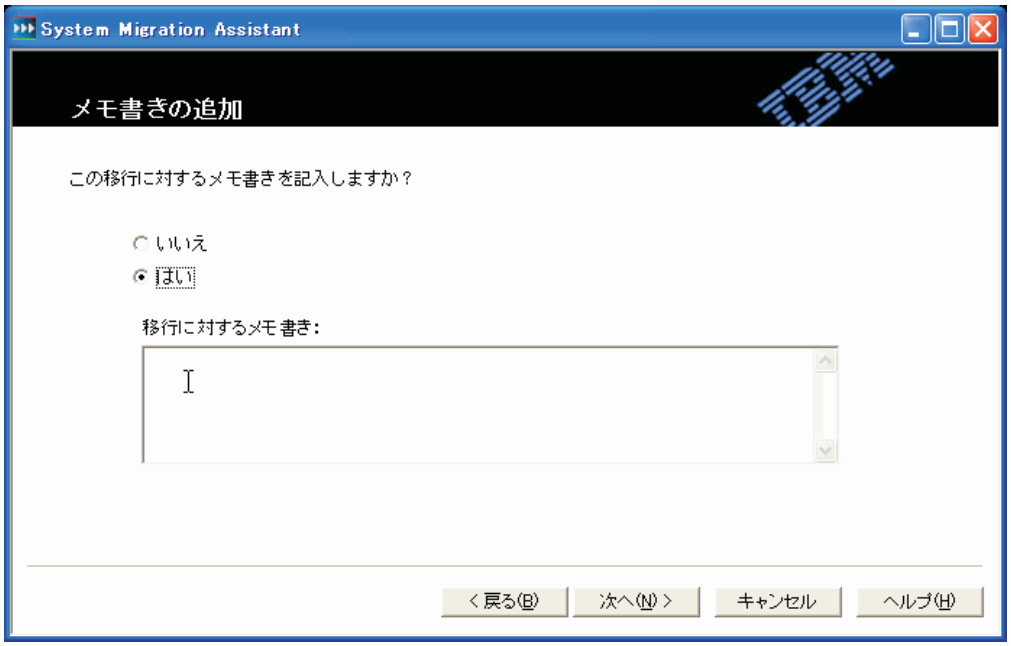

図 51. ピアツーピア移行: 「メモ書きの追加」ウィンドウ

メモ書きを追加するには、「**はい**」ラジオ・ボタンを選択し、次に SMA プロファイルを識別するための短い説明 (最大 1024 文字まで) を入力します。

7. 「**次へ**」をクリックします。「プロファイル保護」ウィンドウが開きます。

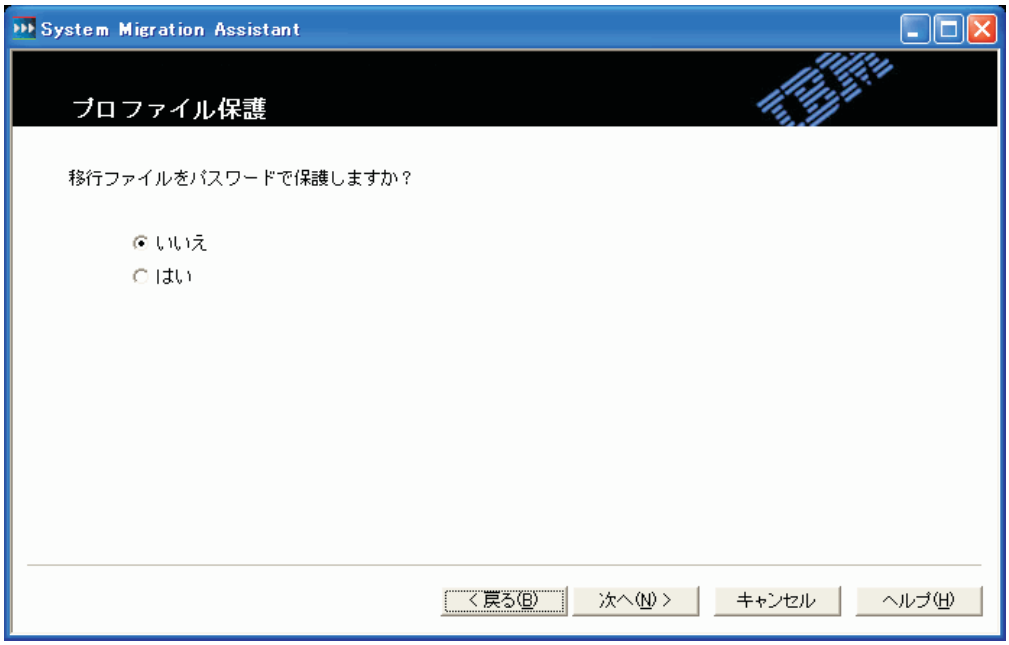

図 52. ピアツーピア移行: 「プロファイル保護」ウィンドウ

パスワードを SMA プロファイルに割り当てるには、「**はい**」ラジオ・ボタンを選択します。「**次へ**」をクリックします。

8. ステップ 7 (67 ページ) で「**はい**」ラジオ・ボタンを選択した場合は、「パスワード」ウィンドウが開きます。

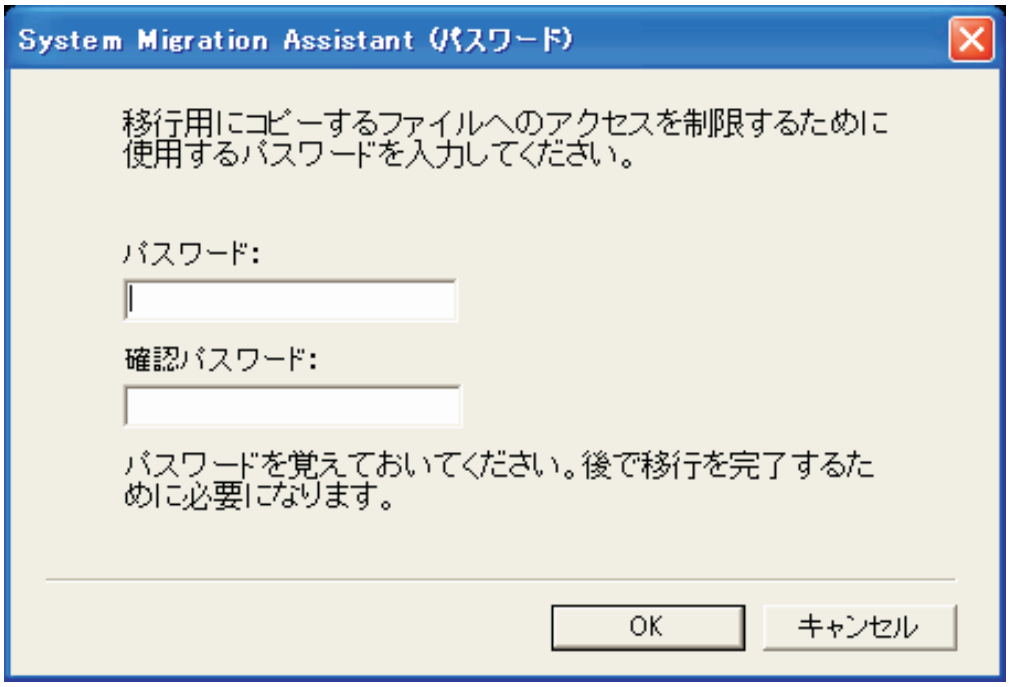

図 53. ピアツーピア移行: 「パスワード」ウィンドウ

9. 以下のようにして、プロファイル用のパスワードをセットアップします。

a. 「**パスワード**」フィールドにパスワードを入力します。 (パスワードは、6 から 16 文字の長さで、先頭と末尾に非数値文字が入っていなければなりません、また、同じ文字が連続していてはなりません。)

b. 「**パスワード確認**」フィールドにパスワードを再入力します。

c. 「**OK**」をクリックします。

10. 「ピアツーピア移行」ウィンドウが開きます。「**プロファイル名**」フィールドに、40 文字以内の英数字のみを含むプロファイル名を入力します。このプロファイル名をターゲット・システムに入力すると、ピアツーピア接続が完了します。

    注: 入力するプロファイル名は固有でなければなりません。

11. 「**OK**」をクリックします。SMA からプロンプトが出て、ターゲット・マシンで SMA を開始し、適用フェーズを開始するよう要求します。

12. ソース・システムで「**OK**」をクリックします。 3 分以内にターゲット・システムで接続を確立する必要があります。そうしないと、SMA は接続の試行を停止します。

13. ソース・システムにログオンするときに使用したアカウントと同じアカウントを使用して、ターゲット・システムにログオンします。

14. ターゲット・システムで、「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

図 54. ピアツーピア移行: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

15. 「**取り込まれた設定とファイルをこのコンピューターに適用する**」をクリックし、「**次へ**をクリックします。「プロファイルの場所」ウィンドウが開きます。

16. 「**イーサネット・クロスケーブルを介して PC から PC へ**」ラジオ・ボタンまたは「**ネットワークを介して PC から PC へ**」ラジオ・ボタンを選択し、次に「**次へ**」をクリックします。「PC から PC への移行」ウィンドウが開きます。
17. 「**プロファイル名**」フィールドに、ソース・システムで作成したプロファイルの名前を入力してから、「**OK**」をクリックします。
18. ソース・システムで通知ウィンドウが開き、接続が確立されたことを示します。「**OK**」をクリックします。ターゲット・システムで通知ウィンドウが開き、接続が確立されたことを示します。
19. ピアツーピア移行を開始するようプロンプトが出されたら、「**はい**」をクリックします。ターゲット・システムで「**コピーの進行**」ウィンドウが開きます。

図 55. ピアツーピア移行: ターゲットの「コピーの進行」ウィンドウ

SMA は、ソース・システムで作成されたプロファイルをターゲット・システムにコピーしてから、保管ファイルを適用します。移行する設定とファイルの数によっては、この操作に数分かかることがあります。

20. プロファイルを適用すると、ソース・システムで「移行の要約」ウィンドウが開きます。この要約は、発生したすべてのエラーとレポート・ファイルの場所をリストします。

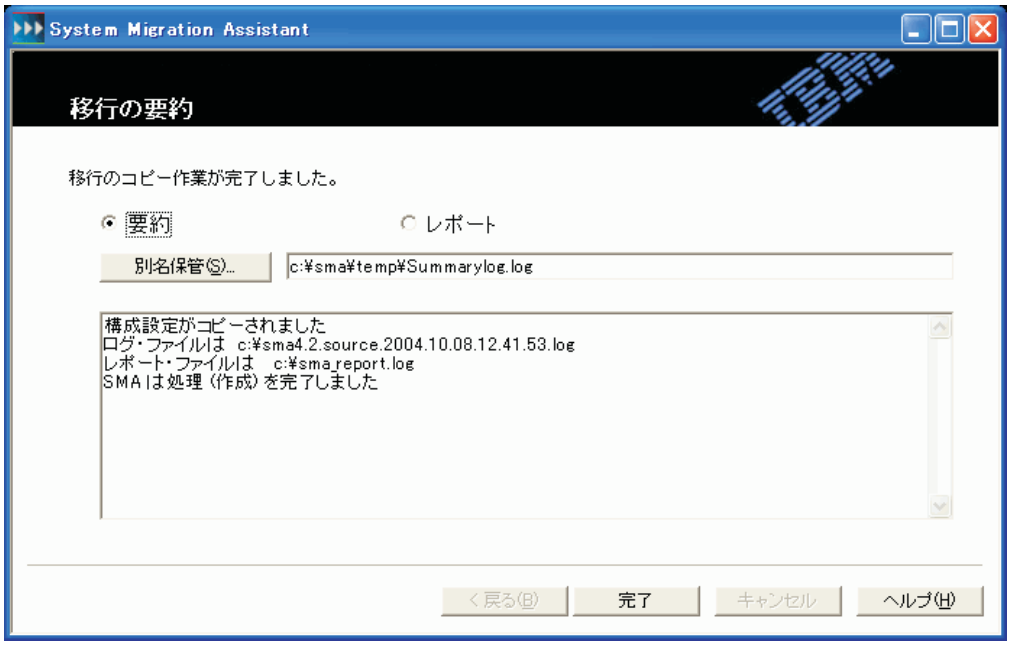

図 56. ピアツーピア移行: ソースの「移行の要約」ウィンドウ

21. レポート・ファイルを表示するには、「**レポート**」をクリックします。レポート・ファイルは、ウィンドウ下部のペインに表示されます。
22. 要約またはレポート・ファイルを別の場所に保管するには、以下のステップを実行します。
    a. 「**要約**」または「**レポート**」をクリックします。次に、「**別名保管...**」をクリックします。「別名保管」ウィンドウが開きます。
    b. 「**保管場所 (Save in)**」フィールドで、ファイルを保管したいディレクトリーにナビゲートします。
    c. 「**別名保管**」フィールドに、ファイルの記述名を入力します。
    d. 「**保管**」をクリックします。
23. ソース・システムで「**完了**」をクリックします。
24. ターゲット・システムで「**完了**」をクリックします。

バッチ・モードでのピアツーピア移行の実行

ピアツーピア移行をバッチ・モードで実行するには、移行したい設定とファイルを指定するようにコマンド・ファイルを編集します。次に、コマンド・プロンプトから、**smabat** コマンドをソース・システムとターゲット・システムの両方で実行します。

ピアツーピア移行を実行するには、以下のステップを実行します。

1. 必要な場合、コマンド・ファイルを作成します。コマンド・ファイルの作成については、48 ページの『コマンド・ファイルの作成』を参照してください。
2. コマンド・ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。「その他」セクションには、次のストリングが入っています。

```
using_peer_to_peer_migration = 1
```

3. 「“profile_path_and_name”」セクションで SMA プロファイルの完全修飾名を指定していることを確認してください。コマンド・ファイル変数について詳しくは、48 ページの『コマンド・ファイルの作成』を参照してください。
4. コマンド・ファイルをソース・システムとターゲット・システムの両方に保管します。
5. ターゲット・システムで移行を開始します。SMA が入っているディレクトリーに移動し、コマンド行プロンプトから、次のコマンドを入力し、Enter を押します。

   ```
   smabat /a /p2p "profile file"
   ```

   ここで、*profile file* は、プロファイルの完全修飾パス、ファイル名、およびプロファイルの拡張子です。

   SMA がバックグラウンドで始動し、プロファイルが伝送されるのを待ちます。
6. ソース・システムで移行を開始します。SMA が入っているディレクトリーに移動し、コマンド行プロンプトから、次のコマンドを入力し、Enter を押します。

   ```
   smabat /c "commandfile"
   ```

   ここで、*commandfile* は、コマンド・ファイルの完全修飾名です。

   SMA がソース・システムで始動し、ピアツーピア移行が開始します。

バッチ・モードでの移行の実行について詳しくは、47 ページの『第 4 章 バッチ・モードでの移行の実行』を参照してください。

第 6 章 拡張管理トピック

この章では、SMA GUI のカスタマイズと追加アプリケーション設定の移行について説明します。

標準移行のカスタマイズ

SMA GUI のルック・アンド・フィールを含め、標準移行プロセスをカスタマイズするには、config.ini ファイルを直接編集するか、GUI ダイアログ・ボックスを使用します。拡張管理機能を使用して以下の機能と設定を変更することができます。

- 表示する SMA ウィンドウ
- 取り込みフェーズでデフォルトによって選択される設定
- 移行時に常に選択される設定、または選択されない設定

SMA 4.2 をデフォルトの場所にインストールした場合は、config.ini ファイルは *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA¥ ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

config.ini ファイルについて、以下の点を考慮してください。

- コメントであることを示すためにセミコロンを使用する。
- **smabat** コマンドには大文字と小文字の区別がない。

GUI を使用した標準移行のカスタマイズ

GUI ダイアログ・ボックスを使用して Config.ini のオプションを編集するには、次のようにします。

1. 「**スタート**」→「**プログラム**」→「**Access IBM**」→「**IBM System Migration Assistant**」をクリックします。「System Migration Assistant」ウィンドウが開きます。

© Copyright IBM Corp. 2004

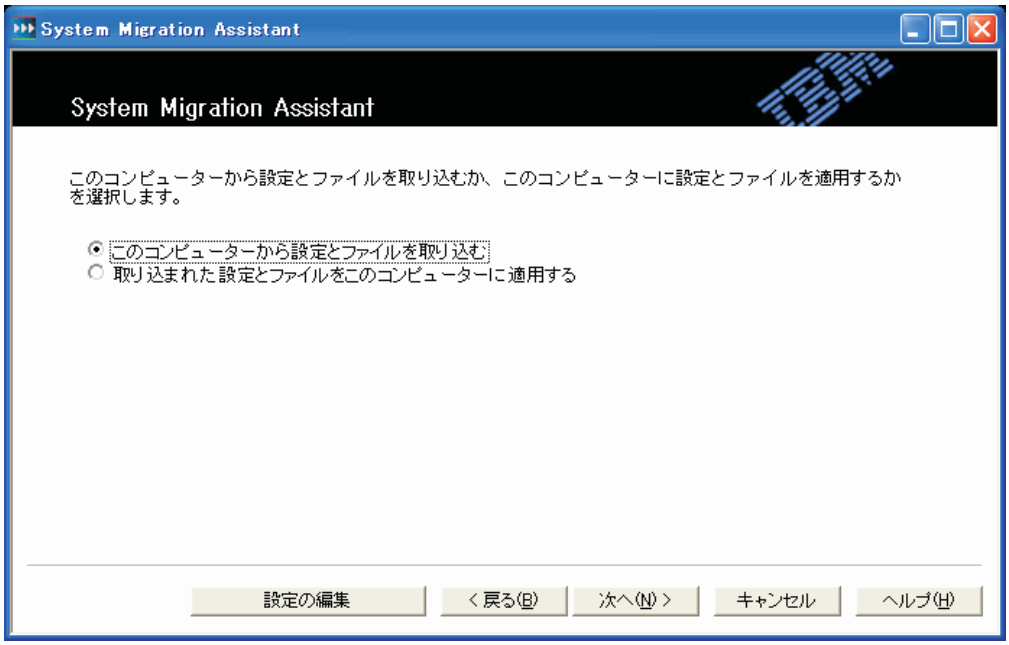

図 57. 標準移行のカスタマイズ: 「System Migration Assistant」ウィンドウ

2. 「**設定の編集 (Edit Config)**」ボタンを押します。「設定ファイルの編集」ウィンドウが開きます。

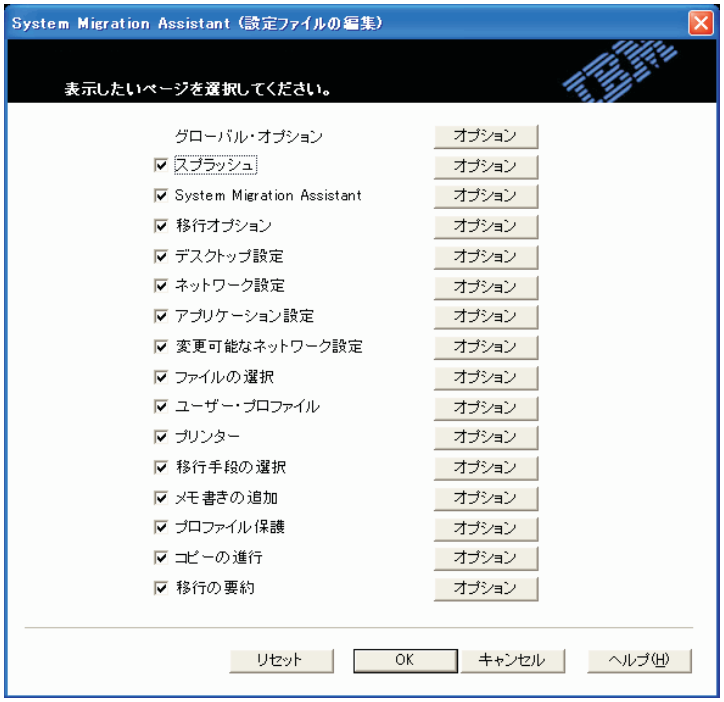

図 58. 標準移行のカスタマイズ: 「設定ファイルの編集」ウィンドウ

3. SMA オプションをカスタマイズするには、「オプション」ボタンを押します。「グローバル」オプションまたは各 SMA ページをカスタマイズするための「オプションの設定」ウィンドウが開きます。

4. 各ウィンドウについて SMA オプションをカスタマイズするには、チェック・ボックスを「チェック・マークを付ける」または「チェック・マークを外す」として設定します。SMA を実行するときにウィンドウが開かないようにするため、チェック・ボックスを「チェック・マークを付ける」として設定します。それ以外の場合は、「チェック・マークを外す」として設定します。ウィンドウが表示されないと、SMA は、config.ini ファイルに指定されたすべての設定を取り込むか適用します。
5. 「**リセット**」ボタンを押すことにより、すべてのオプションをデフォルト設定にリセットできます。変更を適用するには、「**OK**」を押します。

以下の SMA オプションをカスタマイズできます。

- グローバル・オプション

  「グローバル・オプション」ウィンドウで、グローバル・オプションをカスタマイズできます。以下の表は、「グローバル・オプション」ウィンドウに関する情報を示しています。

表 6. GUI: グローバル・オプション設定

項目	値	作業の内容
構成メッセージ	「はい」または「いいえ」	SMA が config.ini ファイルを解釈するときにエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、「いいえ」に設定されます。
一時ファイル場所	ディレクトリーの完全修飾名。この名前は、他のシステムの共用ディレクトリーにすることができます。	SMA 一時ディレクトリーを指定します。このディレクトリーは、SMA が、処理中の圧縮および解凍用ファイルを入れておく場所です。デフォルトでは、このディレクトリーは c:¥sma¥temp に設定されます。 たとえば、 `Temp_File_Location = %systemdrive%¥%username%` は、一時ファイルをユーザー名と同じ名前のディレクトリーに書き込みます。
ログ・ファイル場所	ディレクトリーの完全修飾名。この名前は、他のシステムの共用ディレクトリーにすることができます。	ログ・ファイルが保管される場所を指定します。デフォルトでは、このディレクトリーは c: に設定されます。
コマンド・ファイル場所	完全修飾ファイル名	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトでは、C:¥CommandFile¥Commands.txt に設定されます。
コマンド・ファイルの作成	「はい」または「いいえ」	プロファイルを作成するかどうかを指定します。プロファイルを作成せずにコマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、「コマンド・ファイルの作成」を「はい」に設定します。
既存ファイルの上書き	「はい」または「いいえ」	プロファイルを適用するときに既存のファイルを上書きするかどうかを指定します。既存のファイルを上書きするには、「既存ファイルの上書き」を「はい」に設定するか、指定解除のままにしておきます。デフォルトでは「既存のファイルの上書き」は指定解除です。

表 6. GUI: グローバル・オプション設定 (続き)

項目	値	作業の内容
ドライブの除外	ドライブ名	SMA が取り込みフェーズでスキャンしないディスク・ドライブを指定します。適用フェーズでは、SMA はこの変数を無視します。
デフォルトのファイル・パス	完全修飾ディレクトリー	SMA プロファイルのデフォルトの場所を指定します。
詳細ロギング	「はい」または「いいえ」	SMA が拡張ロギング情報をログ・ファイルに書き込むかどうかを指定します。
4Gfat32 警告の使用可能化	「はい」または「いいえ」	プロファイルが 4 GB より大きい場合は FAT32 区画にプロファイルを書き込めないことをユーザーに警告するために「4Gfat32 警告の使用可能」を「はい」に設定します。
直前の選択ダイアログ	「はい」または「いいえ」	直前に選択されたファイルを取り出すようユーザーに依頼するには「直前の選択ダイアログ」を「はい」に設定します。
PC から PC へのメッセージの表示	「はい」または「いいえ」	ターゲット・システムで SMA を開始するようユーザーに依頼するには、「PC から PC へのメッセージの表示」を「はい」に設定します。
適用開始メッセージの表示	「はい」または「いいえ」	SMA ファイルから設定の適用を開始するようユーザーに依頼するには、「適用開始メッセージの表示」を「はい」に設定します。
リブート・メッセージの表示	「はい」または「いいえ」	マシンをリブートするようユーザーに依頼するには、「リブート・メッセージの表示」を「はい」に設定します。

- スプラッシュ・ページ

  「スプラッシュ・ページ」ウィンドウでは、以下の「スプラッシュ・ページ」オプションをカスタマイズできます。

表 7. GUI: 「スプラッシュ・ページ」オプション設定

項目	値	作業の内容
表示時間	数値	スプラッシュ画面を表示している時間 (秒単位) を指定します。デフォルトでは「表示時間」は 2 に設定されています。

- ガイダンス・テキスト

  各 SMA ウィンドウについての説明を示す「ガイダンス・テキスト」をカスタマイズできます。このオプションはすべての SMA ウィンドウに適用されます。各ページの「オプショナル設定」ウィンドウで、「ガイダンス・テキスト」というラベルが付いたフィールドにテキスト・ストリングを入力します。

- 選択オプション

  各 SMA ウィンドウで個別に、ラジオ・ボタンとチェック・ボックスを表示するか非表示とするか、アクティブにするかグレー表示にするか、あるいはデフォルトで選択するかを指定できます。
  「System Migration Assistant ページ」、「移行オプション・ページ」、「デスク

トップ設定ページ」、および「ネットワーク設定ページ」の「オプショナル設定」ウィンドウで、各項目に以下の値を設定できます。

– DISPLAY / HIDE
  - DISPLAY は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを表示します。
  - HIDE は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを非表示にします。
– ENABLED / DISABLED
  - ENABLED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをアクティブに指定します。
  - DISABLED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをグレー表示に指定します。
– CHECKED / UNCHECKED
  - CHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトで選択することを指定します。
  - UNCHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトでクリアすることを指定します。

  「移行手段の選択ページ」、「メモ書きの追加ページ」、および「プロファイル保護ページ」の「オプショナル設定」ウィンドウで、各項目に以下の値を設定できます。

  - YES / NO
    • YES は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトで選択することを指定します。
    • NO は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトでクリアすることを指定します。

• 全項目選択オプション

  「アプリケーション設定ページ」と「ユーザー・プロファイル・ページ」の「オプショナル設定」ウィンドウには、次のものが含まれます。

  – 全項目選択

    各ページの項目がすべてデフォルトで選択されるようにするには、これを「YES」に設定します。各ページの項目がどれもデフォルトで選択されないようにするには、これを「NO」に設定します。

• 警告メッセージ・ボックス表示オプション

  「ネットワーク設定ページ」、「ファイルの選択ページ」、「プリンター・ページ」、および「移行手段の選択ページ」の「オプショナル設定」ウィンドウには、次のものが含まれます。

  – 警告の表示

    警告メッセージをデフォルトで表示させるには、この項目を「YES」に設定します。警告メッセージをデフォルトで非表示とするには、この項目を「NO」に設定します。

• ファイルの選択ページ

以下の表には、「ファイルの選択ページ」の「オプショナル設定」ウィンドウの追加項目に関する情報が示されています。

表 8. GUI: ファイルの選択ページ設定

項目	値	作業の内容
割り当て量	数値 (MB)	取り込むことができる解凍データの最大量を指定します (MB 単位)。
警告メッセージ	テキスト・ストリング	特定の拡張子を持つファイルを取り込むことを選択したときに表示される代替警告メッセージを指定します。
警告拡張子	ファイル拡張子	それらの拡張子を持つファイルを移行することを選択したときに警告メッセージを生成するファイル拡張子を指定します。 拡張子をコンマで区切る必要があります。

記述によるファイルの取り込み	テキスト・ストリング	構文: <ファイル記述>, <開始場所>, <新規の場所>, <P(保存済み)|R(除去済み>, <オペランド: newer, older>、<比較する日付け: mm/dd/yyyy>, <オペランド: larger または smaller>, <比較するサイズ (KB 単位): 100>
		たとえば、次のとおりです。
		`*.doc,c:¥temp`
		`*.cpp,c:¥mystartlocation,c:¥newlocation,P`
		`*.xls,,,, newer, 1/01/2003`
		`*.log,,,, newer, 1/1/2003, smaller, 100`
		
		注: 最初のパラメーターの後のパラメーターはすべてオプショナルです。

ファイルの取り込み	テキスト・ストリング	構文: <ファイル名(複数可)>, <宛先場所>, <オペランド: newer, older>, <比較する日付け: mm/dd/yyyy>, <オペランド: larger or smaller>, <比較するサイズ (KB 単位): 100>
		たとえば、
		`c:¥temp¥smafile.*`
		`c:¥temp¥*.cpp,c:¥newlocation`
		`c:¥*.log,c:¥newlocation,,, smaller, 100`
		`c:¥temp¥*.cpp, c:¥newlocation, newer, 10/08/2002`
		
		注: 最初のパラメーターの後のパラメーターはすべてオプショナルです。

パス選択の取り込み	テキスト・ストリング	構文: <ソース>, <宛先>
		たとえば、
		`c:¥temp¥smafile`
		`c:¥testfolder,c:¥newlocation`
		
		注: 宛先 (2 番目のパラメーター) はオプショナルです。

表 8. GUI: ファイルの選択ページ設定 (続き)

項目	値	作業の内容

記述によるファイルの除外	テキスト・ストリング	構文: <ファイル記述>, <開始場所>, <オペランド: newer または older>, <比較する日付け: mm/dd/yyyy>, <オペランド: larger または smaller>, <比較するサイズ (KB 単位): 100>
		たとえば、
		`*.txt`
		`*.xls,, older, 1/1/2001`
		`*.cpp, c:¥myfile`
		
		注: 最初のパラメーターの後のパラメーターはすべてオプショナルです。

ファイルの除外	テキスト・ストリング	構文: <ファイル名(複数可)>, <オペランド: newer, older>, <比較する日付け: mm/dd/yyyy>, <オペランド: larger または smaller>, <比較するサイズ (KB 単位): 100>
		たとえば、
		`c:¥temp¥smafile¥*.txt, older, 03/31/1999`
		`c:¥*.log, ,, smaller, 10`
		
		注: 最初のパラメーターの後のパラメーターはすべてオプショナルです。

パス選択の除外	テキスト・ストリング	構文: <ソース>, <宛先>
		たとえば、
		`c:¥temp¥smafile`
		`c:¥testfolder,c:¥newlocation`
		
		注: 宛先 (2 番目のパラメーター) はオプショナルです。

- その他のオプション

  次の表は、追加項目に関する情報を示したものです。

表 9. GUI: その他のオプション

項目	ページ	値	作業の内容
レジストリー・ボタン	アプリケーション設定ページ	表示または非表示	「アプリケーション設定」ウィンドウでレジストリー・ボタンを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、「いいえ」に設定されます。

config.ini ファイルの編集による標準移行のカスタマイズ

グローバル・オプション

次の表は、グローバル・オプション設定に関する情報を示しています。

表 10. Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定

変数	値	作業の内容
Configuration_File_Show_Configuration_Messages	「はい」または「いいえ」	SMA が config.ini ファイルを解釈するときにエラー・メッセージを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、「いいえ」に設定されます。
Temp_File_Location	ディレクトリーの完全修飾名。この名前は、他のシステムの共用ディレクトリーにすることができます。	SMA 一時ディレクトリーを指定します。このディレクトリーは、SMA が、処理中の圧縮および解凍用ファイルを入れておく場所です。デフォルトでは、このディレクトリーは c:¥sma¥temp に設定されます。 たとえば、 `Temp_File_Location = %systemdrive%¥%username%` は、一時ファイルをユーザー名と同じ名前のディレクトリーに書き込みます。
Log_File_Location	ディレクトリーの完全修飾名。この名前は、他のシステムの共用ディレクトリーにすることができます。	ログ・ファイルが保管される場所を指定します。デフォルトでは、このディレクトリーは c: に設定されます。
Command_File	完全修飾ファイル名	コマンド・ファイルの名前とパスを指定します。デフォルトでは、C:¥CommandFile¥Commands.txt に設定されます。
Just_Create_Command_File	「はい」または「いいえ」	プロファイルを作成するかどうかを指定します。プロファイルを作成せずにコマンド・ファイル・テンプレートを作成するには、Just_Create_Command_File を「はい」に設定します。
Overwrite_Existing_Files	「はい」または「いいえ」	プロファイルを適用するときに既存のファイルを上書きするかどうかを指定します。既存のファイルを上書きする場合は、Overwrite_Existing_Files を「はい」に設定するか、指定解除します。デフォルトでは、Overwrite_Existing_Files は指定解除されます。
Exclude_Drives	ドライブ名	SMA が取り込みフェーズでスキャンしないディスク・ドライブを指定します。適用フェーズでは、SMA はこの変数を無視します。
Default_Profile_Path	完全修飾ディレクトリー	SMA プロファイルのデフォルトの場所を指定します。
Verbose_Logging	「はい」または「いいえ」	SMA が拡張ロギング情報をログ・ファイルに書き込むかどうかを指定します。
Enable_4GFat32_warning	「はい」または「いいえ」	プロファイルが 4 GB より大きい場合は、Enable_4GFat32_warning を「はい」に設定して、プロファイルが FAT32 区画に書き込めないことをユーザーに警告します。
Show_Previous_File_Selection_Dialog	「はい」または「いいえ」	直前の選択されたファイルを取り出すようユーザーに依頼するには、「Show_Previous_File_Selection_Dialog」を「はい」に設定します。

表 10. Config.ini ファイル: グローバル・オプション設定 (続き)

変数	値	作業の内容
Show_P2P_Messagebox	「はい」または「いいえ」	ターゲット・システム上で SMA を開始するようユーザーに依頼するには、「Show_P2P_Messagebox」を「はい」に設定します。
Show_Start_Apply_Dialog	「はい」または「いいえ」	SMA ファイルから設定の適用を開始するようユーザーに依頼するには、「Show_Start_Apply_Dialog」を「はい」に設定します。
Show_Reboot_Dialog	「はい」または「いいえ」	マシンをリブートするようユーザーに依頼するには、「Show_Reboot_Dialog」を「はい」に設定します。

スプラッシュ・ページ

次の表は、スプラッシュ・ページ設定に関する情報を示しています。これらの設定は、SMA を開始するときに表示されるスプラッシュ画面を制御します。

表 11. Config.ini ファイル: 「スプラッシュ・ページ」オプション設定

変数	値	作業の内容
Display_Time	数値	スプラッシュ画面を表示している時間 (秒単位) を指定します。デフォルトでは、Splash_Page_Display_Time は 2 に設定されています。

ガイダンス・テキスト

次の表は、「ガイダンス・テキスト」オプションに関する情報を示しています。これらのオプションはすべての SMA ウィンドウに適用されます。*SpecificPage* は、以下の変数のいずれかです。

- Start
- Desktop
- Applications
- Selection
- Printers
- Notation
- Progress
- Options
- Network
- Edit_Network
- Profiles
- Method
- Password
- Summary

表 12. Config.ini ファイル: 「ガイダンス・テキスト」オプション設定

変数	値	作業の内容
SpecificPage_Page_Guidance_Text	テキスト・ストリング	左方パネルの代替テキストを指定します。

選択オプション

このセクションでは、次のストリングを含む変数について説明します。

`_Choice`

これらの変数は、config.ini ファイルの「開始ページ」、「オプション・ページ」、「デスクトップ・ページ」、および「ネットワーク・ページ」セクションに入っています。これらの変数は、ラジオ・ボタンとチェック・ボックスを表示するか非表示にするか、アクティブにするかグレー表示にするか、デフォルトで選択するか、を制御します。

値: これらの各変数は次の値を取ります。

`OptionDisplay, OptionActive, OptionSelected`

ここで、

- *Option* は、以下のいずれかの値です。
  - HIDE は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを非表示にします。
  - DISPLAY は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスを表示します。
- *OptionActive* は、以下のいずれかの値です。
  - ENABLED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをアクティブに指定します。
  - DISABLED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをグレー表示に指定します。

  Option が HIDE に設定されている場合、SMA はこの変数を無視します。
- *OptionSelected* は、以下のいずれかの値です。
  - CHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトで選択することを指定します。
  - UNCHECKED は、ラジオ・ボタンまたはチェック・ボックスをデフォルトでクリアすることを指定します。

例: 以下の例を考察します。

- 次の例では、「デスクトップ設定」ページの「**カラー**」チェック・ボックスが表示され、自動的に選択されています。ユーザーはチェック・ボックスをクリアすることはできません。SMA は、常に、カラー設定を取り込みます。

  ```
  Desktop_Page_Choice_Colors = Display, Disabled, Checked
  ```
- 次の例では、「移行オプション」ページの「**ファイルとフォルダー**」チェック・ボックスが表示され、チェック・ボックスがクリアされています。ただし、ユーザーはこのチェック・ボックスを選択できません。

  ```
  Options_Page_Choice_Files = Display, Disabled, Unchecked
  ```

- 次の例では、 「**タスクバー**」チェック・ボックスが「デスクトップ設定」ページに表示されません。ただし、タスクバー設定が自動的に選択されて取り込まれます。

  ```
  Desktop_Page_Choice_ Task_Bar = Hide, Checked.
  ```

- 次の例では、 「**プリンター**」チェック・ボックスが「オプション」ページに表示されません。ただし、このチェック・ボックスが自動的に選択され、取り込まれます。

  ```
  Options_Page_Choice_Printers = Hide, Checked.
  ```

ウィンドウ表示オプション

すべてのページ・セクションには、次の変数が含まれています。

*SpecificPage*Page_Show_Page

ここで、*SpecificPage* は、以下のいずれかです。Splash、Start、Option、Desktop、Network、Applications、Edit_Network、Selection、Profiles、Printers、Method、Notation、Password、Progress、または Summary です。SMA を実行するときにウィンドウが開かないようにするには、この変数を「No」に設定します。それ以外の場合は、この変数を「はい」に設定するか、指定解除します。ウィンドウが表示されないと、SMA は、config.ini ファイルに指定されたすべての設定を取り込むか適用します。

全項目選択オプション

「アプリケーション・ページ」セクションと「プロファイル・ページ」セクションには、次の変数が含まれています。
「*SpecificPage* _Page_Select_All_Items」。ここで、*SpecificPage* は、「アプリケーション」または「プロファイル」のいずれかです。各ページの項目がすべてデフォルトで選択されるようにするには、この変数を「YES」に設定します。各ページの項目がどれもデフォルトで選択されないようにするには、この変数を「NO」に設定します。

警告メッセージ・ボックス表示オプション

「ネットワーク設定ページ」、「ファイルの選択ページ」、「プリンター・ページ」、および「移行手段の選択ページ」には、次の変数が含まれています。
「*SpecificPage* _Page_Show_Warning_Messagebox」または「Method_Page_Show_Overwrite_SMAProfile_Messagebox」です。ここで、「*SpecificPage*」は、「ネットワーク」、「選択」、または「プロファイル」のいずれかです。警告メッセージ・ボックスをデフォルトで表示させるようにするには、この変数を「YES」に設定します。警告メッセージ・ボックスをデフォルトで非表示にするには、この変数を「NO」に設定します。

その他のオプション

次の表は、config.ini ファイルの追加変数に関する情報を示しています。

表 13. Config.ini ファイル: その他のオプション

変数	値	作業の内容
Applications_Page_Show_Registry_Button	「はい」または「いいえ」	「アプリケーション設定」ウィンドウでレジストリー・ボタンを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、これは「いいえ」に設定されます。
Selection_Page_File_Quota	数値 (MB)	取り込むことができる解凍データの最大量を指定します (MB 単位)。
Selection_Page_File_Warning_Message	テキスト・ストリング	特定の拡張子を持つファイルを取り込むことを選択したときに表示される代替警告メッセージを指定します。

Selection_Page_Warning_Extensions	ファイル拡張子	それらの拡張子を持つファイルを移行することを選択したときに警告メッセージを生成するファイル拡張子を指定します。
		
		それぞれの拡張子は、別々の行に指定しなければなりません。たとえば、次のとおりです。
		`[Selection_Page_Warning_Extensions_Start]`
		`exe`
		`com`
		`dll`
		`[Selection_Page_Warning_Extensions_End]`

Method_Page_Migration_Method	SMA file/ Ethernet/ Network/ PC/Server	移行方式を指定します。 Method_Page_Migration_Method は、以下の値のいずれかを持つことがあります。 SMA file: 「SMA ファイルとして保管」または SMA ファイルから適用 Ethernet: 「イーサネット・クロスケーブルを介して PC から PC へ Network: ネットワークを介して PC から PC へ PC/Server: PC からサーバーへ、次にサーバーから PC へ
Method_Page_Edit_Selection	「はい」または「いいえ」	ターゲット側で SMA ファイルの編集ができるようにするには、Method_Page_Edit_Selection を「はい」に設定します。
Notation_Page_Add_Notation	「はい」または「いいえ」	表記を使用可能にするには、Notation_Page_Add_Notation を「はい」に設定します。
Notation_Page_Notation	テキスト・ストリング	Notation_Page_Notation を「表記」に設定します。この移行に関する表記では、「¥r¥n」を改行文字として使用します。
Password_Page_Password_Protect	「はい」または「いいえ」	パスワード保護を使用可能にするには Password_Page_Password_Protect を「はい」に設定します。

レジストリー設定の移行

重要: レジストリー設定を移行するときは細心の注意を払ってください。間違ったレジストリー設定を移行すると、オペレーティング・システムが使用不可になることがあります。レジストリー設定を移行する前に、レジストリー・データベースについて完全な知識を得ておく必要があります。

SMA GUI またはバッチ・モードのいずれかを使用してレジストリー設定を取り込むか適用することができます。

GUI を使用したレジストリー設定の移行

レジストリー設定を移行するには、以下のステップを実行します。

1. config.ini ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。
2. 次のストリングが入るように「アプリケーション・ページ」を変更します。

   ```
   Applications_Page_Show_Registry_Button = Yes
   ```

3. SMA を開始します。画面上の指示に従って「アプリケーションの設定」ウィンドウを開きます。
4. 「**レジストリー**」をクリックします。「System Migration Assistant (レジストリー選択ウィンドウ)」が開きます。

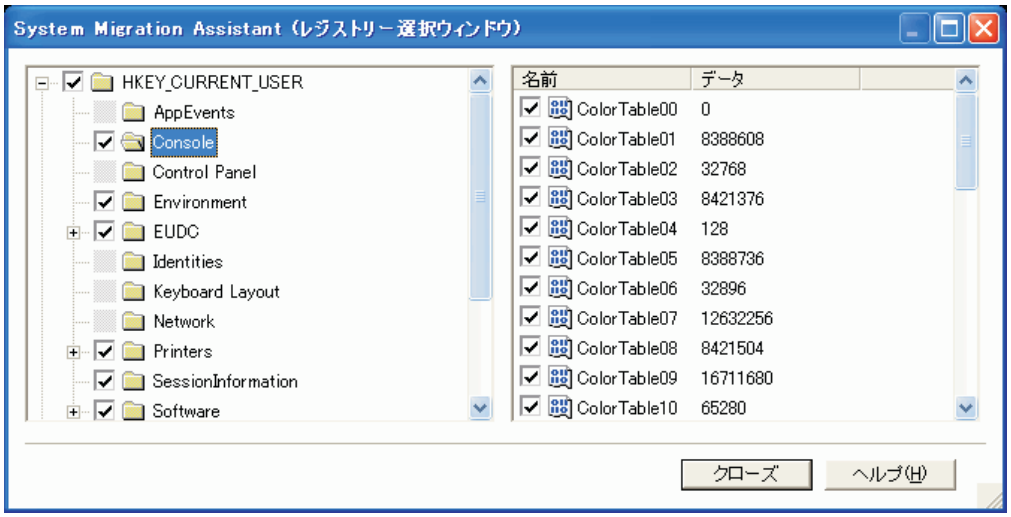

図 59. レジストリー設定の移行: 「System Migration Assistant (レジストリー選択ウィンドウ)」

5. 移行したいレジストリー・キーを選択します。サブキーは「HKEY_CURRENT_USER」または「HKEY_LOCALMACHINE¥SOFTWARE」から選択できます。ハードウェアのレジストリー設定は移行できません。
6. 残りの SMA ウィンドウを完了し、プロファイルを保管します。
7. ターゲット・マシンで適用フェーズを開始します。「アプリケーションの設定」ウィンドウが表示されたら、「**レジストリー設定の移行**」チェック・ボックスを選択します。
8. ウィザードを継続し、プロファイルを適用します。

バッチ・モードを使用したレジストリー設定の移行

レジストリー設定を移行するには、以下のステップを実行します。

1. コマンド・ファイルを ASCII テキスト・エディターで開きます。
2. 次のコマンドが入るように「レジストリー」セクションを変更します。

   ```
   [registry_start]
   hive,"keyname","value"
   [registry_end]
   ```

   ここで、

   - *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。
   - *keyname* はキー名です。
   - *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。

   keyname または *value* にスペースが含まれている場合、それらは無視されません。
3. 取り込みを実行します。

追加アプリケーション設定の移行

注: カスタム・アプリケーション・ファイルを作成する場合は、カスタマイズされた設定のストレージ・ロケーションを含め、アプリケーションについて完全な知識を持っている必要があります。

デフォルトでは、いくつかのアプリケーションの設定を移行するように SMA が事前構成されています。 SMA によってサポートされるアプリケーションのリストについては、 95 ページの『付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定』を参照してください。また、カスタム・アプリケーション・ファイルを作成して追加アプリケーションの設定を移行することもできます。

このファイルは、*application*.smaapp という名前で、*d*:¥Program Files¥IBM¥SMA¥Apps ディレクトリーに入っていなければなりません。ここで、*application* はアプリケーションを指定し、*d* はハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。

新規アプリケーションをサポートするために、既存のアプリケーション・ファイルをコピーし、必要な変更を行うことができます。たとえば、Microsoft_Access.smaapp は既存のアプリケーション・ファイルです。

アプリケーション・ファイルについて、以下の点を考慮してください。

- コメントであることを示すためにセミコロンを使用する。
- 各コマンドは別々のセクションで記述する必要がある。
- 各セクションは、大括弧で囲んだコマンドで始まっている。たとえば、 [General] や [App_Info.IE] など。 1 つ以上のフィールドをセクションに入力できる。各フィールドは別々の行に入っていなければならない。
- アプリケーション・ファイルに構文エラーが含まれていても、SMA は操作を続行し、エラーをログ・ファイルに書き込む。

次の表は、アプリケーション・ファイルに関する情報を示したものです。

表 14. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル

セクション	コマンド	値	作業の内容
一般			
	Family	テキスト・ストリング。先行スペースは無視されます。テキスト・ストリングを引用符で囲まないでください。	アプリケーションの非バージョン固有名を指定します。 SMA をバッチ・モードで実行する場合は、このストリングをコマンド・ファイルのアプリケーション・セクションで使用します。 たとえば、Microsoft Access。
	SMA_Version	数値。	SMA バージョン番号を指定します。
	App*X*。ここで、*X* は整数です	*ShortName* ここで、*ShortName* は、アプリケーションのバージョン固有のショート・ネームです。	1 つ以上のアプリケーションのバージョン固有のショート・ネームを指定します。 たとえば、Access_2000 および Access_XP。
App_Info.*ShortName* ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。			
	Name	テキスト・ストリング。	アプリケーションの名前を指定します。
	Version	数値。	アプリケーションのバージョンを指定します。

	Detect_*X*。ここで、*X* は整数です	*Root*,*PathAndKey*	レジストリー・キーを指定します。SMA は、指定されたレジストリー・キーを検索してアプリケーションを検出します。
			
			例:
			
			`Detect_1 = HKLM,"Software¥Microsoft¥Windows ¥CurrentVersion ¥Uninstall¥Office8.0"`
			
			`Detect_2 = HKLM,"Software¥Microsoft¥Windows ¥CurrentVersion ¥Uninstall¥Office9.0"`

Install_Directories.*ShortName* ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。			
	OS = *hive*,*keyname*,*value* ここで、 • *OS* は、オペレーティング・システムを指定し、以下のいずれかです。 – WinXP – Win2000 – WinNT – Win98 • *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。 • *keyname* はキー名です。 • *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。		レジストリーに現れるインストール・ディレクトリーを指定します。

表 14. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

セクション	コマンド	値	作業の内容
Files_From_Folders.*ShortName*			
ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。			
オプション			

	SMAvariable,*Location*,[*File*]
	
	ここで、
	• *SMAvariable* は、カスタマイズ・ファイルの場所を指定する次のいずれかの変数です。
	– %Windows Directory% (オペレーティング・システム・ファイルの場所)
	– %Install Directory% (Install_Directories セクションで定義されたアプリケーションの場所)
	– %Appdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Application Data ディレクトリー)
	– %LocalAppdata Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Local Settings フォルダーの Application Data ディレクトリー)
	– %Cookies Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Cookies ディレクトリー)
	– %History Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである History ディレクトリー)
	– %Favorites Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリーである Favorites ディレクトリー)
	– %Personal Directory% (ユーザー・プロファイル・ディレクトリーのサブディレクトリー (My Documents) である Personal ディレクトリー。この環境変数は Windows NT4 では使用できません。)
	• *Location* は、完全修飾のファイルまたはディレクトリーを指定します。ワイルドカード文字は、ファイル名には使用できますが、パスには使用できません。ディレクトリーを指定すると、すべてのファイルがコピーされます。
	• [*File*] はオプショナル・パラメーターで、Location がディレクトリーを指定し、File がコピー対象のファイルである場合にのみ使用できます。ファイル名にはワイルドカード文字を使用できますが、パスには使用できません。
			移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。
			
			例:
			`%Windows Directory%, notes.ini`
			`%Install Directory%, data, *.id`

表 14. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

セクション	コマンド	値	作業の内容
Registry.*ShortName* ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。 オプション			
	hive,keyname,value ここで、 • *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。 • *keyname* はキー名です。 • *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。		移行したいレジストリー項目を指定します。 たとえば、 `Registry.Lotus 123 = HKCU,"Software¥Lotus ¥123¥99.0"`
Registry_Exclude.ShortName ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。 オプション			
	hive,"keyname",value ここで、 • *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。 • *keyname* はキー名です。 • *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。		選択したレジストリー項目から除外したいレジストリー・キーと値を指定します。 たとえば、 `Registry.Lotus 123 = HKCU,"Software¥Lotus ¥123¥99.0¥Paths"`
Files_Through_Registry.ShortName ここで、*ShortName* は、「一般」セクションで指定したアプリケーションのショート・ネームです。 オプション			

表 14. 追加アプリケーション設定の移行: アプリケーション・ファイル (続き)

セクション	コマンド	値	作業の内容
	OS = *Registry*,*File* ここで、 • *OS* は、オペレーティング・システムを指定し、以下のいずれかの値です。 – WinXP – Win2000 – WinNT – Win98 • *Registry* はレジストリー項目を指定し、*hive*,*keyname*,*value* のフォーマットになっています。ここで、 – *hive* は、HKLM または HKCU のいずれかです。 – *keyname* はキー名です。 – *value* は、移行するレジストリー値を指定するオプショナル・コマンドです。 • *File* はファイル名です。ワイルドカード文字を使用できます。		移行するカスタマイズ・ファイルを指定します 例: `WinXP=HKCU,"Software¥Lotus¥Components¥Spell¥4.1","Multi User Path",*.udc`

アプリケーション・ファイルの作成

カスタム・アプリケーション・ファイル用にどのアプリケーション設定を移行する必要があるかを決定するには、アプリケーションを慎重にテストしなければなりません。

アプリケーション・ファイルを作成するには、以下のステップを実行します。

1. ASCII テキスト・エディターを使用して既存の SMAAPP ファイルを開きます。 SMA をデフォルトの場所にインストールしている場合は、SMAAPP ファイルは *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA¥Apps ディレクトリーに配置されます。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
2. 移行したいアプリケーションとアプリケーション設定についてこの SMAAPP ファイルを変更します。
3. 「一般セクション」の情報を変更します。
4. App_Info.*ShortName* セクションの Name および Version コマンドを変更します。
5. 移行する必要があるレジストリー・キーを決定します。
   a. 「**スタート**」→「**ファイルを指定して実行**」とクリックします。「ファイルを指定して実行」ウィンドウが開きます。「**名前 (Open)**」フィールドに `regedit` と入力して「**OK**」をクリックします。「レジストリ エディタ」ウィンドウが開きます。

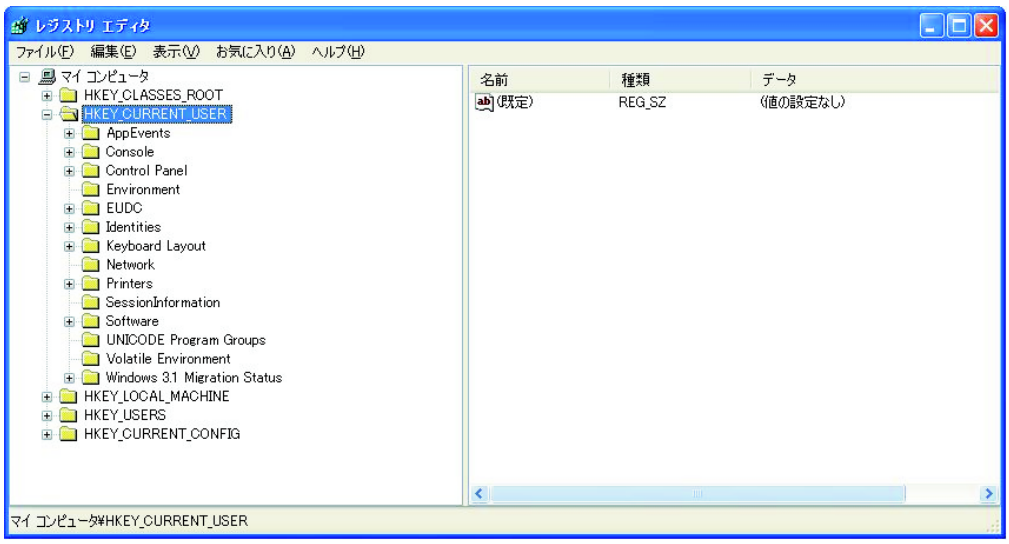

図 60. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ

b. 左側のペインで「**HKEY_LOCAL_MACHINE**」ノードを展開します。

c. 「**ソフトウェア (Software)**」ノードを展開します。

d. ベンダー固有のノード (たとえば、「**Adobe**」) を展開します。

e. アプリケーションのレジストリー・キーが見つかるまで、ナビゲートを続行します。この例では、レジストリー・キーは SOFTWARE¥Adobe¥Adobe Acrobat¥6.0 です。

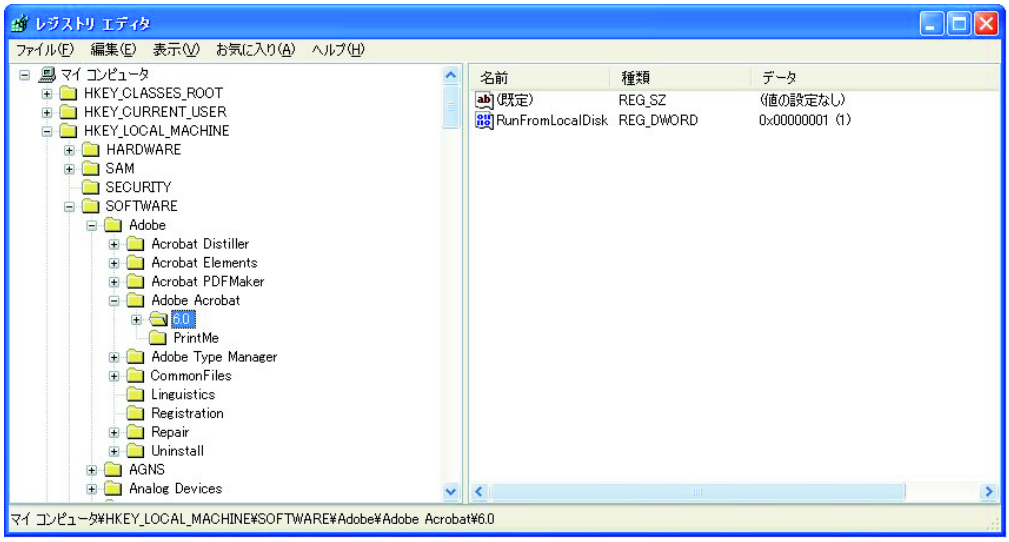

図 61. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (レジストリー・キーを見つける)

f. 「**Detect_*X***」フィールドの値を設定します。この例では、次のコマンドを入力します。

```
Detect_1=HKLM, "SOFTWARE¥Adobe¥Adobe Acrobat¥6.0"
```

6. 「Install_Directories.*ShortName*」セクションの Name および Version コマンドを変更します。

7. アプリケーションのインストール・ディレクトリーのパスを決定します。
   a. 「レジストリ エディタ」ウィンドウから、HKLM¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion ノードにナビゲートします。
   b. ノードを展開し、このアプリケーション・ファイルを書き込むアプリケーションに対応するディレクトリーを見つけます。この例では、それは Acrobat.exe です。

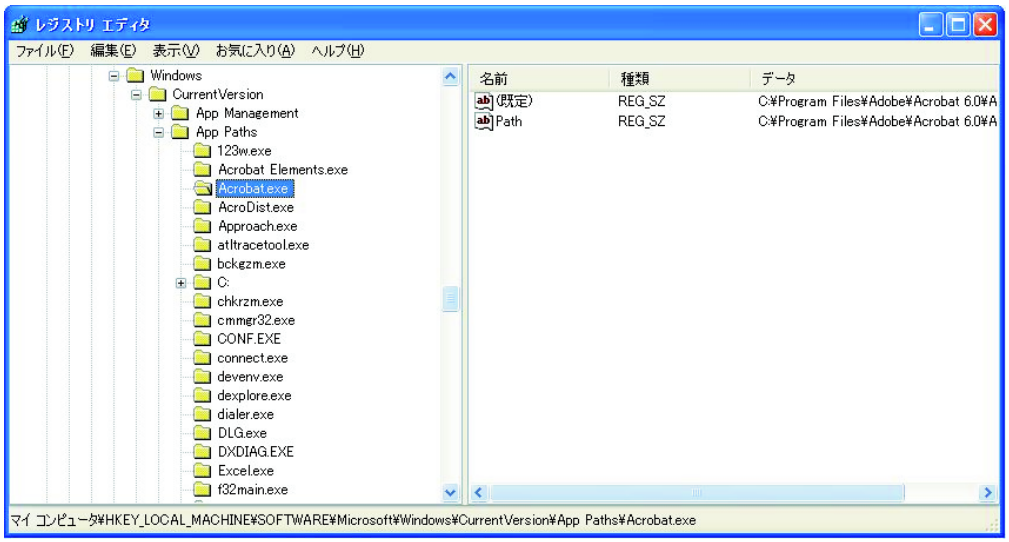

図 62. 追加アプリケーション設定の移行: 「レジストリ エディタ」ウィンドウ (インストール・パスを見つける)

   c. 該当するコマンドをアプリケーション・ファイルの「Install_Directories.ShortName」セクションに追加します。この例では、次のコマンドを入力します。

```
Win2000=HKLM,"Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥
App Paths¥Acrobat.exe
```

注: アプリケーション固有のディレクトリーが HKLM¥Software¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥AppPaths ディレクトリーに入っていない場合は、インストール・パスを含んでいるディレクトリーを、HKLM¥Software ツリー内の他のどこかで見つける必要があります。それを見つけたら、そのキーを「Install_Directories.ShortName」セクションで使用します。

8. 「Files_From Folders」セクションで、移行したいカスタマイズ・ファイルを指定します。
   a. 多くのアプリケーションは、デフォルトで、ファイルを Documents and Settings サブディレクトリーに保管しているので、Application Data ディレクトリーでこのアプリケーションに関連するディレクトリーを調べてください。それが存在している場合は、次のコマンドを使用してそのディレクトリーとファイルを移行することができます。

```
[Files_From_Folders.ShortName]
%,Location,File
```

ここで、*Location* は完全修飾のファイルまたはディレクトリーであり、*File* は、*Location* がディレクトリーを指定している場合にのみ使用できるオプショナル・パラメーターです。

Adobe Acrobat 例では、カスタマイズ・ファイルは Preferences ディレクトリーに入っています。

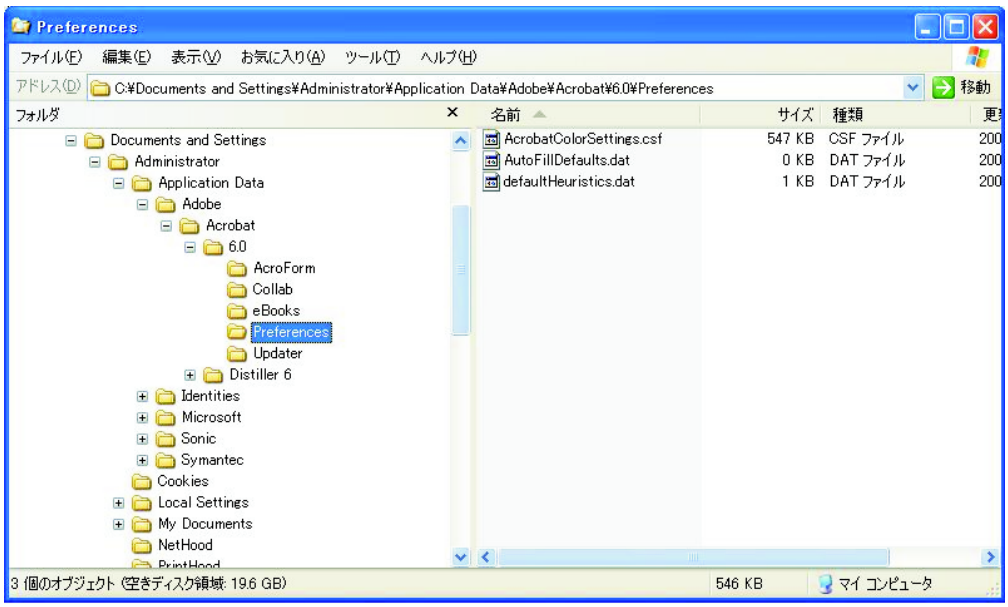

図 63. 追加アプリケーション設定の移行: 「Documents and Settings」の下に入っているカスタマイズ・ファイル

b. 個人用設定が保管されている可能性があるすべての関連ディレクトリーを調べます。

c. Local Settings ディレクトリーを調べます。

9. 移行したいレジストリー項目を決定します。それらは HKCU (HKEY_CURRENT_USER) に入っています。アプリケーション・ファイルの「Registry.*ShortName*」セクションで、該当するコマンドを追加します。
10. SMAAPP ファイルを *d*:¥Program Files¥IBM¥SMA¥Apps ディレクトリーに保管します。ここで、*d* は、ハード・ディスク・ドライブのドライブ名です。
11. 新規のアプリケーション・ファイルをテストします。

Adobe Reader 用のアプリケーション・ファイルの例

このセクションでは、Adobe Reader 用のアプリケーション・ファイルについて説明します。

```
[General]
Family= Adobe Acrobat Reader
SMA_Version= 3.1
APP1= Acrobat_Reader_50
APP2= Acrobat_Reader_60
;-----------------------------------------------------------------------------

[App_Info.Acrobat_Reader_50]
Name= Adobe Acrobat Reader 5.0
Version = 5.0
Detect_1 = HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"

[Install_Directories.Acrobat_Reader_50]
Win98=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath", "Default"
WinNT=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath", "Default"
Win2000=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath", "Default"
WinXP=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥InstallPath", "Default

[Files_From_Folders.Acrobat_Reader_50]
%AppData Directory%, Adobe¥Acrobat¥Whapi¥*.*
%Personal Directory%, *.pdf

[Registry.Acrobat_Reader_50]
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat"
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader"
HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"
HKLM, "Software¥Adobe¥Persistent Data"

[Registry_Exclude.Acrobat_Reader_50]
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer", "xRes"
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer", "yRes"

[TargetBatchProcessing.Acrobat_Reader_50]
;---------------------------------------------------------------------------

[App_Info.Acrobat_Reader_60]
Name= Adobe Acrobat Reader 6.0
Version = 6.0
Detect_1= HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0"

[Install_Directories.Acrobat_Reader_60]
Win98=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath", "Default"
WinNT=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath", "Default"
Win2000=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath", "Default"
WinXP=HKLM, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥InstallPath", "Default"

[Files_From_Folders.Acrobat_Reader_60]
%AppData Directory%, Adobe¥Acrobat¥6.0
%Personal Directory%, *.pdf

[Registry.Acrobat_Reader_60]
HKCU, "Software¥Adobe¥Adobe Acrobat"
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader"
HKLM, "Software¥ADobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer"

[Registry_Exclude.Acrobat_Reader_60]
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer", "xRes"
HKCU, "Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer", "yRes"

[TargetBatchProcessing.Acrobat_Reader_60]
if /i "%SourceApp%" == "Acrobat_Reader_50" goto Update50
goto Done
:Update50
regfix  "HKCU¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0"  "HKCU¥Software¥Adobe¥
Acrobat Reader¥6.0"
regfix  "HKLM¥Software¥Adobe¥Acrobat Reader¥5.0¥AdobeViewer"  "HKLM¥Software¥Adobe¥
Acrobat Reader¥6.0¥AdobeViewer"
:Done
```

付録 A. 移行で使用できるアプリケーション設定

この付録では、SMA で移行できるアプリケーションと設定をリストしています。オペレーティング・システム、移行シナリオ、ソース・マシンからターゲット・マシンへのアプリケーション・バージョンの変更などにより、結果が異なることがあります。

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定

アプリケーション	設定	注記
Adobe Acrobat Reader 5.0 および Adobe Acrobat Reader 6.0	• アクセシビリティ • コメント • 識別 • フルスクリーン • 更新 • Web 購買	Adobe Acrobat Reader 5.0 から Adobe Reader 6.0 に移行するとき、一部のアプリケーション設定は移行できません。
AT&T Network Client 5.0	• 一般 • 拡張電話設定	
IBM Global Network® Dialer 4.0 Windows 2000 Professional または Windows 2000 Server で稼働するターゲット・システムのみをサポートします。	• アクセス • 外観 • プログラム • ブラウザー • メール • ニュース • サーバー	
Lotus Notes バージョン 4.x、5.x、および 6.x	• デスクトップ • ID ファイル • INI ファイル • アドレス帳 • データベース • 辞書	異なるバージョン間で移行すると、一部のアプリケーション設定は移行できません。
Lotus Organizer® バージョン 6.0	• 実行項目の設定 • 連絡先 • 呼び出し • プランナー • 記念日	Lotus アプリケーションを移行するには、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされる必要があります。(Lotus Notes は例外です) いい例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥

© Copyright IBM Corp. 2004

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Lotus SmartSuite® for Windows バージョン 9.7 および 9.8	• アプローチ – 表示 – グリッド – 設計の表示 – デフォルト・ソートの保守 – データベース – 表示 – ナビゲーション – データ • Freelance Graphics® – グリッド – ビュー – 設定 • Lotus 1-2-3® – 一般 – 新規ワークブック・デフォルト – 再計算 – クラシック・キー – ビュー – 一般 – セキュリティー – 表示/非表示 • ワード処理 – 一般 – 位置 – 個人用 – 一般使用 – パフォーマンス – ビュー – 設定 • SmartCenter フォルダー・オプション (カラーおよびアイコン)	Lotus アプリケーションを移行するには、すべてのアプリケーションが同じディレクトリーにインストールされる必要があります。(Lotus Notes は例外です) いい例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Lotus¥Wordpro¥ C:¥Lotus¥Organizer¥ 悪い例: C:¥Lotus¥123¥ C:¥Program files¥Wordpro¥ D:¥Lotus¥Organizer¥
McAfee VirusScan 7.0	• 検出 • システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	McAfee VirusScan バージョン 7.0 からバージョン 8.0 への移行はサポートされていません。

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
McAfee VirusScan 8.0	• 検出 • システム・スキャン/アクション • システム・スキャン/レポート • システム・スキャン/除外 • E メール・スキャン/検出 • E メール・スキャン/アクション • E メール・スキャン/アラート • E メール・スキャン/レポート • スクリプト・ストッパー	
Microsoft Access バージョン 2000、XP、および 2003	• ツールバー • オプション • ビュー • 一般 • 検索 • キーボード • データ・シート • レポート作成 • 拡張 • 照会	
Microsoft Internet Explorer バージョン 5.0、5.5、および 6.0	• お気に入り • カスタマイズ • オプション • アクセシビリティ	
Microsoft NetMeeting バージョン 2.x および 3.x	• ビュー • 一般 • 呼び出し • 拡張呼び出しオプション • セキュリティー	
Microsoft Office バージョン 97、2000、XP および 2003 (Excel、PowerPoint、および Word)	• ツールバー • オプション • テンプレート • 保管オプション • ユーザー情報 (ツール・オプションの下)	

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook バージョン 98、2000、XP、および 2003	• フォルダー • PST ファイル (メール・ファイル) • ショートカット • ツールバー • ビュー • ツールバー • カスタマイズ・オプション • アドレス帳 • アカウント • 設定/E メール・オプション • トラッキング・オプション • カレンダー・オプション • メール・デリバリー • リソース・スケジューリング	Microsoft Outlook を Windows 98/NT から Windows 2000/XP に移行した後、ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を開始する前に、次の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. 「コントロール パネル」で「メール」をダブルクリックします。 7. 「データ・ファイル...」をクリックします。 8. 「設定...」をクリックします。 9. 「Outlook.pst が無効です.....」メッセージが表示される場合は、OK をクリックします。 10. 次のディレクトリーに進みます。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥ Local Settings¥Application Data¥Microsoft¥Outlook と進み、Outlook.pst を選択します。 (% USERNAME% は、現在ログオンするのに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メールのセットアップ」を閉じます。 12. Microsoft Outlook を開始します。 ターゲット・コンピューターで Microsoft Outlook を開始する前に上記手順の実行に失敗した場合は、Microsoft Outlook を再び移行して、この手順を実行します。

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Outlook Express バージョン 4.x、5.x、および 6.x	• 一般 • メール送信フォーマット • ニュース送信フォーマット • 送信 • 読み取り • セキュリティー • 拡張 • アドレス帳	Outlook Express 設定の移行は、フォアグラウンド・ユーザーのみにサポートされています。 Microsoft Outlook Express 4.x から Microsoft Outlook Express 5.x または 6.x に移行した後、以下の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x または 6.x を開始します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択し、次に「メッセージ...」を選択します。 9. Outlook Express 4 を選択します。 10. メッセージの場所を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥Application Data¥Microsoft¥Outlook express (% USERNAME% は、現在ログオンするのに使用しているユーザー・アカウント名です。) 11. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。 Microsoft Outlook Express 4.x/5.x/6.x から Microsoft Outlook Express 4.x/5.x/6.x へ移行した後、以下の手順を実行します。 1. 「コントロール パネル」を開きます。 2. 「フォルダ オプション」をダブルクリックします。 3. 「表示」タブを選択します。 4. 「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択します。 5. 「OK」をクリックし、次に「フォルダ オプション」ウィンドウを閉じます。 6. Microsoft Outlook Express 5.x/6.x を開始します。 7. メニュー・バーで「ファイル」を選択します。 8. 「インポート」を選択し、次に「アドレス帳」を選択します。 9. 「アドレス帳」ファイル (*.wab) を次のように指定します。 C:¥Documents and Settings¥%USERNAME%¥Application Data¥Microsoft¥address book¥%SOURCEUSERNAME%.wab (%SOURCEUSERNAME% は、ソース・システムにログオンするのに使用しているユーザー・アカウント名です。) 10. 「メッセージのインポート」ウィンドウを閉じます。

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Microsoft Project バージョン 98、2000、および 2002	• ツールバー • 設定 • 保管オプション • ファイル場所 • 最新の文書	
Microsoft Visio バージョン 2000 および 2002	• ビュー • ツールバー • カスタマイズ/オプション • 一般 • 作図 • 設定 • 拡張	
MSN Messenger バージョン 5.x および 6.x	• ツール • 個人用 • メッセージ • プライバシー • 一般 • アカウント • 接続	

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
Netscape Navigator バージョン 6.x および 7.x	• 外観 • フォント • カラー • ナビゲーター • ヒストリー • 言語 • スマート・ブラウザー • インターネット検索 • コンポーザー • 改ページ設定 • メールおよびニュース・グループ • メッセージ表示 • メッセージ構成 • インスタント・メッセージング • アドレッシング • Cookies • パスワード	Netscape Navigator を Windows 98/NT から Windows 2000/XP へと移行している場合は、以下の手順を実行します。 1. 移行の前に、ターゲット・コンピューターで C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥ にある「Mozilla」の「Profile」フォルダーを「SMABACK」と名前変更します。(%USERNAME% は、現在ログオンするのに使用しているユーザー・アカウント名です。) 2. Netscape を移行します。 3. ターゲット・システムをリブートし、次に Netscape を開始します。 4. 「メニュー」バーで「編集」を選択します。 5. 「設定」を選択します。 6. 「カテゴリ」で「詳細」を選択します。 7. 「キャッシュ」を選択します。 8. 「ディスク キャッシュ フォルダ」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥Mozilla¥Profiles¥defaults¥xxxxx.slt」に変更します (xxxxx フォルダーにはソース側と同じ名前を選択します)。 9. 「設定」を閉じます。 10. 「Netscape Mail」を開始します。「メニュー」バーで「編集」を選択します。 11. 「Mail & Newsgroups アカウントの設定」を選択します。 12. 「サーバ設定」を選択します。 13. 「ローカル ディレクトリ」名を「C:¥Windows¥Application Data¥...」から「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 14. 「ローカル フォルダ」を選択し、次に「アカウント設定」を選択します。 15. 「ローカル ディレクトリ」名「C:¥Windows¥Application Data¥...」を「C:¥Documents and Settings¥%USERNAME% Application Data¥...」に変更します。 16. すべての Netscape アプリケーションを再始動します。
Norton Antivirus バージョン 7.x	• 更新 • 頻度 • 時期 • 拡張 • ランダム・オプション	

表 15. 付録 A: 移行で使用できるアプリケーション設定 (続き)

アプリケーション	設定	注記
WinZip バージョン 8.x	• オプション • 列 • 一般 • セクション • ボタン • システム・デフォルト・フォルダー • エクスプローラー機能拡張 • コンテキスト・メニュー・コマンド • その他	

付録 B. ファイルおよびレジストリーの除外

この付録では、SMA で移行できないファイルとレジストリー項目について説明します。

ファイルとディレクトリーの除外

以下のファイルとディレクトリーはスキャン・プロセスから除外されたため、取り込むことはできません。

- pagefile.sys
- hal.dll
- ntuser.dat
- ntuser.dat.log
- ntuser.dat.ini
- system.dat
- user.dat
- bootsect.dos
- io.sys
- msdos.sys
- ntdetect.com
- ntldr
- ldr
- win386.swp
- hiberfil.sys
- boot.ini
- system.ini
- msdos.---
- command.com
- system.ini
- system.1st
- config.sys
- autoexec.bat
- *systemdir*¥config。ここで、*systemdir* はオペレーティング・システム・ディレクトリーです。
- SMA 一時ディレクトリー

また、システム・ボリューム情報もスキャンできません。このため、取り込むことはできません。

© Copyright IBM Corp. 2004

レジストリーの除外

SMA は、以下のレジストリー項目を取り込むことはできません。

- HKCU¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Explorer
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Windows NT¥¥CurrentVersion
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥sam
- HKLM¥¥security
- HKLM¥¥system¥¥ControlSet00N
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥enum
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥services¥¥Tcpip
- HKLM¥¥system¥¥currentcontrolset¥¥hardware profiles
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Microsoft¥¥Cryptography
- HKLM¥¥SOFTWARE¥¥Policies
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Class
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥Network
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Control¥¥DeviceClasses
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥RPC
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Group Policy
- HKLM¥¥Software¥¥Microsoft¥¥Windows¥¥CurrentVersion¥¥Syncmgr
- HKLM¥¥Software¥¥Classes¥¥CID
- HKLM¥¥System¥¥CurrentControlSet¥¥Services¥¥Class¥¥Net
- HKCU¥¥AppEvents
- HKCU¥¥Control Panel
- HKCU¥¥Identities
- HKCU¥¥InstallLocationsMRU
- HKCU¥¥Keyboard layout
- HKCU¥¥Network
- HKLM¥¥Config
- HKLM¥¥Driver
- HKLM¥¥Enum
- HKLM¥¥Network
- HKLM¥¥Hardware
- HKLM¥¥Security

また、最終ノードが以下のいずれかのテキスト・ストリングである場合も、レジストリー・キーを除外することはできません。

- StreamMRU
- Cache
- Enum

付録 C. ヘルプと技術支援の入手

ヘルプ、サービス、または技術支援が必要な場合や、IBM® 製品に関する詳しい情報が必要な場合は、お客様を支援するための広範囲にわたるソースを IBM から入手することができます。この付録では、IBM および IBM 製品に関する追加情報を入手するためのアクセス先、xSeries または IntelliStation® システムで問題が発生した場合の処置の取り方、および保守が必要な場合の連絡先を示しています。

電話を掛ける前に

電話を掛ける前に、以下のステップを実行して自分で問題解決を試みてください。

- すべてのケーブルをチェックしてそれらが接続されていることを確認します。
- 電源スイッチをチェックしてシステムがオンになっていることを確認します。
- システム資料に記載されているトラブルシューティングのための提案を適用します。
- システムに付属の診断ツールを使用します。診断ツールに関する情報は、IBM システム用の「*ハードウェア保守マニュアル*」および「*使用上の注意と問題判別*」にあります。
- 技術情報、ヒント、助言、および新規のデバイス・ドライバーを調べたり、情報の要求を出したい場合は、IBM Support Web サイト (http://www.ibm.com/pc/support/) にアクセスしてください。

多くの問題は、IBM のシステムやソフトウェアに付属のオンライン・ヘルプおよび説明資料に記載されているトラブルシューティング手順を実行することで、外部の支援なしに解決することができます。システムに付属している説明資料にも、お客様が実行できる診断テストについての説明があります。大部分の PC およびサーバー・システム、オペレーティング・システム、およびプログラムには、トラブルシューティング手順およびエラー・メッセージとエラー・コードの説明を含む情報が付属しています。ソフトウェアの問題だと考えられる場合は、オペレーティング・システムまたはプログラムの資料を参照してください。

資料の使用

IBM xSeries または IntelliStation システムおよびプリインストールされているソフトウェア (それがある場合) に関する情報は、システムに付属の資料に記載されています。その資料は、印刷本、オンライン・ブック、README ファイル、ヘルプ・ファイルなどで提供されます。診断プログラムの使用手順については、システム資料に記載されているトラブルシューティング情報を参照してください。トラブルシューティング情報や診断プログラムは、追加のデバイス・ドライバーや更新されたデバイス・ドライバー、その他のソフトウェアなどが必要であるということを伝える場合があります。 IBM では、ワールド・ワイド・ウェブのページを維持していますので、お客様は最新の技術情報を入手したり、デバイス・ドライバーや更新情報をダウンロードすることができます。これらのページにアクセスするには、http://www.ibm.com/pc/support/ へ進み、その指示に従ってください。

© Copyright IBM Corp. 2004

ワールド・ワイド・ウェブからのヘルプと情報の入手

IBM 製品、サービス、およびサポートの最新情報は、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) の、IBM Web サイト http://www.ibm.com/pc/support/ にあります。

ソフトウェアの保守およびサポート

IBM Support Line を通して、xSeries サーバー、IntelliStation ワークステーション、および装置に、使用や構成に関する問題、ソフトウェアの問題が発生した場合、電話による支援を無料で入手することができます。お客様の国または地域で、どの製品が Support Line によってサポートされているかについては、http://www.ibm.com/services/sl/products/ を参照してください。

Support Line と他の IBM サービスについては、http://www.ibm.com/services/ を参照するか、またはサポート電話番号について http://www.ibm.com/planetwide/ にアクセスしてください。米国およびカナダでは、1-800-IBM-SERV (1-800-426-7378) に電話してください。

付録 D. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

いくつかのソフトウェアは、その小売り版 （利用可能である場合）とは異なる場合があり、ユーザー・マニュアルまたはすべてのプログラム機能が含まれていない場合があります。

© Copyright IBM Corp. 2004

IBM は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

1-2-3	Lotus
e-business ロゴ	Lotus Notes
@server	Lotus Organizer
Freelance Graphics	ServerProven
IBM	SmartSuite
IBM Global Network	xSeries
IntelliStation	

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語，数字，英字，特殊文字の順に配列されています。なお，濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

アップグレード　4
アプリケーション設定
　移行
　　Adobe Acrobat Reader　95
　　AT&T Network Client　95
　　IBM Global Network Dialer　95
　　Lotus Notes　95
　　Lotus Organizer　95
　　Lotus SmartSuite　96
　　McAfee VirusScan　96, 97
　　Microsoft Access　97
　　Microsoft Internet Explorer　97
　　Microsoft NetMeeting　97
　　Microsoft Office　97
　　Microsoft Outlook　98
　　Microsoft Outlook Express　99
　　Microsoft Project　100
　　Microsoft Visio　100
　　MSN Messenger　100
　　Netscape Navigator　101
　　Norton Antivirus　101
アプリケーション・ファイル
　作成　90
　の例　94
アンインストール　11
　一時ファイル　11
　プロファイル・ファイル　11
　ログ・ファイル　11
移行
　アプリケーション　20
　追加アプリケーション設定　86
　適用フェーズ　2
　　ドメイン設定　32
　　要約　35
　　ログオン　32
　取り込みフェーズ
　　宛先ロケーション　24
　　オプション　16
　　オペレーティング・システム　24
　　ソース・システム　1
　　デスクトップ設定　18
　　ネットワーク設定　21
　　ハード・ディスク・ドライブ　24
移行 *(続き)*
　取り込みフェーズ *(続き)*
　　ファイルの選択　22
　　プリンター　26
　　メモ書き　29
　　要約　31
　　レジストリー項目　24
　パスワード保護　30
　ピアツーピア
　　イーサネット　65
　　サポートされるシステム　65
　　セットアップ　65
　　の定義　65
　　バッチ　71
　　標準　66
　　LAN　65
　ユーザー・プロファイル　17
　レジストリー設定
　　バッチ・モードの使用　86
　　GUI の使用　85
　ログオンについての考慮事項　13
移行シナリオ　3
インストール
　宛先　6
　コマンド・プロンプト　10
　サイレント　8
　実行可能　5
　必要な DLL　8
　プログラム・フォルダー　8
　System Migration Assistant (SMA)　5
応答ファイル
　作成　9
　の定義　8
　InstallSheild　10
　setup.iss　10

［カ行］

「階層」ページ　23
隠しファイル　9
「関連」ページ　23
構文
　規則　viii
　smabat　47
コマンド・ファイル
　構文エラー　49
　コマンド　49
　　移行上のメモ　51
　　applications　50

© Copyright IBM Corp. 2004

コマンド・ファイル *(続き)*
コマンド *(続き)*
desktop 50
editable_connectivity 52
misc_settings 51
network 50
password 49
profile_path_and_name 49
userprofiles 51
作成 48
デフォルトの場所 49
コンポーネント 1, 2

[サ行]

再配置、バッチ・ファイル 25
サイレント・インストール
使用 5
の定義 5
作業環境 1
システム要件
移行シナリオ 3
オペレーティング・システム 3
ハードウェア 2
実行可能ファイル
インストール・プログラム 5
smabat 2
商標 108
制約事項
アプリケーション設定 20
デスクトップ設定 19
ネットワーク設定 21
ユーザー・プロファイル 17
ソース・システム 1

[タ行]

ターゲット・システム 1
適用フェーズ
移行の要約 35
ドメイン設定 32
の定義 2
編集
アプリケーション設定 41
デスクトップ設定 40
ネットワーク設定 41
プリンター設定 44
ログオン 32
デスクトップ設定
アイコン・フォント 18
アクセシビリティ 18
アクティブ・デスクトップ 18
デスクトップ設定 *(続き)*
ウィンドウ・メトリック 19
「送る」メニュー 18
壁紙 19
画面 18
カラー 18
キーボード 18
サウンド 19
シェル 19
スクリーン・セーバー 18
「スタート」メニュー 19
制約事項 19
タスクバー 19
デスクトップ・アイコン 18
パターン 18
マウス 18
ドメイン設定、適用 32
取り込みフェーズ
デスクトップ設定 18
ネットワーク設定 21
の定義 1
ファイルの選択 22
プリンター 26
ユーザー・プロファイル 17

[ナ行]

ネットワーク設定
制約事項 21
取り込みフェーズ 21

[ハ行]

パスワード保護 30
バッチ・ファイル 25
バッチ・モード
移行 47
バックグラウンド・ドメイン・ユーザー 62
バックグラウンド・ローカル・ユーザー 61
適用フェーズ 61
ファイルの移行 53
smabat 構文 47
パラメーター
smabat 47
冗長ロギング 48
抽出 48
適用 47
ドメイン 48
取り込み 47, 48
パスワード 48
ログ・ファイル 48
ピアツーピア 65

ピアツーピア *(続き)*
イーサネット 65
バッチ 71
標準 66
LAN 65
標準インストール 5
ファイルの移行
コマンド 60
自動リブート 59
適用モード 59
ExcludeFile 56
ExcludeFileDescription 57
ExcludePath 56
exclude_drives 53
IncludeFile 54
IncludeFileDescription 55
IncludePath 54
例 58
ファイルの再配置 24
ファイルの選択
「階層」ページ 23
「関連」ページ 23
取り込みフェーズ 22
ファイルの検索 23
プリンター 26
プロファイル
移行の要約 31
取り込み 15
パスワード保護 30
編集と適用 36
メモ書き 29
編集
アプリケーション設定 41
選択したファイルとディレクトリー 43
デスクトップ設定 40
ネットワーク設定 41
プリンター設定 44
プロファイル 36
要約 45

［マ行］

マルチユーザー・プロファイル
移行 13

［ヤ行］

ユーザー・プロファイル
移行 17
制約事項 17

［ラ行］

リモート・インストール 5
レジストリー設定
移行
バッチ・モードの使用 86
GUI の使用 85
特殊ファイル 24
ログ・ファイル 10

A

Adobe Acrobat Reader 95
AT&T Network Client 95

C

commandfile.txt 2
config.ini 2

G

GUI (グラフィカル・ユーザー・インターフェース)
カスタマイズ
ウィンドウ表示オプション 83
ガイダンス・テキスト 76, 81
機能 73
グローバル・オプション 75, 79
警告メッセージ・ボックス表示オプション 77, 83
スプラッシュ・ページ 76, 81
全項目選択オプション 77, 83
選択オプション 76, 82
その他のオプション 79, 83
標準移行 73, 79
ファイルの選択ページ 78

I

IBM Global Network Dialer 95

L

Lotus Notes 95
Lotus Organizer 95
Lotus SmartSuite 96

M

McAfee VirusScan 96, 97
Microsoft Access 97
Microsoft Internet Explorer 97

Microsoft NetMeeting 97
Microsoft Office 97
Microsoft Outlook 98
Microsoft Outlook Express 99
Microsoft Project 100
Microsoft Visio 100
MSN Messenger 100

N

Netscape Navigator 101
Norton Antivirus 101

P

pftx~tmp ディレクトリー 9

R

ResultCode 変数 10

S

setup.iss 10
setup.log 10
SMA プロファイル・ファイル 1
smaapp 2
smabat
  構文 47
  デフォルトの場所 47
  パラメーター
    一時ディレクトリー 48
    冗長ロギング 48
    抽出 48
    ドメイン 48
    取り込み 47
    パスワード 48
    ログ・ファイル 48
smabat.exe 2
sma.exe 2
System Migration Assistant (SMA)
  アップグレード 4
  アンインストール 11
  インストール 5
  拡張機能 4
  コンポーネント 1, 2
  サイレント・インストール 8
  実行可能ファイル 5, 9
  取り込みフェーズ 1
  の定義 1
  プロファイルの作成 15
System Migration Assistant (SMA) *(続き)*
  マルチユーザー・プロファイルの移行 13
    制約事項 14

W

WinZip 102

日本アイ･ビー･エム株式会社
〒106-8711　東京都港区六本木3-2-12